

官報

號外

昭和二年一月三十日

日曜日

內閣印刷局

第五十二回衆議院議事速記録第九號

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案

東郷 實君 陣 軍吉君
逆瀬川仁次郎君
農漁村ノ金融ニ關スル建議案

昭和二年一月二十九日(土曜日)午後一時三十分開議

議事日程 第八號

昭和二年一月二十九日

午後一時開議

第一 計理士法案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 水戸鐵道株式會社、越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、苦小牧輕便鐵道株式會社及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 震災手形損失補償公債法案(政府提出) 第一讀會

第六 震災手形善後處理法案(政府提出) 第一讀會

第七 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第八 朝鮮事業公債法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第九 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十 關東州事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十一 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十二 商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十四 九州製鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十六 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十八 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(林田龜太郎君外一名提出) 第一讀會

第十九 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(東武君外二名提出) 第一讀會

第二十 北海道農地特別處理法案(丸山浪彌君外六名提出) 第一讀會

第二十一 政治運動ノ爲金品供與ノ制限ニ關スル法律案(尾崎行雄君提出) 第一讀會

第二十二 政治結社加入勸誘方法ノ制限ニ關スル法律案(關直彦君提出) 第一讀會

第二十三 議員ノ職務ニ關スル法律案(曾田義一君提出) 第一讀會

○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

民法施行法中改正法律案 大石 大君

提出者 大石 大君

地租條例中改正法律案 大石 大君

提出者 大石 大君

破産ノ身上效果ニ關スル法律案 大石 大君

提出者 大石 大君

(以上一月二十七日提出)

小池 仁郎君 一柳仲次郎君
山本 厚三君 澤田 利吉君
神部 爲藏君 手代木隆吉君
淺川 浩君
鷹野米太郎君 武藤 山治君
京都高等蠶業學校ニ製絲科設置ニ關スル建議案
提出者 川崎安之助君

市町村ノ整理改善ニ關スル建議案
提出者 荒川 五郎君

稅務官ノ待遇改善ニ關スル建議案
提出者 中野 寅吉君

大島 要三君 中野 寅吉君
菅村 大事君 金澤安之助君
比佐 昌平君 栗山 博君
佐藤富十郎君 栗山 博君

國有林野不要存置林拂下價格ニ關スル建議案
提出者 菅村 大事君

大島 要三君 菅村 大事君
紺野九右衛門君 佐藤富十郎君
中野 寅吉君 金澤安之助君
比佐 昌平君 栗山 博君
佐藤富十郎君 栗山 博君

瀧川長野原間鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 木檜三四郎君

我カ國國號ノ統一顯正ニ關スル建議案
提出者 由谷 義治君

丸龜港改築國庫補助ニ關スル建議案
提出者 三善 清之君

川内川改修速成ニ關スル建議案
提出者 三善 清之君

寺田 市正君 兒玉 實良君

東郷 實君 陣 軍吉君
逆瀬川仁次郎君
農漁村ノ金融ニ關スル建議案

提出者 松田 源治君

床次竹二郎君 松田 源治君
松浦五兵衛君 田中 隆三君
八木 逸郎君 櫻内 幸雄君
中村啓次郎君 三輪市太郎君
小川郷太郎君 牧山 耕藏君
金光 庸夫君 小橋 一太君
森 肇君

小作農保護ニ關スル建議案
提出者 松田 源治君

床次竹二郎君 松田 源治君
松浦五兵衛君 田中 隆三君
八木 逸郎君 櫻内 幸雄君
中村啓次郎君 三輪市太郎君
小川郷太郎君 牧山 耕藏君
金光 庸夫君 小橋 一太君
東郷 實君

尾道港第二種重要港灣指定ニ關スル建議案
提出者 松田 源治君

提出者 松田 源治君

家産制度制定ニ關スル建議案
提出者 松田 源治君

四國循環鐵道阿土南海岸線敷設速成ニ關スル建議案
提出者 松田 源治君

谷原 公君 大石 大君

阿波池田、川之江間鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 松田 源治君

小野 寅吉君 原田佐之治君
大石 大君 谷原 公君

阿波池田、山田間鐵道工事速成ニ關スル建議案

提出者 大石 大君 原田佐之治君 小野 寅吉君 谷原 公君 佐川松山間鐵道速成ニ關スル建議案 提出者 大石 大君 小野 寅吉君 伊野宇佐間鐵道速成ニ關スル建議案 提出者 大石 大君 大石 大君 崎山、江川崎間鐵道速成ニ關スル建議案 提出者 大石 大君 大石 大君 福三鐵道速成ニ關スル建議案 提出者 平田民之助君 原 夫次郎君 小野 寅吉君 大石 大君 原田佐之治君 多木久米次郎君 加古川改修工事完成ニ關スル建議案 提出者 多木久米次郎君 帖佐入來間鐵道敷設ニ關スル建議案 提出者 寺田 市正君 東郷 實君 兒玉 實良君 逆瀬川仁次郎君 帝國在郷軍人會國庫補助金増額ニ關スル建議案 提出者 倉元 要一君 齋原 和司君 市町村吏員優遇ニ關スル建議案 提出者 八田 宗吉君 國稅徵收交付金増額ニ關スル建議案 提出者 (以上一月二十七日提出) 八田 宗吉君 消防組經費國庫補助並消防組員優遇ニ關スル建議案 提出者 倉元 要一君 高橋熊次郎君 志賀和多利君 (以上一月二十八日提出) 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案 提出者 中野 寅吉君 關矢 孫一君 (以上一月二十九日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ 三黨首妥協ノ條件ニ關スル質問主意書 提出者 清瀬 一郎君 (以上一月二十七日提出) 長野縣警察事件ニ關スル質問主意書 提出者 齋原 和司君 (以上一月二十八日提出) [左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲 茲ニ掲載ス] 一去二十七日辭任シタル常任委員左ノ如シ 第二部豫算委員 山口 左一君 第七部豫算委員 松井 郡治君 第九部豫算委員 井出繁三郎君 一去二十七日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ 河川法中改正法律案委員 神谷 彌平君 黑田重兵衛君 傳田 清作君 齋藤 珪次君 竹原 樸一君 加藤 知正君 寺田 市正君 小島 善作君 富永孝太郎君

登錄稅法中改正法律案外三件委員 小西 和君 木槍三四郎君 淺川 浩君 神部 爲藏君 斯波 貞吉君 古原 義雄君 佐藤富十郎君 永田善三郎君 奧村 千藏君 佐藤球三郎君 西脇 晉君 武藤 金吉君 堀切善兵衛君 松本 眞平君 山本 慎平君 高橋熊次郎君 兼松寅太郎君 吉木 陽君 佐々木長治君 木暮武太夫君 吉良 元夫君 松浦五兵衛君 禰 苗代君 清水 長郷君 丹下茂十郎君 沼田嘉一郎君 曾田 義一君

國債整理基金特別會計法中改正法律案委員 松田 三德君 中谷 貞賴君 中野 實君 由谷 義治君 江藤 榮吉君 濱口吉兵衛君 浦山助太郎君

大口 喜六君 中村 清造君 高井 商二君 吉津 度君 齋藤藤四郎君 櫻内 幸雄君 井坂 豐光君 森 肇君 佐藤 重遠君 畔田 明君 清水留三郎君 金澤安之助君 建部 遜吾君 蟻川五郎作君 戶澤民十郎君 山根 儀重君 羽田彦四郎君 上笠安太郎君 山崎達之輔君 安藤 正純君 山下 谷次君 松本 君平君 廣瀬 爲久君 八木 逸郎君 熊谷五右衛門君 浦野 謙朗君 丸山 浪瀾君 土屋清三郎君 一昨二十八日若槻内閣總理大臣ヨリノ通 發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ 內務省地方局長 潮 惠之輔 內務省所管事務政府委員被仰付 謙一 鐵道省建設局長 男爵中村 佐彦 鐵道省工務局長 後藤 鐵道省所管事務政府委員被仰付 鐵道省規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ 四二靜岡縣第五區選出議員 七一 吉村 伊助君 一三九 吉木 陽君 二二六 中村 貞吉君 二四五 齋藤仁太郎君 三二八 山口 嘉七君 一昨二十八日辭任シタル常任委員左ノ如シ 第三好榮次郎君 作間 耕逸君 第五部豫算委員 古植庄一郎君 第四部豫算委員 下元鹿之助君 第五部豫算委員 昨二十八日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ 第二部選出 松山兼三郎君(山口左一君 補關) 豫算委員 山田又司君(松井郡治君補 第七部選出 關)

第九部選出 柏田忠一君(井出繁三郎君 補關) 一昨二十八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ 河川法中改正法律案(政府提出)委員 委員長 神谷 彌平君 理事 加藤 知正君 登錄稅法中改正法律案(政府提出)外三件委員 委員長 武藤 金吉君 理事 奧村 千藏君 高橋熊次郎君 清水 長郷君 國債整理基金特別會計法中改正法律案(政府提出)委員 委員長 松田 三德君 理事 由谷 義治君 高井 商二君 森 肇君 市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案(政府提出)委員 委員長 八木 逸郎君 理事 山根 儀重君 山下 谷次君 丸山 浪瀾君

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマ ス ○松田三德君 只今ヨリ國債整理基金特別會計法中改正法律案ノ特別委員會ヲ開キタ イト思ヒマス、御許シテ願ヒマス ○議長(粕谷義三君) 只今松田君ヨリ申出 ノ委員會ノ開會ノコトハ、御異議アリマセヌカ (異議ナシ)ト呼フ者アリ ○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ ス、仍テ許可致シマス、向ホ河川法中改正法律案ノ委員長ヨリ、本日本會議中ニ委員會開會許可ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ (異議ナシ)ト呼フ者アリ ○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ許可スルコトニ致シマス、尙ホ諸
問事項ガアリマス、第一部選出豫算委員富
田應之助君、第四部選出豫算委員宮崎友太
郎君、右兩君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガア
リマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ
補選選舉ヲ行ヒ届出アラシコトヲ望ミマ
ス、尙ホ高橋是清君ヨリ病氣ニ付、一月二十
九日ヨリ二月十一日マデ請假ノ申出ガアリ
マシタ、是亦許可スルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ許可致シマス、日程第一、計理士
法案ノ第一讀會ヲ開キマス、藤澤商工大臣
法案ノ第一讀會ヲ開キマス、藤澤商工大臣
第一 計理士法案(政府提出) 第一讀會
計理士法案

第一條 計理士ハ計理士ノ稱號ヲ用ヒテ
會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、
計算、整理又ハ立案ヲ爲スコトヲ業ト
スルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ計理士タ
ル資格ヲ有ス
一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所
ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ
私法上ノ能力者タルコト

二 計理士試験ニ合格シタルコト
計理士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前
條第一項第二號ノ規定ニ拘ラズ計理士
タル資格ヲ有ス
一 會計學ヲ修メタル經濟學博士又ハ
商學博士

二 帝國大學若ハ大學令ニ依ル大學ニ
於テ會計學ヲ修メ學士ト稱スルコト
ヲ得ル者又ハ專門學校令ニ依ル專門
學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シ
タル者
三 主務大臣ニ於テ前號ニ掲グル學校

ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ會計
學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ計
理士タル資格ヲ有セズ
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但
シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラ
レタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ
其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタ
ル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者
又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一
年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此
ノ限ニ在ラズ

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十
一條又ハ第十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處
セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又
ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リ
タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル
者ハ此ノ限ニ在ラズ

三 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者
四 計理士ノ業務ヲ停止ノ期間中其ノ
業務ヲ廢止シ未ダ其ノ期間ノ經過セ
ザル者
五 計理士ノ業務ヲ禁止ノ處分ヲ受ケ
タル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨ
リ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於
テ改悔ノ情顯著ナリト認メタル者ハ
此ノ限ニ在ラズ

第五條 計理士タラントスル者ハ計理士
登録簿ニ登録ヲ受タルコトヲ要ス
計理士ノ登録ニ關スル事項ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第六條 計理士ノ登録ヲ受ケントスル者
ハ登録料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ
第七條 計理士ハ其ノ業務ヲ公正ニ行フ
ニ支障アリト認メラルル事項ニ付計理
士ノ業務ヲ行フコトヲ得ズ

第八條 計理士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス
第九條 計理士本法ノ規定ニ違反シタル
トキ又ハ品位ヲ失墜スベキ行為若ハ業
務上不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ主務
大臣ハ計理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ
之ヲ懲戒スルコトヲ得

計理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令
ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 計理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種ト
ス
一 譴責
二 一圓以下ノ過料
三 一年以内計理士ノ業務ヲ停止
四 計理士ノ業務ヲ禁止
前項第二號ノ過料ヲ完納セザルトキハ
主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス
非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前
項ノ規定ニ依リ執行ニ付テ之ヲ準用ス
第十一條 計理士又ハ計理士タリシ者故
ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知
得タル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルト
キハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰
金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ
第十二條 計理士タル資格ヲ有セズシテ
計理士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下
ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十三條 計理士タル資格ヲ有スルモ其
ノ登録ヲ受ケズシテ計理士ノ業務ヲ行
ヒタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料
ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百
八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ準用
ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六
號布告刑法ノ二年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セ
ラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ
刑ニ處セラレタル者ト看做ス
本法施行ノ際迄引續キ一年以上會計ニ關
スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ
立案ノ業務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ
日ヨリ六月以内ニ出願シタルトキニ限リ
第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラズ計理
士試験委員ノ銜ヲ經テ計理士タルコト
ヲ得

帝國大學、大學令ニ依ル大學若ハ專門學
校令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ
之ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ經濟ニ

關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタ
ル者ニシテ引續キ三年以上會計ニ關スル
検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立
案ノ業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施
行ノ日ヨリ五年以内ニ出願シタルトキニ
限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラズ
計理士試験委員ノ銜ヲ經テ計理士タル
コトヲ得

〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕
○國務大臣(藤澤幾之輔君) 計理士法案ノ
提案ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、經濟界ノ
發達ト共ニ、會計ニ關スル事務ハ各種事業
ノ經營上、極メテ重要ノ價值ヲ有スルニ至
リマシタ、而モ漸次複雑多岐ニ互リツ、ア
ルノデアリマス、隨テ是ガ爲ニハ特ニ專門
ノ知識並ニ經驗ヲ有スル者ノ力ニ俟タンケ
レバナラズモノガ少クナイノデゴザリマ
ス、現ニ此種ノ事業ヲ職トシテ居リマス者
ガ年ヲ逐ウテ増加致シマスル趨勢ニ在ルノ
デアリマス、故ニ此際計理士法制度ヲ法制
ノ上ニ認メマシテ、其資格ヲ一定スルト共
ニ、其職責ノ重大ナルニ鑑ミ、其職務ヲ執
行ニ付テモ、適當ナル統制監督ヲ行フコト
ガ至當デアラト云フノデ、此法案ヲ提出致
シマシタノデアリマス、ドウカ御審議ノ上
ニ御協賛ヲ賜リタク願上ゲマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテ質疑ノ
通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス、谷原
公君

〔谷原公君登壇〕
○谷原公君 私ハ只今上程セラレマシタ計
理士法案ニ付キマシテ、其根柢ニ涉ル一、
二ノ問題ヲ簡單ニ御聞キシタイノデアリマ
ス、本法ニ於キマシテ此計理士ノ自治ヲ公
認シテナイト云フ理由ハ那邊ニ在ルカト云
フコトガ、先ツ第一ニ承リタイノデアリマ
ス、只今御提案ノ理由ヲ聞キマスルト、所
謂其統制並ニ監督ノ上ニ於テ本法ヲ制定ス
ル必要ガアルト云フコトヲ言ハレテ居ルノ
デアリマス、統制監督ノ上ニ於テ本法ガ必
要デアリタル致シマシタナラバ、此計理士御
互ノ間ニ於キマシテ、自治的ノ組織ヲ以テ
常ニ相研究シ、或ハ相共ニ地位ノ向上ヲ圖

官報號外 昭和二年一月三十日 衆議院議事速記第九號 計理士法案 第一讀會

リ、又其品位ヲ保持スルコトニ、相互共同
 的ニ努メテケレバナラヌト思フノデアリマ
 ス、斯様ナ制度ハ古イ辯護士法ニ規定サレ
 テ居リマスルコトハ勿論、大正十年ニ出來
 マシタ辨護士法ニ於キマシテモ明ニ認メラ
 レテ居ルノデアリマス、デ統制或ハ監督ニ
 付キマシテ、事件或ハ問題ガ起テカラ後
 ニ之ヲ監督スルガ如キハ、甚ダ價値權威ノ
 少イモノデアリマス、事前ニ於キマシテ御
 互ガ相共ニ切磋琢磨シ、而シテ其技術ノ方
 面ニ於キマシテモ、或ハ地位品位ノ上ニ於
 キマシテモ、共ニ相戒メテ參リマシタナラ
 バ、ソレデ立派ニ監督ニナル、其監督タル
 ヤ日常不斷ノ監督デアリマスルガ故ニ、價
 値モ權威モ亦多イコト、思フノデアリマ
 ス、然ルニ拘ラズ本法ニ於キマシテハ計理
 士會、即チ計理士ノ自治組織ニ關スル規定
 ガ全然無イノデアリマス、是ハ計理士ガ計
 理士會ヲ組織スルダケノ、或ハ能力ガナ
 ト云フノデ斯様ニサレタノデアリマセウ
 カ、若クハ其必要ナシトシテ關如ヲサレタ
 ノデアリマセウカ、此點ニ付キマシテハ甚
 ダ私ハ疑フ持ツノデアリマス、殊ニ辨護士法
 ノ如キハ辨護士會ヲ法人トシテ人格ヲ認
 テ居ルノデアリマス、此計理士法ニ於キマ
 シテ計理士會ト云フモノニ、法人格ヲ與
 ルト云フヤウナコトニ迄ナリマシタナラ
 バ、或ハ財産ヲ所有スルコトモ出來マセウ
 シ、又其會ノ運用ノ上ニ於キマシテモ多
 ナ便利ガアルコト、思フノデアリマス、互
 ニ研究スルト云ヒマシテモ、今日ノ經濟制
 度カラ考ヘマシタナラバ、矢張財の要件ガ
 必要ナノデアリマス、財の要件ガ必要ト
 シマスルナラバ、御互ノ研究ノ爲メ、地位
 ノ保持ノ爲ニハ、矢張其團體ノ人格ヲ以テ
 財産ノ所有支配ガ出來ルヤウナ組織ニスル
 コトガ、最モ時宜ニ適シタコト、思フノ
 デアリマス、然ルニモ拘ラズ其點ガ本法ニ
 於テハ全然缺クテ居ルノデアリマスカラ、
 斯様ナ制度ヲ認メナイ、詰リ自治ノ組織ト
 云フモノヲ本法ニ於テ公認シナイ所ノ根本
 理由ニ付テ伺ヒタイノガ一點デアリマス、
 次ニ今一點、此計理士ヲ司法若クハ行政ノ

方面ニ於テ、補助機關トシテ色々ナ事務ニ
 従事サス必要ヲ政府ハ認メルノデアルカ、
 或ハ認メナイノデアルカ、今日ノ經濟上ノ
 取引ハ頗ル複雑デアリマスカラ、先程大臣
 ガ言ハレマシタヤウニ、色々ノ方面ニ於テ
 計理士ヲ利用スル所ノ必要ガアルノデアリ
 マス、殊ニ此民事、刑事ノ方面ニ於キマシ
 テハ、計理士ノ知識ト技術ヲ借ルコトガ頗
 ル多イノデアリマス、例ヘバ破産事件ノ如
 キ、或ハ又會社ノ検査ノ如キ、是ハ從來多
 ク辯護士ヲ以テ當テ、居リマスルケレド
 モ、計數上ノ問題ニ付キマシテハ、辯護士
 ハ頗ル疎イノデアリマス、寧ロ此計理士
 ヲ利用スルコトニ依リマシタナラバ、十分
 其目的ヲ貫徹スルコトガ出來ルト思フノ
 デアリマス、尤モ破産法等ノ規定ニ依リマ
 スレバ、管財人ニ任命サレタ者ハ、是ハ故ナ
 クシテ辭スルコトガ許サレテハ居リマセウ
 ケレドモ、此會社ノ検査役ノ如キデアリ
 シタナラバ、任命セラレマシテモ、必シモ
 之ニ服セナケレバナラナイト云フ義務ハナ
 イノデアリマス、デアリマスカラ計理士ヲ
 斯様ナ場合ニ利用スルコトヲ、若シ豫定セ
 ラレルナラバ、計理士ノ登錄ト同時ニ、矢
 張官公署ノ命令或ハ囑託ニ對シマシテハ、
 此命令服從ノ關係ニ於テ、當然事務ヲ執行
 シナケレバナラヌ所ノ義務ヲ、本法ニ於テ
 課シテ置ク必要ガアルト思フノデアリマス、
 他ノ法制ヲ見マシテモ、矢張其命令服從ノ
 關係ニ於テ、義務的ノ囑託或ハ命令ヲ受ケ
 ナケレバナラヌヤウナコトニナツテ居ルノ
 デアリマスガ、本法ニ於キマシテハ單ニ普
 通ノ營業者ナルガ如ク、別ニ左様ナ義務ヲ
 認メテナイノデアリマス、尤モ懲戒ノ規定
 ハアリマスルケレドモ、ソレハ唯、秩序罰
 トシテ認メタノミデアリマシテ、其根柢タ
 ル所ノ立法事項ガ見エナイノデアリマス、
 是ハ若シ計理士ト云フ者ヲ今迄述べマシタ
 ヤウナ場合ニ、命令囑託等ニ依リマシテ、
 當然義務トシテ執務ヲサスノデアリマシタ
 ナラバ、ソレ等ニ對スル法制ガ必要ト思ヒ
 マスルノデ、是等ニ對スル政府ノ御意見ノ
 在ル所ヲ承リタイノデアリマス

〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕

○國務大臣(藤澤幾之輔君) 谷原君ニ御答
 フ致シマス、第一ニ御質問ハ計理士ヲ辯
 護士若クハ辨護士ノ如クニツノ團體トシ
 テ之ヲ認メシメル、即チ辯護士會ノ如クニ
 計理士會ヲ設クルコトヲ何故ニ許サスノ
 デアルカ、或ハ許サスカト云フヤウナ意味
 ニ於テ御尋デアッタト思ヒマス、然ルニ
 辯護士或ハ辨護士ト云フモノハ、御承知ノ
 通り各地方裁判所デアルトカ、或ハ特許局
 デアルトカ云フ中心ノ場所ヲ持テ居ルノ
 デアリマス、所ガ計理士ト云フモノハ各
 都市ニ散在シテ居ルノデアリマシテ、大キ
 イ都市ニハ相當ニアリマスケレドモ、小サイ
 都市ノ如キ若クハ田舎ナドニ至リマシテ
 ハ、有ル所モアリ、無イ所モアリ、ソチコ
 チニ散在致シテ居ルノデアリマスカラ、強
 制ニ計理士會ヲ設ケサセルト云フヤウナ
 コトハ、ドウモ今日ノ所ニ於テハ無理ダト
 考ヘテ居ルノデアリマス、追々世ノ中ガ進
 ミマシタナラバ、或ハサウ云フ時期ガ到來
 スルヤウニナルカモ知レナイト存ズルノ
 デアリマスガ、今日ノ所デハ之ヲ認メナイコ
 トニ致シテ居ルノデアリマス、ソレカラ第
 二ノ御尋ネ、司法行政ノ補助機關トシテ之
 ヲ用ヒルカ否カト云フ點ニ付テ御尋デア
 リマスガ、是モ矢張同ジヤウナ御答ヲス
 ルノデアリマスガ、今日ノ場合ニ於キマシ
 テハ、未ダ之ヲ考慮シテ居リマセヌノデア
 リマス、他日ハ別ノ事デアリマス、是ダケノ
 コトヲ申上ゲマス

○議長(粕谷義三君) 土屋清三郎君

○土屋清三郎君 簡單デアリマスカラ此席
 カラ御許シテ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 許シマス

○土屋清三郎君 第四條ノ三、破産者ニシ
 テ復権ヲ得ザル者ニ對シテハ計理士タル資
 格ヲ與ヘナイト云フコト、是ハ如何ナル理
 由カラデアリマスカ、此點ヲ御尋ネ致シタ
 イノデアリマス

〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕

資格條件ヲ規定致シテ居ルノデアリマス
 ガ、破産者ニシテ復権ヲ得ザル者ト云フ箇
 條ハ、是ハ辯護士法其他色々ナ法律ニ、斯
 様ナ性質ノモノニハ、復権致シマセヌ以上
 ハ其資格ヲ與ヘナイコトニ致シテ居ルノ
 デアリマシテ、要スルニ計理士法ト云フモノ
 ハ御承知ノ通り、會社其他他人ノ財産ニ立
 入ッテ是等ヲ検査スル等ノ重要ナル職務ヲ
 持ッテ居ルノデアリマスカラ、破産ヲ致シ
 マシテ、サウシテ向ホ是ガ復権ヲ受ケテ居
 ナイト云フヤウナ者ハ、ドウモ信用ノ上ニ
 於テ關如シテ居ル所ノモノガ少クナイノ
 デアリマスカラ、斯様ナ者ニ斯様ナ資格ヲ與
 ヘルト云フコトハ穩當デアアルマイ、斯様ナ
 意味デ之ヲ無資格者ノ中ニ入レテ居ルノ
 デアリマス

〔土屋清三郎君登壇〕

○土屋清三郎君 只今大臣カラノ御答辯ニ
 對シマシテ、私ハ現内閣ノ思想ニ對シテ聊カ
 疑ヲ生ジマシタガ故ニ、改メテ茲ニ御尋
 致シマス、申上ゲルマデモナク破産者ニ對
 シテ公私ノ權利能力ヲ剝奪スルト云フコト
 ハ、破産ニ對シテ懲戒主義ヲ執リ來ッテ所
 ノ羅馬法以來ノ舊思想ニ基ツクモノデアリ
 マシテ、此思想ニ支配サレテ會社ハ我國ノ
 舊商法、破産編モ亦此懲戒主義ニ基イテ立
 法セラレテ居リマシタコトハ申上ゲマデモナ
 イコトデアリマス、併ナガラ近世ニ至リマ
 シテ、破産手續ハ總テノ債權者ノ利益ノ爲
 ニ、債務者ノ一切ノ財産ニ對スル一般強制
 執行デアルト云フ意義カラ致シマシテ、懲
 戒主義ヲ捨テ、破産ノ爲ニ身分上ノ效果ニ
 影響ヲ及ボサナイト云フコトガ、近代ノ立
 法ノ思想ニナツテ居ルト承テ居リマス、現
 ニ獨逸ノ新破産法、又先年公布セラレタル
 所ノ我國ノ破産法モ此主義ノ下ニ立法セ
 ラレマシテ、舊法ニ依ッテ破産ノ宣告ヲ受
 ケマシタ者モ、特別ノ法令ニ依リ規定ヲ除
 クノ外ハ、當然是ガ爲ニ身分上ノ效果ニ影響ヲ
 及ボサナイコトニナツテ居ルノデアリマス、
 元來破産ナルモノハ今日ニ於テハ社會上避
 クベカラザル所ノ現象デアリマシテ、其原
 因ハ必シモ破産者其者ノ不都合カラバカリ

デハアリマセヌ、天災地變避クベカラザル所ノ災厄、或ハ經濟上ノ急激ナル變化ニ依リマシテ、何等其人ニ過失ガ無イニモ拘ラズ、遂ニ破産スルト云フガ如キ、其事情ニ於テハ洵ニ同情スベキ憐ムベキモノガ少クナイノデアリマス、隨テ之ニ對シテ直接ノ效果トシテ其者ノ公私ノ權利能力ヲ剝奪スルト云フコトハ、不當モ亦甚シト私ハ信ズルノデアアル、殊ニ今日普通教育ガ最良ノ成績ヲ以テ普及セラレ、恒産無キ者恒心無シト云フコトハ、今日ニ於テハ言ハレナイノデアリマス、況ヤ普通選舉ガ布カレタ結果トシテ、貧困ニシテ公私ノ救助ヲ受クル者ヲ除キマシテハ、等シク國政ニ參與スル所ノ資格ヲ得テ居リマスル今日、斯ノ如キ舊思想ノ遺物タル懲戒主義ノ立法ト云フモノハ、斷然之ヲ排斥シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、私ハ此意味ニ於キマシテ現ニ本日破産ノ身上效果ニ關スル法律案ヲ提出致シマシテ、舊思想ノ遺物タル所ノ懲戒主義ノ下ニ立案セラレタル破産上ノ影響ヲ一切抹殺シヤウト考ヘテ居リマスル此矢先キ、偶、政府ヨリ之ヲ提出セラレマシタノデ、茲ニ之ヲ質サシムル得ナイノデアリマス、問題ハ唯、一計理士ノ身分ニ關スルモノ、ミデハアリマセヌ、普通選舉ノ思想ト全ク相扞格シタル所ノ時代錯誤ノ立法デアルト考ヘルノデアリマス、現内閣ガ眞ニ普通選舉ノ主義ヲ理解シ、且ツ之ヲ徹底セントスルナラバ、須ラクスノ知キ箇條ハ之ヲ削除シテ然ルベキデアリマス、政府ハ更ニ反省サレテ之ヲ削除スル所ノ御意思ガ無イカドウカ、改メテ御尋ヲ致スノデアリマス

マシテ、其資格ヲ一定シテ社會ノ信用ヲ一層高メントスル時ニ當リ、破産者ガ尙ホ其資格ヲ有スルト云フコトニ致シマスコトハ、如何ナモノデアラウカト云フコトハ、是ハ當然起ラナケレバナラヌ所ノモノデアリマシテ、政府ハ是ハ資格ノ中カラ除ク方ガ穩當デアアル、適當デアラウ、斯ウ云フ意味デ之ヲ除イタルデアリマス、只今承リマスレバ、全ク一家ノ御意見デアリマシテ、傾聽ニ値スルモノデアナイ譯デアリマセヌケレドモ、政府ガ此法ヲ制定シタノハ、只今申上ゲマシタ趣旨ニ依ルノデアリマス

〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕
○國務大臣(藤澤幾之輔君) 破産者ハ一般社會ノ信用ヲ缺イテ居ルモノデアアルコトハ申スマデモナイ事デアリマス、併ナカラ只今御意見ノ如クニ、破産者ノ中ニハ全ク憐ムベキ者、氣ノ毒ノ者ノアルコトハ、ソレハ相違ナイコトデアリマスケレドモ、併ナカラ是等ハ例外ニ屬スベキコトデアアルノデアリマス、苟モ計理士法ヲ茲ニ制定致シ

○議長(粕谷義三君) 許シマス
○吉良元夫君 政府ガ此度御提出ニナリマシタ計理士法案ハ、洵ニ明瞭ナモノデアリマシテ、第一條ニ規定セラレテ居リマスル通りニ、會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ヲ爲ス者ヲ稱スルノデアリマス、然ルニ此計理士ト申シマスル字面ハ、私不肖ニシテ國語、漢文等ニ於テ通例ノ場合多ク見マセヌ字デアリマス、此計理ノ文字ハ陸軍等ニ於テハ、經濟ノ經ノ字ヲ書イテアルノデアリマス、又一般ノ如キ場合ニ用ユル文字ハ會計ト稱シテ、之ヲ一般ノ二稱シテ居ルノデアリマス、凡ソ國法ヲ立テマスルニハ、國民ノ普通ノ人ガ一見シテ直ニ明瞭ニ了解シ得ベキ文字ヲ用ユルノガ、國法ヲ立ツルニ當リテ至當ナコト、私ハ信ズルノデアリマス、政府ハ何故ニ此新字面、即チ普通ノ場合ニ於テ多ク國民ガ見ナイ計理士ト云フ、計算ノ計ノ字ヲ書イテ、下ニ理學士ノ理ノ字ヲ書イテ計理士ト云フ法案ヲ御出シニナタノデアアルカ、私共ガ考ヘル所ニ依リマスレバ、此法案ヲ優美ニ見レバ、經濟ノ經ノ字ヲ書イテ、下ニ理ノ字ヲ書イタ方ガ優美ニ見エ、又率直ニ考ヘル所カラ云ヘバ、會計士ト云ウテ立派ニ意味ガ通ズルノデアアル、極ク平凡ナ事デアリマスケレドモ、法律ハ極メテ普通ノ人ガ了解スル文字ヲ用ユルノガ至當デアアルト思ヒマスカラ、此疑點ヲ御尋

スルノデアリマス
〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕
○國務大臣(藤澤幾之輔君) 吉良君ニ御答致シマス、會計士ト云フ職名ガ既ニ廣ク用ヒラレテ居リマス、ソレデ今此法案ニ於テ會計士ノ名稱ヲ直ニ採ラシメテ致シマスト云フト、ソレト衝突スル虞ガアル、ソレハバカリデ御答スルノデアリナイ、ソレハ會計士ト云フ、唯、名ノ上ニ付テ簡單ニ一言致シタニ過ギナイノデアリマスガ、計理ト云フ言葉ハ世ノ中ニ用ヒラレテ居ルノデアリマシテ、計理ノ意味ハ單ニ計算ト云フ意味ト違、テ居リマシテ、會計學ノコトヲ商科大學等デハ計理學ト稱ヘテ居ルヤウナ譯デアアルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、今日新ニ法制ヲ出シマスニ當リマシテ、現ニ世ノ中ニ行ハレテモ居リ、又學校等デモ計理學ノ名前ヲ用ヒテ居ルモノモアル、ソレカラ會計士ト云フノハ他ニ世ノ中ニ廣ク用ヒラレテ居ルノデアアルカラト云フコトモ、彼此レ參酌致シマシテ計理士ト致スノガ一番適當デアアルノデ、斯ウ云フコトニ致シタルデアリマス

○議長(粕谷義三君) 是ニテ質疑ヲ終リマシタ、日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス
第二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉
○砂田重政君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三、水戸鐵道株式會社、越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、若小牧輕便鐵道株式會社、及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、井上鐵道大臣

輕便鐵道株式會社及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
水戸鐵道株式會社、越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、若小牧輕便鐵道株式會社、及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案
水戸鐵道株式會社、越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、若小牧輕便鐵道株式會社、及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

○國務大臣(子爵井上匡四郎君) 只今議題トナリマシタル法律案ノ說明ヲ致シマス、水戸鐵道株式會社、越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、若小牧輕便鐵道株式會社、及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル必要ガアリマスルノ點、右買收ノ爲メ公債ヲ發行スル法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何レ詳細ハ委員會デ說明致シマスガ、何卒御協賛アラントコトヲ希望致シマス
○議長(粕谷義三君) 是ヨリ質疑ヲ許シマス、大園榮三郎君
〔大園榮三郎君登壇〕
○大園榮三郎君 本案ニ付キマシテ二三ノ點ニ關シ、政府當局ノ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス、第一ハ本五鐵道買收法案ト、政府ノ提出セラレテ居ル所ノ鐵道數設法中改正法律案トノ關係ニ付テ、アリマス、政府ハ本案ト前後シテ鐵道數設法中改正法律案ヲ提出セラレマシテ、現ニ本日ノ日程ニ掲上サレテ居リマス、即チ之ニ依リテ見レバ、政府ハ新ニ二本ノ鐵道線路ヲ選擇シテ、之ヲ豫定線ニ線入レントスル計畫デアアルノデアリマスガ、此買收鐵道ト只今申シマシタル所ノ六本ノ線路ノ中ニハ、密接離ルベカラザル關係ガアルト存ズルノデアリマス、例ヘバ越後鐵道株式會社ノ鐵道ノ買收ニ付テハ、政府ノ豫定線トセラレントスル所ノ、新潟縣白山カラ新發田ニ至ル鐵道ノ如キモノハ、最モ密接ナル關係ヲ有

第三 水戸鐵道株式會社、越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、若小牧輕便鐵道株式會社、及日高拓殖鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、井上鐵道大臣

スルト信ズルデアリマス、而シテ是等ノ六本ノ鐵道ハ、果シテ今日ニ於テ豫定線ニ之ヲ選擇スルノ可否ニ付テハ、隨分議論ノ存スル所ガアルデアラウト信ズルデアリマス、例ヘバ只今ニ於テ新潟ヨリ新發田ヲ經由シ村上ニ至リ、酒田、秋田ニ通ズル幹線ハ、是ハ裏日本ニ於ケル一大交通ノ根本線トナシテ居リマスルガ、政府ハ新ニ信濃川ニ長大ナル鐵橋ヲ架ケ、白山ヨリ新發田ニ直通スル線路ヲ豫定線ニ入レヤウトシテ居ルデアリマス、昨年ノ議會ニ於テ下詢訪鹽尻間ニ、二百三十餘万圓ヲ投ジテ新ニ直通線ヲ設ケヤウトシタル政府ノ計畫ニ付テハ、當衆議院ニ於テ隨分ヤカマシイ問題トナシテ居ルデアリマス、此下詢訪鹽尻間ニ比シテ、尙ホ急務トモ認ムベカラザル所ノ白山新發田間ノ直通線ヲ、四百六十二万圓ノ豫算ヲ以テ之ヲ建設セントスルノハ、果シテ是ガ鐵道現今ノ狀態ニ於テ、急務ヲ要スル事柄デアリヤ否ヤ、頗ル疑問トスル所デアリマス、故ニ私ハ第一ニ政府ニ伺ヒタイノハ、若シ衆議院ニ於テ鐵道敷設法中改正法律案ヲ否決シタル場合ニ於テ、尙ホ政府ハ本買収法案ヲ實行セント欲スルカ、將又直ニ之ヲ撤回スルノデアルカ、之ヲ第一ニ伺ヒタイノデアリマス、第二ニハ政府ノ豫定線路中、此建設ニ著手セシガ爲ニ、別ニ建設費ノ協賛ヲ求メテ居ル線路ガアル、ソレ等ノ線路ト此買収鐵道會社所屬ノ鐵道ト、密接ノ關係ヲ有セルモノガアリマス故ニ、議會ニ於テ政府ノ建設線路ヲ不急ノ事業ト認メテ、此豫算ヲ削除シタル場合ニ於テハ、同ジク政府ハ本買収法案ヲ撤回スベキモノト信ズルデアリマスルガ、政府ノ運命如何ニ拘ラズ、尙ホ買収ヲ實行セントスル御考デアリカ、之ヲ第二ニ伺ヒタイノデアリマス、第三ニハ鐵道會計ノ現在ノ狀態、政府ノ鐵道公債ニ對スル政策、並ニ本鐵道買収ノ爲ニ交付スベキ所ノ公債ト、此三者ノ關係ニ付テ伺ヒタイノデアリマス、昨年ノ議會ニ於テ、私ハ政府ノ鐵道

豫算ノ編成ガ頗ル杜撰ナルガ爲ニ、即チ公債ノ額ヲ成ベク少額ナラシメンガ爲ニ、益金ヲ過大ニ見積リ、是ガ爲ニ數年ニ亙ル繼續事業年度割ノ劈頭ニ於テ、鐵道收入ニ於テハ一千六百萬圓ノ缺陷ヲ生ジ、隨テ益金ニ一千萬圓ノ減收ヲ見ルニ至リタル、之ニ付テ政府ノ所見ヲ質シマス、所ガ時ノ鐵相仙石君ハ、十四年度ノ豫算ハ、特ニ他ノ年度ニ比シテ減收ヲ來シテ居ル、是ハ甚ダ不思議ノ現象デアラフガ、次年度ヨリハ、的確ニ、世ノ經濟——世間ノ經濟狀態ニ適合シ、且又收支ノ計算ノ齟齬セザル所ノ豫算ヲ作ルコトニ努力スルト云フコトヲ述ベラレタノデアリマス、然ルニ本年度ノ收支ノ見込ハ如何デアリマセウ、減收ニ次ク減收ヲ以テシテ、現在ニ於テ既ニ收入豫算ニ於テ、二千三百萬圓ノ缺陷ヲ生ジテ居ル、益金ニ於テ一千百萬圓、若クハ二百萬圓ノ減收ヲ見ナケレバナラヌコトナシテ居ルノデアリマス、且又政府ノ、鐵道ノ公債ニ對スル政策トシテハ、成ベク此公債額ヲ減少スルト云フコトヲ以テ、現内閣ノ方針トセラレテ居ルデアリマス、然ルニモ拘ラズ、今不急ノ鐵道買収ノ爲ニ、約二千萬圓ノ巨額ノ公債ヲ以テ、是ガ買収ヲ實行セントスルノハ、果シテ政府ノ鐵道政策ニ付テ矛盾スル所ガナイデアリマセウカ、此點ニ付テ政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、次ニ去ル五十議會ニ於テ、政府ハ鐵道建設ニ對スル在來ノ計畫ヲ變更シ、八十有餘ノ線路ニ對シ、大ナル變更ヲ加ヘタノデアリマス、或モノハ著手期限ヲ延長シ、或モノハ竣工期限ヲ繰下ゲ、或モノハ又著手並ニ竣工期限ヲ繰下ゲテ今日ニ及ンデ居ルノデアリマス、故ニ國民ノ要望スル所ハ、政府ニ於テ公債ノ募集ニ容易ナル時、或ハ又他ノ資金ノ融通ノ途ガ付イタ時ニハ、是等ノ線路ノ著手若クハ竣工ヲ繰上ゲラレシメテ希望スルノハ、是ハ國民ノ當然ノ要求デアアル、政府トシテモ亦是等ノ線路ニ對シテソレト、適當ナル方法ヲ講ズルノガ、是亦政治上ノ德義デアルト信ズルデアリマス、然ルニモ拘ラズ、一面ニ於

テハ不急ノ事業ノ爲ニ二千萬圓以上ノ公債ヲ募集シテ、民間ノ經營スル所ヲ、之ヲ政府ノ手ニ移ス何ノ國民ガソレニ對シテ痛痒ヲ感ズルデアラウカ、水戸鐵道株式會社ガ安田ノ手ニ於テ經營サレテ居ルデモ、或ハ之ヲ政府ノ手ニ移シテ國民ニ何ノ關係ガアルカ、越後鐵道ガ新潟縣下ノ富豪ノ手ニ依リテ經營サレテ居ルモ、之ヲ國有ニ移シテ國民ニ何ノ利益ガアルカ、斯ノ如キ無用ノ政策ヲ實行セントスルノハ、政府ノ方針トシテ斷然誤リタモノト見ナケレバナラヌト存スルノデアリマス、最後ニ信濃川ノ發電所ノ計畫ニ付テハ、昨日豫算委員會ニ於テハ或ハ若宮君、或ハ岩切君ヨリ質問ガアリマスガ、尙ホ此際此議場ニ於テ政府當局大臣ノ明確ナル御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、即チ政府ハ來年度ヨリ五十萬圓ヲ支出シテ、信濃川ノ發電所ノ建設ニ著手セラレル計畫デアリマスルガ、金額ニ於テハ約八千萬圓ヲ要スル大事業デアルト信ズルノデアリマス、昨今民間ニ於テ或ハ電力過剩ノ點ヨリ、或ハ又資本ニ重投下ノ點ヨリ、或ハ又民業壓迫ノ見地ヨリ反對ノ議論ガ鬱々タルヲ見テ居リマスガ、政府ハ是等ノ民間ノ反對論ニ耳ヲ藉サズシテ、其趣旨ヲ實行セラレントスル考デアルヤ否ヤ、以上ノ諸點ニ付テ特ニ鐵道大臣ノ明確ナル御答辯ヲ煩シタイト思フノデアリマス(拍手)

○議長(稻谷義三君) 井上鐵道大臣

○工藤鐵男君 豫算委員會ヲ開キマスカラドウ委員室ニ御參集ヲ願ヒマス

(國務大臣子爵井上臣四郎君登壇)

○國務大臣(子爵井上臣四郎君) 只今ノ大圓君カラノ御質問ニ御答申上ゲマス、第一ノ御質問ハ本日提出セントスル所ノ敷設法中改正法律案ガ否決セラレマシタ場合、第二ノ御質問ハ、政府ハ豫算案ニ提出致シテ居リマス所ノ昭和二年度ノ豫算ガ通過セザリシ場合ヲ御想像ニナシテノ御質問デアアルデアリマスガ、先づ第一ニ政府ハ鐵道敷設法中改正法律案ハ十分ナ理由ヲ持シテ居ルモノト確信シテ居ルノデアリマスルカ

ラ、必ズ通過致シマスコト、確信シテ居リマス次第デアリマス(拍手)又建設ニ對スル豫算ニ付キマシテモ、確乎タル根據ノ下ニ計畫シテ居ルノデアリマスルカラ、是モ必ズ當議場ヲ通過スルモノト確信シテ居ルノデアリマス(拍手)隨テ御質問ノ要旨ハ敷設法ガ通過致シ、豫算ガ通過致シマシタ場合ニ於キマシテハ、當然消滅致シマスモノト考ヘルノデアリマスルガ、今假ニ折角ノ御質問デアリマスルカラ、斯ノ如キ事ガアリト致シマシタ場合ニ於キマシテ、政府ノ所信如何ト云フノ御質問デアリマスルカラ、ソレニ付テノ私ノ考ヲ申上ゲテ見タイト考ヘマス、第一ノ御質問デアリマスル所ノ白山新發田間ノ建設線ヲ削除サレマシタ場合ニ於キマシテモ、政府ハ尙ホ此越後鐵道ヲ買収スルノ意思アリヤ如何ト云フ御質問デアルト考ヘマス、幹線ニ準ズベキ地方鐵道ハ、鐵道國有法ノ精神ニ基キマシテ、順次之ヲ買収シテ國有鐵道ノ統系ノ中ニ編入致シマスト云フコトハ、是ハ國有鐵道ノ規定ノ大方針デアルト考ヘルノデアリマス(拍手)羽越線ガ開通致シマシタ以來、裏日本ノ交通狀態ハ實ニ其趣ヲ變ヘマシテ、昔日ノ比ナイノデアリマスル、殊ニ上越線ノ開通ハ目睫ノ間ニ迫リテ居リマシテ、從來東北線、奥羽線、東海道線等ニ依リマシテ、關東ト關西トノ間ノ交通ノ潮流ハ其距離ノ短縮ニ伴ヒマシテ、順次裏日本ヲ通シテノ交通ニ移リツ、アルノデアリマスル、隨テ此實情ニ適應シマスル爲ニ、此方面ノ運輸、狀態ノ改善ニ付キマシテ相當ノ考慮ヲ拂フ必要ニ迫ラレテ居ルノデアリマスル、此目的ヲ達シマスル爲ニ越後鐵道ヲ買収致シマシテ、一ツノ東北カラ西南ニ達シマスル所ノ海岸幹線ヲ完成シマシテ、交通ノ完壁ヲ期セント考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)殊ニ越後鐵道ノ買収ハ白山新發田間ノ豫定線計上ト共ニ二十四議會以來、殆ド毎議會ニ於テ請願及建議ヲ可決採擇シテ居ルノデアリマス、政府ハ此院議ヲ尊重致シマシテ、今回本鐵道ノ買収ヲ致シマスルト共ニ、白山新發田線ヲ豫定線ニ追加スル計畫

ヲ立テマシテ、本議會ニ提出シテ居ル次第
 デアリマス。若シ御質問ノ如ク、白山新發田
 間豫定線ノ御認メナザル場合ニ於キマシ
 テハ、政府ハ現在ノ新潟驛ト白山トノ連絡ヲ
 計リマシテ、前二述ベマシタ如キ運輸ノ改
 善ノ目的ニ副ハント考ヘテ居ルモノデアリ
 マス。隨テ白山新發田間ノ豫定線ノ追
 加ヲ認メラザル場合ニ於キマシテモ、越
 後鐵道ノ買収ハ是非實現ノ必要アルモノト
 認メテ居ルデアリマス。(拍手) 第二ハ建
 設線ト只今ノ買収法案トノ關係デアリマシ
 テ、即チ北海道ノ苫小牧浦河間ノ敷設ヲ削
 除セラレマシタ場合ニ於キマシテモ、尙ホ
 苫小牧鐵道及日高拓殖鐵道ヲ買収スル意思
 アリヤ否ヤト云フ御質問デアリマス、北海
 道ノ拓殖計畫上ノ必要カラ苫小牧浦河間ノ
 新線建設ニ伴ヘルモノ、即チ同鐵道ヲ敷設ス
 ル上ニ於キマシテ、苫小牧及日高拓殖鐵道
 ノ買収ノ必要スルノデアリマス、故ニ苫
 小牧浦河間ノ鐵道新線ノ敷設ヲ必要トセザ
 ル場合ニ於キマシテハ、當然苫小牧日高拓
 殖鐵道ノ買収ノ必要ハナイモノト政府ハ認
 メテ居リマス、第三ノ御質問ハ、鐵道豫算
 ト鐵道財政及交付公債ニ付テノ關係デアリ
 マス。政府ノ鐵道財政ハ最近甚ダ好マシカ
 ラヌ結果ヲ現シテ居ルノデアアルガ、此場合
 ニ二千萬圓以上ノ交付公債ヲ發行シテ、尙ホ
 斯ノ如キ地方鐵道ノ買収ノ必要アリヤ、甚
 ダ疑ナキヲ得ヌト云フ御質問ノ趣旨ト考ヘ
 マス。鐵道經濟ノ最近數年間ノ結果ノ宜シ
 クアリマセヌコトハ、大園君ノ御承知ノ通
 リデアリマス、併ナガラ此買収ニ應ジマ
 ス所ノモノハ、即チ交付公債デアルノデア
 アリマシテ、此交付公債ヲ發行スルカラ
 ト申シマシテ、此財源ヲ直ニ建設改良ノ方
 ニ振向ケルコトノ不可能デアリマス。コト
 ハ、私ガ茲ニ申上ゲル必要モナイノデアリ
 マス、又一方ニ於キマシテハ、只今議題ト
 ナテテ居リマス所ノ各地方鐵道ハ、相當ノ收
 益ヲ擧ゲテ居ルモノデアリマス、交付公債
 ハ五分ノ利子ヲ以テ發行致シマスモ、デア
 リマシテ、此位ノ收益ハ何レモ今回買収致
 シマスル鐵道ハ上ゲ得ルモノト信ジテ居ル

ノデアリマス、又此中ノ二三ノモノハ一
 何レ詳シイコトハ委員會デ申述ベタイト思
 ヒマスガ、國有鐵道ノ間ニ介在シテ居リマ
 シテ、其國有鐵道ノ一端ハ年々建設費ニナ
 テ營業ヲ開始シテ行キマシテ、其時期ガ遅
 レマスルト云フト、益ノ買収ノ價格ヲ高く
 スルモノデアリマス、即チ買収ノ時期ガ遅
 ル、ニ伴ヒマシテ買収ノ價格ハ高クナルト
 云フ性質ノモノデアリマス、又地方鐵道ヲ
 買収致シマスルト云フト、國有鐵道ノ大
 統系ノ中ニ入レテ總テノ營業ヲ統一的ニ
 致スコトニナルノデアリマス。カ、總テ
 ノ機關即チ車デアリマス。カ、機關車デ
 アリマス。カ、其他總テノ機關ヲ有效ニ
 利用スルコトガ出來ルヤウニナリマシテ、
 國家ノ見地カラ見マシテモ亦利益デアアル
 ノデアリマス、第四ノ御質問デアリマス
 ル所ノ、五十議會ニ於キマシテ繰延ベラ
 レタ數十線ノ線路ヲ、若シ公債ヲ發行スベ
 キ餘裕ガアルナラバ、先ヅ此方ニ振向ケル
 ベキデアラウデアラウト云フ御質問デアリマ
 スルガ、是ハ既ニ第三ノ御質問ニ對シテ御
 説明申上ゲマシタ、即チ今回發行致シマス
 モノハ交付公債デアアルノデアリマシテ、此
 交付公債ヲ以テ直ニ建設及改良費ニ振向ケ
 ルコトハ出來ナイ性質ノモノデアリマス、
 第五ノ御質問ノ信濃川水力ハ民間ノ電力過
 剩若クハ資本ノ二重投下、民業ノ壓迫等ヲ
 モ無視シテ政府ハ斷行スルノデアアルカト云
 フ御質問デアアルノデアリマス。昨日モ
 豫算總會デ申述ベマシタ如ク、政府ハ近キ
 將來ニ於キマシテ民間ノ電力過剩ヲ認メテ
 居ラナイノデアリマス、是ハ電力ノ需要供
 給ノ關係ニ於キマシテハ鐵道省ノ所管デア
 ナイノデアリマス。カ、當局ニ御質問下
 サル方ガ適當ト考ヘルノデアリマス。カ、
 勿論鐵道省ト致シマシテハ、通信省ト十分
 トヲ確メマシテ、鐵道省ガ自ら經營スル必
 要ヲ認メテ居ルノデアリマス、成程資本ノ
 二重投下デアリマス。カ、是ハ或ル意味
 ニ於テハサウ云フ御見解モ出來ルコト、考
 ヘルノデアリマス。カ、併ナガラ政府ト致

シマシテ、低廉ナル確實ナル多量ノ電力
 ヲ得ルコトノ見込アリマセヌ現在ノ場合
 ニ於キマシテハ、已ムヲ得ズ自ら此電力ヲ
 開發スルヨリ他ニ方法ガナイノデアリマシ
 テ、電力ガ過剩ナラザル理由カラ、決シテ
 今回ノ鐵道省ノ信濃川水力ノ計畫ハ民業ヲ
 壓迫スルモノトハ政府ハ考ヘテ居ラナイノ
 デアリマス、大體御質問ニ對シテ御答致シ
 マシタ積リデアリマス。(拍手)

○加藤知正君 簡單デアリマス。カ、此席上
 カラ質問ヲ御許シテ願ヒタウゴザイマ
 ス。一、只今鐵道大臣ノ大園君ニ御答ニナリ
 マシタ第一節ニ付キマシテ、少シク疑問ガア
 リマス。カ、御尋ね申上ゲタイ、ソレハ白山
 カラ柏崎ニ至リマス。カ、五十哩ニ互ル越
 後鐵道ヲ買収ナサル御理由ト致シマシテ、
 信越線ハ無論ノコト羽越線ハ既ニ貫通シ、
 越後線ハ上越線モ完成スルノデアア、交通上
 ノ完璧ノ期ニハ、是非共之ヲ國有ニセ
 ナケレバナラヌト云フ御理由デアリマス。カ、
 思ハレマスガ、私共ハ全ク是ト反對ノ考ヲ
 持テ居ル、詰リ磐越線ナリ、羽越線ナリ、
 上越線ナリガ、全部完成致シマスレバ、省
 線トシテハ只今ノ處先ヅ完成ノ期シタモノ
 ト云ハネバナラヌ、サレバ今之ヲ強イテ國
 有ニセザラズトモ、交通上何等ノ妨ゲハナ
 イノデアリマス、何故ニ是ヲ省線ニ致シ國
 有ニセネバ、交通上ノ完全ノ期スルコトガ
 出來ナイト云ハル、カ、吾々ハ其理由ヲ解
 スルニ苦シムモノデアリマス、又昨日豫算
 總會ノ席上ニ於テ、岩切君ノ質問ニ對シ
 鐵道大臣ノ御答ニハ、創設當時ノ生産狀態
 ハ數年若クハ十數年後ニハ非常ニ發達スル
 ル必要ヲ認メル云々ト云フ御答辯デアッタ
 ノデアリマス、果シテ然ラバ越後鐵道ニ
 屬スル地方ノ生産狀態ハ、越後鐵道ガ創設
 セラレタル當時ノ生産狀態ト今日トハ、ド
 レダケノ進歩ヲ發達ヲ致シマシタカ希クハ
 之ヲ數字上ニ於テ御説明ヲ願ヒタイ、御承
 知ノ如ク彼ノ石油鑛業ノ如キ、今日ニ於テ
 以前ノ如キ倍ヲ存シテ居リマセヌ、又農産
 業ノ狀態ヲ見マシテモ、大イシタ變リハ

ナイノデアアル、其他ニ於キマシテモ是レト
 云フ生産上ノ進歩ヲ認ムルコトガ出來ナイ
 ノデアリマス、斯様ニ生産狀態デアアルノニ
 對シテ鐵道大臣ハ越後鐵道創設當時ヨリモ
 今日ノ生産狀態ガ非常ニ進歩致シテ居ルカ
 ラ、之ヲ買収シナケレバナラヌト云ハルル
 ナラバ吾々ニ了解ノ出來ルヤウ之ヲ數字
 ニ御説明ヲ願ヒタイ、勿論私ハ之ヲ國有ニ
 ナサルコトニ於テ、決シテ反對ヲスル者デ
 ハアリマセン、併ナガラ今日政府ノ財政狀
 態ハ如何デアリマセウカ、去五十一議會ニ
 於テ、本黨ノ諸君ト御公約ニナツテ居リマ
 スル所ノ、彼ノ義務教育費ノ如キ、吾々ハ
 必ズヤ今期議會ニハ八千万圓ヲ計上セラル、
 モノト信ジテ居ラザラザラ、然ルニ曷ゾ知
 ラン僅ニ其半額五百萬圓シカ御計上ニナ
 テ居ラヌデアリマセヌカ、政府當局ノ御
 説明ヲ伺ヒマス。カ、如何ニモ政府ノ財政狀
 態ガ遺線ノ出來ナイ狀態ニナツテ居ルカラ、已
 ムヲ得ヌト云フコトデアアルデアリマス、本黨ノ
 諸君ト公約ヲ致シタル所ノ義務教育費サレ、
 約束通りノ金額ヲ計上スルコトノ出來ナイ
 今日ニ於テ、今俄ニ買ハネバナラヌ必要ニ
 迫テ居ラナイ、此鐵道ヲ強イテ買収ナラザ
 レバナラヌ理由ガ何處ニ在リマセウカト
 云フコトヲ、伺ヒタイノデアアル、而モ之ヲ
 公債政策ニ依テ、借金政策ニ依テ之ヲ買
 收スルト云フ所ノ御提案ハ、吾々ガドウシ
 テモ承服ノ出來ナイ點デアアル、此點ニ付テ
 ドウゾ吾々國民ノ諒解ノ出來ルヤウナ御説
 明ヲ伺ヒタイノデアリマス

〔國務大臣(子爵井上匡四郎君登壇)〕
 ○國務大臣(子爵井上匡四郎君) 加藤君ニ
 御答致シマセウ、羽越、上越、信越等ノ諸
 線ガ開通致シマシテ、交通上ノ完璧ノ期ス
 ル爲ニ越後鐵道ノ買収ノ必要ナシト云フヤ
 ウナ御考ノ御質問ノヤウデアッタノデアリ
 マス。カ、此越後鐵道ト云フモノハ、申ス
 マデモナク新潟市ヲ中心トシタ鐵道デア
 ルノデアリマス、新潟市ノ現在ノ交通狀態ハ、
 信越線カラ新津ニ行キマシテ、更ニ新津カ
 ラ新潟ニ到達シテ居ル、然ルニ柏崎、新津間
 ハ越後ノ最モ雨雪、殊ニ冬季ニ雪ノ害ノ多

イ所デアリマシテ、此區間ニ於キマシテハ、年々雪ノ害ノ爲ニ列車ノ混亂ヲ來シマシテ、系統的ノ運輸ヲ困難ナラシムル状態ハ、御承知ノ通りデアリマスル、或時ニ於キマシテハ、新潟方面トノ交通ガ杜絶スルコトマデモアルノデアリマスル（答辯ニナツテ居ナイデヤナイカ）ト呼フ者アリ）又新潟港ノ状態ハドウデアアルコト申シマスルコト云フ、漸次築港モ完成致シマシテ、貨物ノ集散モ増加スル状態デアリマシテ、又信濃川ノ改修モ大體ニ於テ實現サレテ、新潟市ト新潟驛トノ連絡モ可能性ヲ帯ビテ來テ居ルノデアリマスル、デ申スマデモナク新潟市ハ裏日本ノ最も重要ナル都市ノ一ツデアリマスルガ、此鐵道ガ日本ノ幹線ノ上ニ横ハツテ居ラスト云フコトハ、是ハ鐵道ノ系統上カラ非常ニ缺陷デアアルト考ヘテ居ルノデアリマス、新津新潟間ノ線路ノミデアリマシテハ、十分ナル輸送ノ責任ヲ果スコトガ出來マセヌノデ、殊ニ冬季ニ於テ長岡柏崎間、若クハ長岡新津間ハ、非常ニ雪害ガ多イノデアリマス、之ニ反シテ現在全通シテ居リマスル所ノ越後鐵道ハ、柏崎ヨリ海岸地方ヲ通ジマシテ、冬季ト雖モ雪害ガ殆ド無イ地方デアリマス、之ヲ——此完全ナル線路ヲ買収シマシテ、國有鐵道トシテ運轉致シマシテ、交通ノ完璧ヲ圖ルト云フコトハ、新潟市ヲ中心トシテ交通政策ノ上カラ必要トスル所デアアルト考ヘルノデアリマス、又地方鐵道ノ買収ノ條件トシテ、生産状態ガ發達スルニ從テ國有トシテ行クト云フコトヲ、昨日私が豫算總會デ申上ゲタガ、此越後鐵道ノ生産状態ハ如何デアアルコト云フ御質問デアアルト承知致シマスルノデアリマスルガ、此新潟市ノ發達セザリシ原因ト云フモノハ、是ハ信濃川ノ改修ガ完全セザリシコト、及新潟港ノ築港ガ完全セザリシコト等ガ主ナル原因デアッタト考ヘルノデアリマス、又陸ノ方面ニ於キマシテハ、此海運ヲ直ニ輸送スル所ノ運輸機關ガ不完全デアリマシタノデアリマス、デ水ノ方面ニ於テハ、最近ニ於テ殆ド信濃川ノ改修及新潟港ノ築港ト云フコトモ完成致シマスル

同時ニ、陸上ノ之ニ對スル輸送ヲ完全ニスルト云フコトハ必要ナコトデアアルノデアリマシテ、之ニ依リテ越後鐵道ノ將來ノ状態ト云フモノハ、益、改善サレルトコト、考ヘルノデアリマスル、御話ノ如ク——加藤君ノ御話ノ如ク、現在迄ノ状態ニ於キマシテ、必シモ越後鐵道ガ非常ニ最近地方ノ發達ヲシテ居ルト云フコトハ、私モ是ハ決シテ衰微シツ、アルトハ考ヘナイノデアリマスルガ、著シク發達シツ、アルトモ私ハ申シマセヌノデアリマス、併ナガラ、此越後鐵道——地方鐵道ヲ買収シマスル所ノ理由ノ一ハ、地方ノ産業發達ト云フコトヲ昨日例ニ述ベタノデアリマスルガ、必シモソレノミガ絕對ノ條件デモナイト思ヒマス、地方ノ發達ヲ助長スル目的ト云フコトガ、又地方鐵道買収ノ大ナル目的ノ一ツデアアルト考ヘマスル、殊ニ新潟市ノ如キ東北ニ於ケル有數ナル都市ノ交通機關ヲ完全ニスルト云フコトハ、必要ナコトデアアルト思フノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 加藤君
○加藤知正君 吾々新潟縣民ト致シマシテハ、交通上ノ完璧ヲ期シテ戴キマスコトヲ深く感謝スル次第デアリマス、併シ是ガ買収ニ關スル、鐵道大臣ノ只今ノ御辯ニ對シテハ、ドウモ感服スルコトガ出來ナイノデアリマス、何トナレバ只今雪害ノ御話モゴザイマシタ、事實ハ大ニ之ニ反スル點ノアルノヲ私ハ深く遺憾ト致シマス、又生産状態ノ如キモ只今大臣ガ御述ニナツタヤウナ有様デアアル、シテ見ルト御述ベニナリマシタ理由ト云フモノハ、此鐵道ヲドウシテモ買収セネバナラヌ理由トシテハ受取レナイノデアアル、サレバ之ニハ必ズヤ他ニ重要ナル所ノ、言フニ言ハレヌ意味深重ノ點ガアツテ、其處ニ買収ト云フコトガ生レタノデアアラウ、是ガ即チ國民——少クトモ我々縣民ニ疑惑ノ存スル所デアアル、ソレモデス、政府ノ財政状態ニ餘裕ガアツテ買収シテ下サルナラバ、寔ニ有難ク思フト共ニ、越後鐵道ノ買収トコロカ其他ノ鐵道モ買収シ、又新タニ何本モ架ケテ戴キタイ、吾々縣民ノ私

情トシテハ、進ンデ此事ヲ御願ヒ致シタイノデアリマス、併ナガラ今、此財政状態窮迫ノ場合ニ於テ、今俄ニ買収セナクモ何等差支ナイ所ノ鐵道ヲ理由ニナラヌ處ニ強イテ理由ヲ御附ケニナツテ、買収ナサラウトスルカラ、茲ニ國民ノ疑惑ガ生ズルノデアリマス、然ルニ若シ強イテ之ヲ買収ナサラウトスルト政府ノ爲ニモナラズ、又憲政會ノ爲ニモナラヌト思フ次第デゴザイマスカラ、此事ハ今少シク良イ時機ノ到來ヲ御待チニナツテ、諸リ政府ノ財政ニ餘裕ノ生ズル時ヲ待テ御買収ヲナサテハ如何デゴザイマスカ、マダ申上ゲタイコトモゴザイマスケレドモ、此上御尋フ致シマシテモ吾々ノ満足スル答辯ハ得ラレヌト思ヒマスカラ、是デ私ノ質問ハ打切リト致シマス

○議長(粕谷義三君) 次ハ田中讓君
(田中讓君登壇)
○田中讓君 本案ニ對シマシテ鐵道大臣ノ御説明ハ至極簡單デアリマシテ、詳細ハ委員會ニ於テ御述ニナルヤウデアリマスルガ、元來鐵道ノ新設トカ、或ハ買収等ハ國民ガ非常ニ疑惑ノ眼ヲ仄テ居ル問題デアリマス、故ニ此機會ニ是等ノ疑惑ヲ一掃スル爲ニ、先ツ第一ニ是等鐵道ニ對シマシテハ、何レ政府ヨリ補助金ヲ出テ居ルコトヲ思ヒマスガ、其補助金ヲ差引イテ各會社別ニ何程ノ純益金ヲ上ゲテ居ルカ、詳細承リタイノデアリマス、第二ト致シマシテ、右買収セラレタルニ付キマシテハ、其價額ハ何カ標準トシテ定メラレルモノデアリマスルカ、右ノ鐵道ノ上ニハ全ク利益ヲ上ゲテ居ラヌモノモアルヤウニ聞イテ居リマスルガ、民間デハ利益ノナイモノニ對シテ投資スルト云フヤウナコトハ絕對ニ致シマセヌ、或ハ利益ノ無イノハ、其會社ニ於テ、經營ノ宜シキヲ得ナカッタ結果デアアルト考ヘルカ知レマセヌガ、鐵道ノ事業ヲ營利ニ汲々タル營利會社ガ經營シテサヘ旨ク行カナイモノヲ、政府ガオヤリニナツテ果シテヨリ以上ノ成績ヲ上グル事ハドウデアラウカ、甚タ困難ナ事デナカラウカト思フノデアリマス、要スルニ收支償ハヌ鐵道ヲ買収サレ

ルノハ如何ナル理由ニ依ルモノデアアルカ、之ヲ併セテ承リタイノデアリマス

○國務大臣(子爵井上匡四郎君登壇)
○國務大臣(子爵井上匡四郎君) 御致シマス、第一ノ質問ハ、買収セントスル鐵道ハ如何ナル純益ヲ上ゲツ、アルコト云フ御質問ノヤウデアリマシタ、詳シイ數字ニ付テ御願ヒマス「ト呼フ者アリ」水戸鐵道ニ付テ御話ヲ致シマスル、十二年下半年期六万四千四百八十四圓、十三年上半年期六万四千八百八十八圓、十三年下半年期七万七千九百九十四圓、十四年上半期七万五千三百三十六圓、下半年期七万三千九百九十七圓、十五年上半年期七万三千四百八圓、合計四十四万九千八百一圓、越後鐵道ハ前二述ベマシタ期間ニ於ケル合計ノミヲ是カラ御話ヲ致シマス、百五十六万六千五百五十五圓、陸奥鐵道四十五万三千九百九十五圓、日高拓殖鐵道、是ハ十三年下半年期ヨリ十五年上半年迄デアリマスガ、二万七千三百三十三圓ト云フ純益ヲ上ゲテ居ルノデアリマス、買収價額ヲ算定スル標準デアリマスガ、是ハ法律ニ定メテアルノデアリマシテ、計算ノ詳シイ事ハ政府委員ヨリ御説明ヲ致サセマス、何故斯ノ如キ鐵道ヲ買収スルカト云フコトニ付キマシテハ、昨日來御述ベ申シタ理由ニ外ナラヌノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 他ニ御質問ハアリマセヌカラ次ノ日程ニ移リマス

○中野寅吉君 今ノ問題ニ付テ質疑ガアリマス

○議長(粕谷義三君) 質疑デスカ——中野寅吉君

○中野寅吉君 簡單デアリマスカラ此席デ鐵道大臣ニ……

〔「登壇」ト呼フ者アリ〕
〔中野寅吉君登壇〕
○中野寅吉君 私ハ冒頭ニ於テ申上ゲマスガ、政治生活ヲシテ居リマスカラ、常ニ黨議ハ重シジマス、此問題ハ憲政會ノ黨議デ決メタノカドウカト云フコトヲ幹部ニ御尋シタ所ガ、敢テ黨議ヲ以テ決メタデハナ

イ、斯ウ云フコトデアルカラ、私ハ自由問題ト致シマシテ、茲ニ政府ニ質疑ヲ致シマス、斯ウ云フ大問題ヲ議場ニ諮ル前ニ、先ツ憲政會ナラバ黨議ヲ以テ決シテ置クト云フコトガ當然ト思フ、然ルニ此問題ニ付テ先ツ聞キタイコトハ——憲政會デアッテモ何モ政府案ニ盲從シナケレバナラヌト云フ理窟ハナイ(拍手)政府案ガ正シケレバ政府案ニ賛成スルガ、政府案ガ間違ッテ居ルト思ヘバ、質疑ヲスルノハ當リ前デアアル、又質疑ヲスルト云フコトハ不賛成ノ意味デハナイ、大臣ノ答辯ノ仕方ニ依テハ、私モ賛成スルカモ知レナイノデアアル、賛否何レニ決シナイ中ニ餘リ早合點シテ、吾輩ノ言論ヲ壓迫スルヤウナコトデアッタナラバ、私ハ容赦動辨相成ラヌト思フ、先ツ鐵道大臣ニ私ハ聞キマス、鐵道大臣ハ——特ニ私ハ越後鐵道ニ付テ申上ダマス、水戸鐵道、苦小牧鐵道、日高拓殖鐵道ノ買収案、是ハ私ハ賛成スル、併シ此越後鐵道タケハ何トシテモ私ハ質疑ヲセヌ以上ハ賛成出來ナイ(八百長)ト呼フ者アリ)八百長デモ何デモナイ、鐵道大臣先刻ノ大園君ノ質疑ニ答ヘラレタ所ニ依レバ、交通問題ヲ獨リ陸ニノミ限ッテ居ルヤウナ傾ガアル、交通ト云フコトハ獨リ陸ニノミ限ラス、陸下海ト連絡シテ行クト云フコトガ最も必要デアアル、日本ノ如キ四面環ラスニ海ヲ以テスル國ニ於テハ、先ツ其處ニ著眼シナケレバナラヌ、何モ東北及北陸地方ノ人及物ヲ遙々東海道線ニ依ラナケレバナラヌ、阪神地方ノ線ニ依ラナケレバナラヌ、中國方面ヲ迂迴シナケレバナラヌト云フ理窟ノモノデハナイ、何故ニ新潟縣ノ前面ニ在ル所ノ、アノ大富源ノ朝鮮咸鏡北道、咸鏡南道及間島、寧古丹、或ハ輝春方面、又ハ三性海林ヨリ哈爾濱(莫斯科)ト呼フ者アリ)莫斯科ナドハ遠ク、莫斯科ナドハマダ先ノ話デアアル、サウ云フ下ラヌト云フ言ハナイデ、モスコシ研究シテ掛シタ方ガ宜イデハナイカ(笑聲)サウシテ此新潟市ノ開發シナイト云フコトハ、此交通機關特ニ汽車ガ旨ク行カナカッタト云フコトヲ、鐵道大臣ガ言フタガサウ

デハナイ、新潟市ノ開發ヲ見ザルノハ、海ノ向フヲ見ナイ爲メデアアル、現在ノ磐越東線西線ニ依リテ、太平洋岸ノ小名濱ヨリ平ヲ通り、サウシテ日本海ノ越後ニ通ッテ居ル、一昨年九月ノ二十一日ニ、羽越線全通シテ山形、秋田、青森地方ノ物資ガ新潟ニ皆集中スル、又近キ將來ニ於テ村上ヨリ山形ニ出デ、山形ヨリ宮城ニ達スル鐵道ニ依リテ、宮城縣ノ物資モ此所ニ集中スル、又北陸線ニ依リテ富山、石川、福井方面ノ物資ガ來テ居ル、長野山梨兩縣ノ物資ハ現在ノ信越線ニ依リテ來テ居ル、大正十八年ノ末ニハ群馬縣ト新潟縣ノ間ヲ隔テ、居ル茂倉山ノ隧道ガ貫通シテ、群馬縣、栃木縣、千葉縣、茨城縣、埼玉縣及大東京市、神奈川縣等、關東一圓ノ大勢力ナルモノガ、日本海ノ側ニ顔ヲ出スト云フコトヲ承知シテ、鐵道計畫ヲ立テテナケレバナラヌト思フノデアアル、何故ニ之ヲ信濃川ノ西ニ在ル所ノ、越後鐵道ヲ買収シ、莫大ナ架橋ヲ掛ケナケレバ、交通機關ガ完備セヌト云フヤウナコトハ、鐵道當局ハ海ニ考ガ違ッテ居ルト私ハ思フノデアアル、即チ幹線ヲ信濃川ノ西ニ移スト、現在ノ如ク東側ニ置クトカ獨リ新潟ノ將來ノ大發展ヲ阻害スルノミナラズ大陸連絡上由々シキ關係ガアルノデアリマス、況ヤ新潟市ノ發達ハ今日ノ新潟市デハイカナイ、新潟市ノ發達ハ先ツ沼垂ニ發展シ、ソレカラ龜田、アハ好クバ新津方面ヨリ大陸ニ通ズル所ノ吞吐港トシテ、之ヲモト擴張シテ行キ、サウシテ、交通機關ノ連絡ヲアスコトヤリ、大陸發展ヲスルト云フヤウナコトヲ夢ミテ居ルニ至ッテハ、寧ロ私ハ鐵道當局ノ計畫ノ小サナコトヲ憐レマナケレバナラヌト思フノデアリマス、信濃川ノ難工事ナドハ經驗モアラウケレドモ、更ニ阿賀川ノ難工事、ソノ傍ヲ流レル所ノ小阿賀野川ノ難工事ヲ始メ、大小ノ鐵橋ガ何十架カルカ分ラナイ新發田カラ新潟市ニ廻ハシタナラバ、萬代橋ノ五百間以上ノ、アノ川ノ鐵橋デモ大變デアアル、是ハ經濟上カラ云

テモ又日本帝國ガ更ニ大陸ニ發展スル所ノ足掛リノ上カラ云テモ、斯ウ云フ鐵道ヲ買収シテハ相成ラヌト思フノデアアル、之ニ對スル正當ナル考ガアレバ承リタイ、ソレカラ新潟ノ港ハ完成シタト仰セラレタガ、一寸モ完成シテ居ナイ、昨年中十月十九、二十、二十一日ノ三日間土木局長ノ次田氏ガ行クカラ、私モ其際新潟ニ行テ見タ、沼垂ノ前ハ水深二十五尺シカナイデハナイ、カ、二十五尺デハ五千噸ノ船ヲ入レルニ足ラナイ、對シテ朝鮮ノ咸鏡北道ノ清津ナリ、又咸鏡北道ノ雄基ナラバ、優ニ少シノ工費ヲ加ヘレバ五千噸級ノ船ヲ入レルニ足ル、然ルニ對岸ノ新潟ガ塞ッテ居ルナラバ、日本連絡スルアノ新潟ガ塞ッテ居ルナラバ、日本ノ食糧問題モ人口問題モ解決スルコトハ不可能ト私ハ思フノデアリマス、故ニ先ツ斯ウ云フ私設鐵道ノ買収ニ金ヲ掛ケルヨリモ、宜シク新潟ノ築港ニ大金ヲ掛ケテ、沼垂ノ前面ノ二十五尺ヲ更ニ掘下ゲテ二十七尺トナシ、且ツ信濃川ヨリ海ニ出ル所ノ十六尺ヲ更ニ二十七尺ニ掘下ゲテ、五六千噸ノ船ガ浦留斯德ナリ、或ハ雄基ナリ、清津ナリ、元山ナリニ自由自在ニ交通シテ有リ餘リノ人口ヲ海外ニ移シ、不足セル所ノ食糧ヲ先方ヨリ取ッテ來テ、此日本帝國ノ太キクナルコトヲ圖ルノガ、政府當局トシテノ責任ト私ハ思フノデアリマス、此港ノ經營ノ造方如何ハ、實ニ我ガ食糧問題ノ解決ト人口問題ノ解決トヲ、容易ニスルカ困難ニ陥ラシムルカノ岐レル所ト確信致シマス、之ニ對スル鐵道當局ノ御説明ヲ承リタナラバ賛成スルケレドモ、說明シテ呉レタナラバ賛成スルケレドモ、若シ合點ノ行カヌヤウナ説明ヲシタナラバ、吾輩政府與黨ナリト雖モ、唯、一人デモ反對スル決心デゴザイマス、重大問題ダカラ慎重ノ御考慮ヲ願ヒマス

(國務大臣子爵井上匡四郎君登壇)
○國務大臣(子爵井上匡四郎君) 只今中野君カラ、中野君ノ大ナル御經綸ニ付テノ御話ガアリマシタ、私モ大體ニ於テ政府ノ財政ガ許シマスナラバ、ヨリ完全ナル交通機關ヲ完備致シタイコトハ、寧ロ中野君ノ御希望ニ劣ル者デハナイト考ヘマスルガ、現在ノ政府ノ許シマスル財政計畫ニ於キマシテハ、遺憾ナガラ今回政府ガ提出致シマシタ程度以上ニ出ルコト能ハザルコトハ甚ダ遺憾ニ考ヘル次第デアリマス、新潟港ノ築港ハ私完成シタトハ申サナカッタ積リデアリマス、略、完成致シタト申シマシテ、漸次貨物ノ集散モ増加シツ、アルト申シタ積リデアリマス、新潟港ノ築港ガヨリ完全ニナリマスコト、即チ深水ノヨリ深クナリ、ヨリ大ナル船ガ自由ニ出入スルコトガ出來ルヤウニナリマスコトハ、私共中野君ト御同感デアリマスルシ、築港ノコトハ申スマデモナク鐵道省ノ所管ニ屬セヌコトデアリマスノデ、單ニ茲ニ希望ノミヲ速ベテ置キマス

○中野實吉君 今ノ大臣ノ説明ハ私ガ一生懸命ニナッテ質問シタノニ對シテ、大演說ナドト云フノハ冷ヤカスヤウナモノデアアル、私ハ陣笠デハアルケレドモ、日本ヲ思フコトハ寧ロ井上君ノ人後ニ落チナイ、私ハ眞面目ニ去年モ一昨年モ一昨年モ、草鞋穿キニナッテ、アノ對岸奧地間島、輝春地方ヲ視察シ、其内地ノ足溜リハ新潟ニ置カナケレバナラヌト思フ、ソレニハ現在ノ新潟市ダケデハ狭イカラ、沼垂ヤ龜田方面ニ大擴張ヲシテ、大陸大發展ノ策源地トセネバナラヌ、斯ウ云フ眞面目ノ演說ニ對シテ、大演說トカ何トカ言ッテ冷評半分ヲ答辯ヲスルト云フヤウナコトデハ私ハ反對スル、私ハ豫言致シマセウ、此鐵道ノ中、他ノ鐵道ノ買収ハ通過スルカモ知レナイケレドモ、大陸發展ノ國策ヲ度外視シタ、此越後鐵道買収ダケハ、議院ノ空氣カラ推シテ私ハ大多數ヲ以テ否決サレルト云フコトヲ豫言致シマス(拍手)

○議長(稻谷義三君) 尙ホ質疑ノ通告ガアリマス、田淵豐吉君

(田淵豐吉君登壇)
○田淵豐吉君 私ハ能ク鐵道ノコトハ知ラナイノデスガ、紀州邊リニモ矢張買収ノ鐵道ニ於テ、ソレヲ半分使フトカ使ハヌトカ

云フ問題ガアル、一體是ハ鐵道大臣ガ知ッテ居ルカ、失禮デスガ私ハ極ク有リノ儘一般的ノコトヲ聞キタイノデス、私ハ鐵道ノ委員會ニ出ラレナイノデスカラ一寸御尋シタイ、若シ御尋ニ對シテ御答辯ガ出來ナケレバ後デモ宜イ、一ツ文書デモ構ハヌデスカラ願ヒタイ、二三思付キマシタガ私ハ國有鐵道、獨逸ハ元ト全然國有鐵道デナカッタ、併シ事實上ハ國有鐵道デアッタ、法律上ハ國有鐵道デハナカッタデアリマス、所ガ日本ハ國有鐵道デアッテ、私ハ法規ハ知ラナイガ、國有鐵道ト私設鐵道トノ關係如何ト云フコトヲ聞キタイ、演說スル答デハナカッタガ、中野君ノ御話デ此私設鐵道ト云フモノハ何年カノ後ニハ國有鐵道ニ悉クナルモノカナラヌモノカト云フコトヲ聞キタイ、ソレニ依ッテ吾々ノ態度ガ餘程違ッテ來ル、詰リ緩急ノ別ガアルカラ、今ソレヨリモ是ガ宜イト云フノカ、ドチカラ見テモ買ハナケレバナラヌノデアッテ唯、前後ノ問題デアルカ、其點ヲ明ニ聞キタイ、ソレドドウ云フ風ニ、政府ガ國有鐵道ト私設鐵道トノ關係如何ナル所ニ置イテ居ルカ、新聞見テ居リマスガ、シツカリ分ラヌ、詰リ私設鐵道ト成ベクヤラシテ、山間ニ架ケテモ「レンタール」デアッテ、ソレデ相當ニ利益ガアルモノデアッタラ取ラウト云フノカ、サウ云フ風ナ政策ガ分ラヌ、新聞見テ居ルケレドモ、サウ云フ國有鐵道ノ政策ト私設鐵道ノ政策ト、其關係如何ト云フ大前提ガ分ラナケレバ、吾々問答ガ出來ナイト思フ、唯、緩急輕重ノ區別シカ出來ナイ、ハッキリ分ラヌ、ソレヲ明ニシテ置キタイ、ソレカラ第二ニハ國有鐵道ノ延長ト私設鐵道ノ延長トガドレ位アルカト云フコトヲ聞キタイ、其哩數、ソレカラ買收價格ハドウ云フ標準ニ依ルカ、其時ノ値段ニ依ルカ、或ハ造リ時ノ値段ニ依ルカト云フヤウナ標準ヲ明ニシテ貰ヒタイ、ソレデナイト政黨政派ノ問題ガ起ッテ、鐵道問題デ金儲ケヲヤラウトカ何トカシテ、惡イ「レール」ヲ使ヒ、ガタ汽車ヲ使ッテ成ベク高ク

買ッテ貰フト云フ惡イ例ガ出テ來ルト思ヒマス、斯ウ云フ風ナ弊ヲ正シタイト思ヒマス、故ニ買收價格ノ標準ハ如何ナル所ニアルカ、御聞キシタイト思ヒマス、明ニ此公開ノ席上デ言ッテ戴キタイ、ソレデ私ハ中野君ノ痛烈ナル所ノ演說ヲ聽イタ、私ハ此問題デ味ヲ容レルノハ失禮カモ知レマセヌガ、唯、一ツノ例デナクシテ、全體ノ日本ノ私設鐵道ノ計畫如何、之ヲ如何ニ爲サルカト云フ大前提ヲ決メナケレバ此問題ニ這入ルコトガ出來ナイ、如何ニモ私ノ考ハ幼稚デアアルカモ知レヌケレドモ其報告ヲ願ヒタイ

〔國務大臣子爵井上匡四郎君登壇〕

○國務大臣(子爵井上匡四郎君) 田淵君ニ御答ヲ致シマス、地方鐵道ハ地方ノ交通ヲ目的トシタモノデアリマス、此區有鐵道ハ帝國ノ主要ナル幹線ノ部分ノ交通ヲ主トシタモノデアリマス、此區別ハ甚ダ不明瞭デアリマス、昨日モ申上ゲマシタ如ク、地方鐵道トシテ、地方ノ交通機關トシテ免許致シマシタモノモ、其地方ノ文化、經濟狀態ノ發達ニ依リマシテ、國有鐵道トスル必要ガ起ルノデアリマス、國有鐵道ト私設鐵道トノ延長デアリマスルガ、大體ノ數字ヲ申上ゲマス、國有鐵道ハ約八千哩、私設鐵道ハ約三千哩デアリマス、買收ノ價格ハ地方鐵道法規、法律デ規定シテアリマス、其法律ノ規定ニ依ッテ計算スルノデアリマス(田淵豐吉君「ソレヲ言ッテ戴キタイ」ト呼フ)ソレハ後デ文書デ差上ゲタ方ガ宜イト思ヒマス

○田淵豐吉君 一寸一言私ハ……
○議長(粕谷義三君) 一寸御待下サイ——
○田淵豐吉君 サウデス
○議長(粕谷義三君) 田淵豐吉君
○田淵豐吉君 國有鐵道ガ幹線デアッテ、地方鐵道ハ支線デアルト申サレマシタガ、其關係ガ私ノ頭ニ分ラヌ、全國ノ國有鐵道ハ悉ク帝國ノ政府デアアル、國有鐵道ニ引直スト云フコトヲ二十年間ノ中ニ考ヘテ居ルノカ、ソレハ百年經テモ、千年經テモ、矢

張地方鐵道ヲ其儘存シテ置クノカドウカ、原則ガ國有鐵道デアルカラ、國有鐵道ダケデヤラナケレバナラヌノデアルカ、其法律ノ關係、或ハ其政府ノ方針ハドウナッテ居ルノカ、地方ノ鐵道、幹線鐵道ト云フモノハ大抵出來テ居ル、其區別ガ如何ニモ明瞭ヲ缺イテ居ル、法律上ノ規定トカ、或ハ鐵道省ノ何ハドウ云フコトヲ云フノカ、ハッキリ分ラナイ、其點ヲハッキリ御説明ヲ願ヒタイ

〔國務大臣子爵井上匡四郎君登壇〕

○國務大臣(子爵井上匡四郎君) 地方ノ局部ノ交通ヲ目的トシタモノハ地方鐵道ト考ヘルノデアリマス、併ナガラ又同時ニ幹線ノ榮養線トナルベキヤウナ線ハ、是ハ又國有トスル必要ガアルノデアリマス、大體サウ云フコトヨリ御答ガ出來スト思ヒマス

〔田淵豐吉君「モウ一言、モウ一言……」ト呼ヒ、其他發言スルモノ多シ〕

○議長(粕谷義三君) 是ニテ質疑ヲ終了致シマス、仍テ日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○砂田重政君 委員ノ數ヲ二十七名トシ、議長ニ於テ指名セラレントヲ望ミマス
○議長(粕谷義三君) 砂田君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ
○議長(粕谷義三君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第五、第六ハ關聯セル議案デアリマスカラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、震災手形損失補償公債法案、日程第六、震災手形善後處理法案ノ第一讀會ヲ開キマス、片岡大藏大臣

第五 震災手形損失補償公債法案(政府提出)
震災手形損失補償公債法案 第一讀會

第一條 大正十二年勅令第四百二十四號及大正十四年法律第三十五號ニ依ル契約ニ基キ政府カ日本銀行ニ對シテ支拂フヘキ損失補償金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス
第二條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲一億圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコトヲ得
第三條 前條ノ規定ニ依リ發行スル公債ノ交付價額カ一億圓ニ達セサルトキハ其ノ差額ヲ補填スル爲前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得
第四條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第六 震災手形善後處理法案(政府提出)

第一條 本法ニ於テ震災手形ト稱スルハ大正十二年勅令第四百二十四號第一項第四號ニ該當スル手形ヲ謂フ
第二條 政府ハ昭和二年九月三十日ニ於テ日本銀行ヨリ震災手形ノ割引ヲ受ケ居ル銀行(以下震災手形所持銀行ト稱ス)ニ對シ該震災手形ノ整理ヲ爲サシムル爲本法ノ定ムル所ニ依リ貸付金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ貸付金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス
第三條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災手形損失補償公債法ニ依リ發行スル公債ト通シテ二億七百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 前條並震災手形損失補償公債法

第二條及第三條ノ規定ニ依リ發行スル公債ノ交付價額カ通シテ二億七百萬圓ニ達セサルトキハ其ノ差額ヲ補填スル爲前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得
第五條 本法ニ依リ公付スル國債證券ノ

交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第六條 第二條ノ貸付ハ震災手形所持銀行カ其ノ震災手形債務者トノ間ニ其ノ手形債務ヲ更改スル爲十年以内ノ年賦償還貸付契約ヲ締結シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲サズ

第七條 第二條ノ貸付ノ期限ハ十年以内トシ其ノ利率ハ年五分以上トス
前項ノ外貸付金ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條 第二條ノ貸付ノ辨濟金ニ相當スル金額ハ國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依ル線入ノ外本法ニ依リ發行シタル公債ノ償還ニ充ツル爲之ヲ一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ但シ本法ニ依リ發行シタル公債ノ前年度首ニ於ケル未償還額ノ萬分ノ百十六ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 第二條ノ貸付ニ關スル事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム
前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第十條 震災手形所持銀行ニ對シ第二條ノ貸付確定前ニ於テ日本銀行カ昭和二年十月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ間ニ於ケル満期日ヲ有スル震災手形ノ割引キタルトキハ該震災手形ニ關シテハ大正十四年法律第三十五號ヲ準用ス
前項ノ規定ニ依ル契約ニ基キ政府カ日本銀行ニ對シテ爲スヘキ損失補償ニ關シテハ第三條及第四條ノ規定並震災手形損失補償公債法ヲ準用ス

(國務大臣片岡直溫君登壇)

○國務大臣(片岡直溫君) 只今議題トナリマシタ震災手形損失補償公債法案及震災手形善後處理法案、此二案ニ付キマシテ一括シテ御説明ヲ申上ゲマス、大正十二年關東地方大震災直後ニ於キマシテ、金融界ハ御承知ノ如ク大梗塞ニ際致シタノデアリマシテ、之ニ對スル非常ノ施設トシテ、大正十二年勅令第四百二十四號ヲ以テ、震災手

形ニ對シ特別ノ融通ヲ爲スノ制度ヲ設ケマシテ、日本銀行ヲシテ時局ノ急ニ應ゼシメ、幸ニ財界ニ動搖ヲ來スコトヲ防止シ得タノデアリマス、而シテ其際政府ハ日本銀行ガ是ガ爲ニ多大ノ損失ヲ蒙リ、我が中央銀行トシテノ地位ヲ危殆ナラシムルガ如キ事ナカラシムル爲ニ、震災手形ノ割引ニ依リマシテ、日本銀行ガ受クルコトアルベキ損失ニ對シ、一億圓ヲ限リ是ガ補償ヲ爲スコト、ナリマシテ、同行ト補償契約ヲ締結シタノデアリマス、併ナガラ我が財界ノ震災ニ因リテ蒙リマシタ損失ノ復舊ハ、洵ニ容易ナラヌモノガアルノデアリマス、已ムヲ得ズ勅令所定ノ融通期限ヲ、大正十四年法律第三十五號及大正十五年法律第三十三號ヲ以テ、再度延長シ、期限ヲ本年九月三十日迄ト致シタノデアリマス、隨テ又日本銀行ニ對シテ補償ノ契約ヲ變更シタノデアリマス、然ルニ最近一般財界ノ狀態ハ、其整理漸ク進捗シ來リマシタガ故ニ、此整理ノ趨勢ヲ助長促進セシメ、速ニ財界ヲ常道ニ復歸セシムル必要ハ愈々切實ヲ加ヘテ參照ノデアリマス、而シテ此財界ノ常道復歸ノ爲ニハ、政府ハ種々ノ方策ヲ講ジナレバナリマセヌガ、右ノ非常施設タル震災手形ノ特別融通制度ヲ更ニ延期存續サセマシテハ、却テ財界整理ノ進捗ヲ妨ゲ、其堅實ナル恢復ヲ期スル所以デナイト認メマシテ、之ヲ今後ニ於キマシテ繼續致サスコトニ決定シタノデアリマス、其結果日本銀行ト契約致シマシタル、補償契約ニ基キマシテ、日本銀行ガ震災手形ノ割引ニ因リ受ケタル損失ヲ補償スベキ時期ニ近ク到達致スノデアリマス、而シテ日本銀行ノ損失ニ歸スル金額ハ、今日ニ於テハ之ヲ明確ニ致スコトハ出來ナイノデアリマス、政府ガ日本銀行ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ、國債ヲ以テ之ヲ交付スルコトガ財政上妥當ノ處置デアルト考ヘマスルカラ、茲ニ補償ノ最大限度タル一億圓ヲ限リマシテ、國債ヲ發行交付スル爲メ、震災手形損失補償公債法案ヲ提出致シタノデゴザイマス、又此震災手形ニ對スル特別融通ノ

制度ヲ繼續致サマルコトニ決定致シマスルニ付キマシテハ、慎重ニ其善後方策ヲ講ズル必要ガアルノデアリマス、蓋シ震災ニ因リマシテ一般金融界及多數震災手形ノ債務者ガ蒙リマシタ瘡痍ハ頗ル深刻デアリマシテ、昭和元年十二月末ノ現在、即チ震災後三年四箇月ヲ經過シマシタ時ニ於キマシテ、日本銀行ノ割引シマシタ震災手形ノ決濟セラレズニ殘リ居ル金額ハ、約二億七千萬圓ノ巨額ヲ算スルト云フ狀況ニ在ルノデアリマス、機宜ニ適ヘル善後處理ノ方策ヲ講ゼズシテ、單純ニ此非常施設ノ廢止ヲ敢行致シマシテハ、財界ニ重大ナル影響ヲ與ヘルコト、ナルノデアリマス、斯様ノ次第デアリマスルカラ、其善後處理ヲ講ズルガ爲ニ、茲ニ震災手形善後處理法案ヲ提出致シタノデアリマス、次ニ本案ノ要領ヲ簡單ニ説明シマシマス、回收不能ニ陥リマシテ日本銀行ノ損失ニ歸スル震災手形ニ付キマシテハ、前ニ説明致シマシタ震災手形損失補償公債法ニ依リマシテ、政府ガ補償スルガ爲メ公債ヲ發行交付スルノデアリマス、回收不能ト決定セズ從テ日本銀行ノ損失ニ歸セナクシテ、震災手形ニ付キマシテハ、之ヲ日本銀行ヨリ割引ヲ受ケテ居ル銀行ニ對シマシテ、政府ハ震災手形ノ額ト同金額以内ニ於キマシテ、即チ震災手形損失補償公債ト通ジマシテ二億七百萬圓ノ範圍内ニ於テ、十箇年以内ニ於テ此公債ヲ發行交付シテ貸付金ヲ爲スノデアリマスカラ、銀行ハ震災手形ノ代リニ此公債ニ依リマシテ、日本銀行ヨリ金融上ノ便宜ヲ受ケ得ルノデアリマス、又震災手形ノ債務者ハ銀行トノ間ニ手形債務ヲ更改スル爲メ、十箇年以内ノ年賦償還貸付契約ヲ締結シマシテ、支拂能力ヲ恢復スル機會ヲ與ヘタルコト、相成リマシテ、震災手形ノ整理ヲ致スコトガ出來ルノデアリマス、次ニ日本銀行ハ政府ト補償契約アルガ爲ニ、初メテ割引クコトガ出來ルヤウナ異例ノ手形ノ割引ヲスルコトガ無クナリマシテ、今後ハ國債ヲ擔保トシテ手形ノ割引ヲスルト云フ常軌ニ復スルコトニナルノデアリマス、更

ニ政府ハ未決濟ノ震災手形中、本年九月三十日ニ於テ回收不能ニ陥リ、日本銀行ノ損失ニ歸スルモノアリト認メラル、モノハ、前述ノ通りニ補償致シマシテ、其以外ノ比較的宜シイ手形ニ付キマシテハ、慎重ニ調査シテ適當ノ條件ヲ以テ銀行ニ對シテ貸付ケルノデアリマスカラ、今後十年間ニ於テ其貸付金ノ回收ハ圓滿ニ行ハレ、國庫ニ負擔ヲ負ハシムルコトハ無イト信ジマス、又貸付ノ爲ニ國債ヲ發行交付スルノデアリマスガ、國債利子ノ負擔ハ貸付金ノ利子ノ收入ニ依リマシテ完全ニ補填スルコトヲ得ル筈デアリマス、尙ホ最後ニ一言致シマスガ、此國債發行ニ依リマシテ一時ナガラモ、震災手形損失補償公債ト通ジテ二億七百萬圓ノ範圍内ニ於テ、公債發行額ノ増加ヲ生ズルノデアリマスケレドモ、漸次貸付金ノ辨濟ガアルニ伴レマシテ、之ヲ國債整理基金ニ繰入レマシテ、本法ニ依リ發行シタル公債ノ減額ヲ圖ルコトヲ工夫致シタ次第デアリマス、震災手形ニ對シテ斯ノ如キ善後處理ノ方策ヲ講ジマスルコトハ、現下財界ノ狀勢ニ鑑ミ、最モ機宜ニ適ヘル處置デアリマス、多年懸案トナリ居リマスル所ノ、所謂財界ノ瘡ト稱セラル、震災手形ノ整理問題ヲ解決スル最上ノ方法デアルト信ズルノデアリマス、以上兩法案ニ付キ何卒慎重御審議ノ上、御協賛アランコトヲ希望致シマス

○議長(稻谷義三君) 是ヨリ質疑ヲ許シマス、星島二郎君

(星島二郎君登壇)

○星島二郎君 私ハ本案ノ提出ノ精神ニ對シマシテハ、未嘗有ノ大震災ノ直後ノ經濟界ヲ處理スルニ付キマシテ、適當ナモノト思フノデアリマスガ故ニ、濫ニ所謂條規ニ拘泥シテ小サイ事ハ問ハナイ積リデアリマス、唯、本案ハ本期議會ニ於ケル經濟上或ハ社會思想上及ボス重大ナル案件デアリマシテ御尋フ申シテ見タイト思フノデアリマス、震災手形損失補償法ハ先程大藏大臣ノ御説明ノ如ク、震災直後ニ於ケル一時ノ方

二政府ハ未決濟ノ震災手形中、本年九月三十日ニ於テ回收不能ニ陥リ、日本銀行ノ損失ニ歸スルモノアリト認メラル、モノハ、前述ノ通りニ補償致シマシテ、其以外ノ比較的宜シイ手形ニ付キマシテハ、慎重ニ調査シテ適當ノ條件ヲ以テ銀行ニ對シテ貸付ケルノデアリマスカラ、今後十年間ニ於テ其貸付金ノ回收ハ圓滿ニ行ハレ、國庫ニ負擔ヲ負ハシムルコトハ無イト信ジマス、又貸付ノ爲ニ國債ヲ發行交付スルノデアリマスガ、國債利子ノ負擔ハ貸付金ノ利子ノ收入ニ依リマシテ完全ニ補填スルコトヲ得ル筈デアリマス、尙ホ最後ニ一言致シマスガ、此國債發行ニ依リマシテ一時ナガラモ、震災手形損失補償公債ト通ジテ二億七百萬圓ノ範圍内ニ於テ、公債發行額ノ増加ヲ生ズルノデアリマスケレドモ、漸次貸付金ノ辨濟ガアルニ伴レマシテ、之ヲ國債整理基金ニ繰入レマシテ、本法ニ依リ發行シタル公債ノ減額ヲ圖ルコトヲ工夫致シタ次第デアリマス、震災手形ニ對シテ斯ノ如キ善後處理ノ方策ヲ講ジマスルコトハ、現下財界ノ狀勢ニ鑑ミ、最モ機宜ニ適ヘル處置デアリマス、多年懸案トナリ居リマスル所ノ、所謂財界ノ瘡ト稱セラル、震災手形ノ整理問題ヲ解決スル最上ノ方法デアルト信ズルノデアリマス、以上兩法案ニ付キ何卒慎重御審議ノ上、御協賛アランコトヲ希望致シマス

便ト致シマシテ、當時ノ井上大藏大臣ガ思切ッテ、即チ一億圓ヲ率ト云フ場合ニハ日本銀行ノ損害ヲ補償シヤウト、斯ウ云フ法律デアリマシテ、當時多クノ人ハ之ヲ洵ニ名案トシテ歡迎致シタノデアリマシタ、併シ後デ考ヘテ見ルト随分俄ニ出来タモノデアリマスルカラ、多クノ不審ノ點ガ起ルノデアリマスガ、之ヲ今回此補償法ニ依リマシテ解決シヤウト云フ、此點ニ付キマシテハ私ハ大シタ疑義ハ持テ居ラナイノデアリマス、唯、共ニ出マシタ此震災手形善後處理法、是ハドウ云フ數字デ、又其内面ニ一體ドウ云フ精神ガ含マレテ居ルカ、之ニ付キマシテハ可ナリ私ハ疑義ヲ持テ居ルノデアリマス、只今大臣ノ説明ニ依リマスレバ、現在日本銀行ノ有スル所謂「スタンブ」手形ト云フモノハ二億七百萬圓デアルト斯ウ申サレマシタガ、私ハ改メテ實際今日日本銀行ガ有スル總震災手形ノ債權ハ、果シテ二億七百萬圓限リデアルカ、之ヲモウ一度ハキリ御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、而モ若シ出来ルナラバ其内容ガ各銀行ノ信用ニ一公表スルコトニ依リマシテ、御差支アレバ或ハ秘密文書デモ宜シウアリマスガ、御互ガ之ヲ審議スルニ取リマシテ一體何銀行ガ如何程債務ヲ有シテ居ルカ、或ハ其中デモ特殊ナ銀行ガ殊ニ大キナ數字ヲ持テ居ルト云フコトヲ承テ居ルノデアリマスガ、或ハ一千万圓以上ヲ有スルヤウナ銀行ハ何々銀行デアアルカト云フコトヲ、參考トシテ承テ置キタイト思フノデアリマス、ドウシテサウ云フコトヲ御尋スルカト申シマスレバ、苟モ經濟界ヲ平和ナラシムルニハ、勿論特殊ナ手段モ必要デアリマセウガ、今日ノ時勢少クモ政府ガ常ニ唱ヘラル、社會政策、或ハ今日御互ガ最モ危險ヲ感ズル政府ガ極端ニ恐レラレル危險思想、斯ウ云フ思想ハドウ云フ方面ニ胚胎スルカト云ヘバ、特殊ナル資本家ヲ擁護シテ、一般民衆ヲ擁護シナイ所カラ起ルト思ヒマス、私ハ其數字ニ依リマシテハ篤ト御互ニ考慮シナケレバナラヌト思フノデアリマス、寧ニ間キマスレバ、某々特殊銀行

ヲ救済スル爲ニ震災手形ノ美名ヲ藉リガ、大穴ノアル長イ間ノ懸案デアッタ、震災ガナクテモ既ニ整理ヲ要スベキ銀行、或ハ其銀行ヲ背景トシタル某々二三ノ銀行ノ整理ヲヤルト云フコトハ、即チ震災ノ美名ヲ藉リテ之ヲヤルモノデアリマスカラ、吾々洵ニ不審ニ堪ヘナイ、私共ハドウセ傷ガアル銀行デアアルナラバ徹底的ニヤリタイト思フ、何モ震災ト云フ名ヲ藉リナイデ、特殊銀行整理法案デモ出サレタラバ、誠心誠意協賛スルノデアリマス、唯、震災ノ名前ヲ藉リマシテ、バラツト之ヲ胡麻化シテ行クト云フコトハ、政治ノ公明ヲ唱ヘル現内閣ノ仕振トモ見エナイノデアリマス、次ニ私ハ今回ノ所謂整理法案ト云ヒマスガ、其内面ノ背景ガ所謂大資本家ノ擁護トナリ、特殊銀行ノ擁護トナツテ、一般罹災者タル庶民階級ニハ洵ニ縁遠イモノデアリマス、其點ニ付キマシテ政府ハ特ニ他ニ何カ御考慮ガアルヤ否ヤ、ソレニ付キマシテハ別ニ方法ヲ講ジテ居ル、即チ直接罹災シテ居ル者ニ對シテハ今日尙ホ政府ガ多年獎勵ヲサレ、指導ヲサレ、低利資金ヲ貸付ケテ以テ之ヲ督勵サレテ居リマスル所謂産業組合、信用組合、是ハ未ダ創立早々極メテ微々タルモノデアリマシテ、罹災者ノ數、金額ハ小サイケレドモ、銀行モ利用シナイヤウナ小サイモノデアリマス、斯ウ云フモノハ全然今日マデ大藏省ハ抛テ置イテ、サウシテ數字ノ大キイ、多ク資本家階級、特權階級ノ銀行ニ關係アルモノ、ミヨ此様ナ非常ニ負擔ノ掛ルモノヲ設ケラレテ俄ニ解決シヤウ、私ハ大藏當局ニ此市街地信用組合、斯ウ云フモノヲ獎勵シツ、アリナガラ、尙ホ今日何等方法ヲ講ゼナイト云フコトハ、即チ政府當局ノ腹ノ中ニ庶民階級ヲ認メナイト云フ精神ガアル、私ハ是ヨリ所謂危險ナル思想ハナイト思フノデアリマス、單ニ思想ハ不平ヲ持ツト云フコトデアアル、此點ニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ承リタイ、一旦斯ウ云フ案ヲ出サレタ以上ニハ、斯ウ云フ方面モ研究シテ欲シイ、之ヲドウシテ吳レト云フヤウナコトハ色ミアルト思ヒマス

ガ、殊ニ保險會社ハドウナサル御積リデアアルカ、アノ當時ニ半分ハ貰ヘル、或ハ一割ハ貰ヘル、到頭當局ノ御調停ニ依リマシテ五分ヲ貰テ、サウシテ保險會社ハ八千万圓ト云フ資金ヲ政府カラ借りテ居ルノデアリマスガ、銀行ノミ一億圓位只遺ル、保險會社ハドウシテ吳レルカト云フ聲ガ必ズ起テ來ルト思ヒマス、政府ハ斯ウ云フ方面ニ對シテドウ云フ御所見ガアルカ(拍手)尙ホ今回此法案ニ關係シタ事ニ付キマシテ新聞紙ニ掲載スレバ、政府ハ之ヲ掲載禁止スルト云フコトデアリマス、或ハ直接此案ノ批評、内容ニ觸レタト云フコトデナクとも、之ニ關係シテ何か某商店ガ殊更ニ特殊銀行カラ借りテ居ルト云フヤウナコトヲ書ケバ、直ニ禁止サレルト云フヤウナコトガアルト云フコトヲ聞イタノデアリマスガ、サウ云フ事ガアレバアル程、私共實ニ不審ニ思フノデアリマス、詳シク案ノ内容ヲ徹底的ニ調べナケレバナラヌ必要ガ起ツテ來ルノデアリマス、最後ニ私ハ今一ツ一寸此問題ニハ少シ縁遠イノデアリマスルカラ、私ガ斯ウ考付キマシタ一ツノ思付キデ、此機會ニ政府ニ御尋シテ見タイト思フノデアリマスルガ、ソレハ先般來新聞ニモテヨコチヨコ見エテ居リマスル一圓紙幣發行換、ソレデ相當所謂燒ケタリ廢レタリシマシテ利益ガ舉ルト云フコトデアリマス、尙ホ日本銀行ノ報告ヲ見マス、多年使ツテ居リマシタ小額紙幣ノ一モウ今日ハ發行ガ止ンデ居リマスルガ、アレデモ二千四百萬圓以上モ換ヘニ來ナイ人ガアルト云フ數字ガ現レテ居ルノデアリマスガ、政府ハ進シテ一圓紙幣或ハ小額紙幣ノ整理ノミナラズ、震災デ澤山ノ紙幣ガ燒ケタ、或ハ長イ間日本銀行兌換券ガ流通シテ居リマス爲ニ、或ハ無クシタリ燒ケタリシマシテ、隨分私ハ想像モ付キマセウガ、小額紙幣ハアノ僅ノ年限ノ間ニ大シタ數字デナイ流通デ、是ハ今日二千万圓以上モ、モウ換ヘニ來ナイ人ガアルコトニナリマスレバ、日本銀行始ラズ數字上、或ハ一億圓位ノ私ハ此實際今

日流通紙幣トシマシテ數ヘラレテアルケレドモ、本當ハサウ云フモノガ無クナツテ居ルモノガアルノデハナイカ、是ハ日本銀行株主ノ一體利益ニナルノデアアルカ、政府ハ特別ノ法案デモ出サレテ、之ヲ國庫ノ收入トサレル意思ガ有ルカ無イカ、勿論私ハ日本銀行ハ黙シテ是ダケノモノハ自分ノ所有ニ歸スルト云フコトハシナイト思ヒマスガ、政府ハ此際或ハ小額紙幣ノ所謂利益金、或ハ一圓紙幣ノ發行外ニ生ズル利益、或ハ進シテ日本銀行法ヲ改正サレマシテ、此紙幣全體ヲ整理サレマシテ、若シ一億圓位デモ得マスレバ、ソレモ何時カ多分加藤友三郎内閣ノ時カト思ヒマスガ、銀貨改鑄益金ニ依リマシテ先ツ事業ヲ大ニヤル、或ハ其金ノ一部分ガ教育ノ方面ニ使ハレマシタ事デアリマスガ、サウ云フ法案ヲ出サレマシテ、徹底的ニ整理サレマシテ、若シ一億圓位出レバ、其出タ金デ斯ウ云フモノヲ整理サレルコトハ如何ニモ自然デアアル、サウ云フ御意思ハアルカナイカ、既ニ研究サレテ居ルカドウカ、或ハサウデナクとも、燒ケタリ廢レタリシタ金ナラバ、ソレヲ以テ大ニ社會事業ヲ振興スルト云フヤウナ御意見ハナイカ、其點モ丁度好イ機會デアリマスカラ併セテ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス(拍手)

○議長(稻谷義三君) 片岡大藏大臣 (國務大臣片岡直溫君登壇)

○國務大臣(片岡直溫君) 只今星島君ノ御質疑ハ洵ニ御尤ト存ジマス、之ニ御答ヲ申上ゲマスガ、此銀行ノ數、手形ノ持主ト云フヤウナ風ノコトマデ申上ゲルコトガ、御理解下サルニハ極メテ捷イ道デアリマス、併ナガラ此經濟界ノ實狀ハ御承知下サル通り、機微ノ間ニ可ナリ衝動ヲ與ヘルモノデアリマシテ、今此内容ヲ公開ノ席デ申上ゲルト云フコトハ、是ハ遠慮スベキコト、思ヒマス、又割引手形ノ發行ノ全殘テ居リマス二億七百萬圓ニ對スル割引ノ件數ハ、約三千四百位ナモノデアリマスガ、ソレナラ唯一、三千四百人ダケト見テ宜シイカト申シマス、斯カル場合ノ手形ニハ御承知ノ

通り保證トカ裏書トカ云フモノガ必ス、三四人ハサレテ居ル等ノモノデアリマス、ソレ故ニ手形毎ニ調ベマセヌケレバ、確ナ數ハ申上兼ネマスケレドモ、約一萬前後ノ關係數デアラウト存ジマス、今星島君ハ資本家ノ爲ニ極メテ力ヲ盡スト斯ウ仰セラレタノデアリマスガ、銀行ノ如キハ資本家ガ資本ヲ御シテ設立シテ居ルモノニ相違ゴザイマセヌガ、併ナガラ其銀行ニ多クノ預金ヲ提供シテ居テ、若シ其銀行ガ破綻ニ陥ルト云フガ如キ事ガアレバ、茲ニ非常ノ庶民階級ノ人ニ迷惑ヲ與ヘテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス(拍手)是等ニ關係ガ無イト仰セラレルト云フコトナラバ、財界ノ實狀ガマダ少々御分リニナラナケレバ御協賛リマス、是ハ御分リニナラナケレバ御協賛モ出來ヌコトト存ジマスルカラ、成ベク此委員會ニ於キマシテ、何等カノ方法ニ依テ人ノ名譽ヲ害セズ、サウシテ直接ニ影響ヲ與フルコトナクシテ、成程已ムヲ得ザルモノナリト云フ御諒解ヲ得ルヤウニ努メテ見タイト思フデアリマス(ヒヤ)「拍手」起リ又「不公道、此際公明ニ明瞭ニ大藏大臣發表スベシ」モウ明瞭此上モナイト呼フ者アリ)是ハ最初ニモ申上デマシタ如ク、銀行名ヲ擧ゲ、手形ヲ發行シテ居ル者、保證人ノ名前等ヲズト表ニ作シテ差出シマスレバ、是程ソレニ對スル明カナモノハナイノデアリマス、併ナガラソレハ其人ノ信用ニ關シ、其事柄ガ却テ世人ノ不安ヲ惹起スト云フコトニナリマシテハ相成ラヌデアリマス(ヒヤ)「其通り」ト呼フ者アリ)而シテ其手形ノ所有者ノミガ此財界ノ整理ニ關スルカト申シマスルト、是ガ整理シナケレバ、其波動ノ及ブ所ノ範圍ハ私ハ極メテ廣イト思フ(拍手)實ニ此問題ハ私ハ當局者トシテ可ナリ頭ヲ痛メテ居ル問題デアリマス、決シテ諸君ノ言ハル、ガ如ク一部ノ資本家ヲ救済スルガ爲ニ、斯様ノ事ヲ爲スト云フガ如キモノデハナイデアリマス(拍手)或ハ其結果トシテ資本家モ自然助カルト云フ影響ハ受クルデアリマセウ、是ハ自然ノ事デアラ、又嘉スベキコトデアラ

ウド思ヒマス(拍手)若シ之ヲヤレバ保險會社ハドウスルカト云フコトモ一ツノ御質疑デアリマス、成程震災當時ニ於テ保險會社ノ保險金、火災保險會社ノ保險金支拂ニ付テ問題ニナリマシタコトハ、今此處申上ダル必要モナイト存ジマス、其結果トシテ政府ガ金ヲ貸シテ、サウシテ保險會社ハ其保險金ノ幾分カヲ被保險者ニ與レタ、ソレヲ以テ其問題ハ解決シタノデアリマス、當時ノ此遺方ガ善イカ惡イカト云ヘバ、是ハ私ハ議論ノ餘地ガアルト存ジマスガ、是ハ全更論ジテモ仕方ガナイ、兎ニ角左様ニシテ其當時ノ問題ハ解決シタノデアリマス、而モ是ハ保險會社ト政府、又被保險者相對的ノ間ニ於テ相談ガ熟シテ、ソレニ決シタモノデアリマシテ、今其決シタコトニ對シテ各保險會社ハ履行シツ、アル所デアリマシテ、其履行ニ差支ガ起ラタ時ニハドウスルカト云フガ如キコトニナリマスレバ、又問題トナリマセウガ、此問題ト此震災手形ノ處理法案トハ同一ノモノトハ見ラレヌデアリマス、ソレカラ此震災手形ノコトニ關シテ新聞紙ニ書ケバ、之ヲ禁止スルヤウナコトヲスルサウダガト云フコトデアリマスガ、是ハ私ハ一向存ジナイ事柄デアリマス、ソレハ恐ラク昨年ノ暮ニ於テ臺灣銀行ノコトヲ記載致シテ、財界ニ多少ノ動搖ヲ與ヘルト云フガ如キ虞ヲ抱イタコトガアルト思ヒマス、之ヲ内務省ニ於テ安寧ヲ維持スル爲ニ、其記事ヲ止メタト云フ如キコトガアルト承シテ居リマス、併ナガラ此震災手形ト云フモノニ關シテ、私ハ左様ナコトヲ警視廳ニモ内務省ニモ請求シタ覺モナケレバ、又其必要ハ更ニナイ、段々書イテ居ルデアリマス、此自由ヲ抑ヘルト云フコトナドハ少シモ必要ハナイト思フテ居リマス、次ニ一圓紙幣ノ整理ヲスル考ハナイカ、延イテ一般ノ貨幣ノ整理ヲスル考ハナイカ、或ハ此考ガアリトセバ多少ノ減失シタモノガアルニ違ヒナイガ、ソレ等ヲ以テ是等ノ金ニ當テルト云フコトハ、少シモ考應シテ居ラヌカト云フ御尋デアリマス、如何ニモ御説ノ通り我國ノ貨幣制度ハ古キ時

代ヨリ其儘ニ繼續シテ來テ、今日ニ至テ居ルデアリマス、殊ニ東京初メ外數縣ニ亘ラテノ震災火災ニ際シマシテハ、大キナ金ハ或ハ減失シタモノハ少イカモ知レマセヌガ、小紙幣ニハ可ナリ多カラウト思フテ居リマス、又大キナ部分ニモ必ズアルト思フテ居リマス、併シ今茲ニ御連ニナリマシタヤウニ、果シテ一億圓アリヤ否ヤト云フコトノ斷定ハ付キマセヌ、併シ多少アルニ相違ナイト考ヘマス、ソレ故ニ近日金融調査委員會ノ決議ヲ得マシタナラバ、此議會ニ貨幣整理ノ法律案ヲ提出スル積リデアリマス、其結果トシテ多少日本銀行ノ帳面ニ存シ、市場ニ流通シテ居ルモノト認メラレテ、流通シテ居ラザルモノガ現ハレテ來ルト思ヒマス、其金ハ斯ル、公債ノ一億圓ノ補償ヲシタト云フガ如キモノニ對シテ、之ヲ減債基金ニ繰入レルト云フガ如キコトハ、一ツノ方法デアラウト存ジテ居リマス、恐ラク此事柄ハ國民一般モ同一ノ考ヲ持テ居ラレルト存ジマスカラ、委員會ニ於テモサウ審議ニ暇取ルモノトハ考ヘテ居リマセヌ、唯少シク茲ニ問題トナリマスルハ、一圓紙幣ト云フモノハ是ハ金貨ヲ以テ交換スルモノニナラシメテ、一寸我國ノ貨幣制度ノ上カラ申シマスルト頗ル不完全ナモノニ在ルデアリマス、ソレ故今之ヲ新ニ一ツ手法ヲ變ヘマシテ、此準備ヲ置クコトニ付テ準備ニスルカ、或ハ金準備ニスルカト云フコトニ付テ、多少學者間ニモ議論ガアル事柄デアリマスガ、此議論ノ外ニ恐ラク實質ニ於テハ議論ガナイト存ジマスカラ、成ベク此議會ニ速ニ提出シテ御協賛ヲ仰ギタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○星島二郎君 今一點重要ナ點ヲ御答辯ヲ御志レニナリマシタカラ、重ネテ御尋致シマス、私ハ銀行ノ救済ハ決シテ惡イトハ思ハヌ、一般預金者ニ迷惑ヲ及ボスコトデアルカラ、出來ルダケ救済セラレタイノデアリマスガ、唯、本案ノ内容ニ於テ如何ニモ庶民階級ヲ重シナイデ、唯、特殊ナ主ナル人ヲ救フガ如ク見エハシナイカト思フノデアル、其一例トシテ例ヘバ大藏省ノ所管ニ屬スルモノカ、或ハ農林省ト共同ノ所管ニナラシメルカ知リマセヌガ、彼ノ信用組合ノ如キ、普通銀行ト同ジヤウニ矢張震災手形ヲ持テ居テ、其額ハ二百萬圓ノ多キニ及ビ、人數モ五千人以上ニ達シテ居リマス、然ルニ斯ウ云フモノガ考慮セラレズニ居ルデアアル、ソレ故ニ是等ニ付テモ今後考慮ヲセラル、御考デアルカドウカト云フコトヲ、先程御尋シタノデアリマス

○國務大臣(片岡直温君) 只今ノ御質疑ハ先刻モ御連ニナリマシタガ、私ハ其御趣旨ノ在所ヲ少シ了解シ兼ルノデアリマス、信用組合ニ對シテ何等カ施設保護スル考ガアルカト云フ若シ御問デアリマスナラバ、信用組合ハ今ノ儘デハ前途懸念ヲ致シテ居リマス、相當ノ手法ヲ講ジナケレバナラウト存ジマスガ、是ハ所管ガ只今ノ所デアリマス、私ノ方ノ所管デハナイノデアリマスケレドモ、ソレニ拘ラズ相當意見ノ交換ヲ致シテ居ル所デアリマス、又只今說明ヲ致シマシタ事柄ガ、庶民階級者ニ何等ノ關係ガナイヤウニ思召スカ知レマセヌガ、震災手形ノ處理法其モノハ其通りデアリマスケレドモ、併ナガラ是ガ極マリマス同時ニ、金融界ニ對シテ相當ノ整理ヲ付クサセナケレバナラヌ、是ガ解決シナイト云フト、其整理ノ目的ガ達シ得ラレト思フテ居リマス、其連セラレナイ所ノ結局ハ何處ニ行クカト云ヘバ、庶民階級ノ人モヲシテ甚シク苦痛ヲ感ゼシムルヤウニナラシメテ相成ラヌト考ヘテ居リマス、此際ニ於テ庶民階級者ニ對シテ何等ノ考ヲ持テ居ラナイト云フ思召ガアルヤウデアリマスカラ、一言添ヘテ置キマスガ、是モ金融調査會ノ決定ヲ見ナイ内ハ少シ早過ギマスケレドモ、ドウシテモ地方ノ各町村ノ庶民階級ニ對スル金融ノコトヲ考ヘナケレバナラヌト思フテ居リマス

〔粕谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代リ著席〕

是ハ或ハ地方ニ於ケル信用組合ト聯絡ヲ取ルト云フコトモ必要デアリマセウガ、大

體ハ預金部ノ低利資金ヲ供給シテ、其目的ヲ達シサセヤウト云フ積リテ居ルノデアリマス、是モ本議會ニ於テ御協賛ヲ願ヒタイト存ジテ居リマス、併シ案ノ出來ナイイカラ堅イ御約束ハ出來マセケレドモ、私ノ考ヘテ居ル所ヲ申上ダテ置キマス

○星島二郎君 ドウモ御答辯ガ甚ダ要點ニ觸レマセヌカラ、モウ一言申述ベマス、一般ノ庶民階級ヲ根本ニ置イテ考慮セラレタインノデアアルガ、銀行ノ救済手形ヲ斯ウ云フ風ニシテ整理ナサルノカ、大藏省ノ所管ノ事デアラフ、信用組合ノ主ナル仕事ハ手形ノ割引デアル、サウシテ凡ソ銀行ト同シヤウニ矢張震災手形ヲ持テ居ル、ソレハ二百萬圓ソコノ金額デ、而モ人数ハ五千人モアル、斯ウ云フモノヲ顧ミズシテ、單ニ此銀行ノミヲ救済ナサルト云フコトハ、片手落デハナイカト思フ、殊ニ僅ノ銀行ヲモ利用出來ナイヤウナモノガ、大藏省デ阻止サレツ、信用組合ヲ利用シテ居ルノミデアアル、斯ウ云フモノヲ顧ミラレナイト云フハ、所謂大藏大臣ノ腹ガ資本家ノミヲ支持サレル御考カドウカ、今後ニ於テ庶民金融機關ニ付テモ此震災手形ハアルムデアル、而モ人数ハ多クシテ、金額ハ少クトモ斯ウ云フモノニ付テ考慮サレテハ居ナイノカ、此點ヲ質問致シタイノデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 片岡大藏大臣

○國務大臣(片岡直温君) 先刻ノ御質疑ヲ私ハ十分ニ其眞意ヲ能ク呑込メナクテ御答致シタ所ヨリ違フタノデアリマス、想フニ御尋ノ要點ハ、震災地ノ信用組合ト云フガ如キモノヲ顧ミナイノハ甚ダ宜シカラヌデヤナイカト云フ御趣旨ヲラウト思フ、ソレナラバ、震災地ノ産業組合モ、復興資金トシテ預金部ヨリ五百四十萬圓、復興債券募集ヨリ百萬圓ヲ融通シテ居ル、全ク顧ミテ居ラヌト云フノデアリナイノデアリマス(ソレハ震災手形トハ違フト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君) 岩切重雄君

○岩切重雄君 只今星島君カラ大藏大臣ニ

對シテノ質疑ヲナサレタノデアリマスガ、私モ二三ノ點ニ付テ質問致シタイノデアリマス、聞キマスル所ニ依ルト、大藏大臣ハ自分ノ在職中ニ於ケル仕事トシテ震災手形ノ整理、金ノ解禁ノ如キ、重大問題ヲ解決シタイト云フヤウナ御希望ガアルト云フヤウナコトヲ承テコトガアルノデアリマス、是ハ本當カ嘘カ、傳ヘ聞イタ所デアリマスガ、假ニサウ云フ重大ナル問題トシテ之ヲ整理シタイト云フ御考ガアルナラバ、星島君ガ質問致シマシヤウニ、世間ノ一種ノ疑、或ハ疑問ト云フ如キモノハ最モ國民ニ了解アル方法ヲ執ラレテ、サウシテ此案ノ成立ヲ促サレルコトガ、大藏大臣ノ名譽ノ爲ニ一層善イ事デハナイカト私ハ思フノデアリマス(拍手)是ハ單ニ吾々ハ大藏大臣ガ出サレタカラ反對スルトカ、質疑ヲスルト云フノデハナクシテ、經濟界ニ及ボス影響ガ極メテ重大ナルモノデアルト云フコトヲ言ハレテ居ルダケ、吾々ハ斯ウ云フ問題ハ慎重ニ吟味ヲシ、質問シタイ所十分質問置カケレバ、大藏大臣ニ對シテモ不深切デアルト思ヒマスカラ、是等ノ點ヲ更ニ質問ヲ申上ゲルノデアリマス、此震災手形ハ色ニナル意味ニ於テ經濟界ニ影響ガアル、第一ハ公債政策ト云フ一ツノ大キナ經濟政策ノ中ニ、此震災手形ノ整理ト云フモノガ込込ラレテ來テ、茲ニ一ツノ意味ヲ持テ來ル、第二ハ震災手形自身ガ如何ナルモノデアアルカト云フコトノ經濟上ノ意味ガアル、ソレカラ若シ大藏大臣ノ金ノ輸出解禁ニ對シテハ、經濟界ヲ整理シテ準備シテ置カケレバナラヌト云ハレルノデアリマスコトガ、若シ是ガ準備ニ必要ノ行爲デアリトスルナラバ、此意味ニ於キマシテモ震災手形ト云フモノ、整理ガ、經濟界ニ非常ナ重大ナル意味ヲ持テ來ルノデアリマス、私ハ先ツ順序ト致シマシテ、震災手形ソレ自身ガ經濟界ニドウ云フ影響ヲ持チ、如何ナル疑點ヲ持ツカト云フ點ヲ先ツ質問スルノデアリマス、第一ト致シマシテハ只今大藏大臣ノ御説明ニモアリマシタ如ク、震災手形ナルモノハ大正十二年ノ大震災ノ際ニ於

ケル俄カナル處置トシテ、震災手形ノ損失補償令ナルモノニ依テ此事ハ行ハレテ來タノデアアル、然ルニ其後二回モ延期サレマシテ、今年ノ九月ニハドウシテモ之ヲ整理シナケレバナラナイト云フコトニ相成テ來タ、其計數ニ於キマシテハ、所謂スタンブラ捺シマシタ所ノモノガ四億三千方圓以上アツタモノガ、其中カラ二億方圓以上ノモノガ整理サレテ、残りノ二億方圓ト云フモノガ今日茲ニ殘テ居ルカラ、之ヲドウ云フ風ニシナケレバナラヌト云フノカ、此震災手形ノ所謂整理案デアアル、ソコデ吾々ハ疑問トシ、又世間一般ノ思想ノ上カラ此處ヘ一ツノ疑ガ起リ、又問ハント欲スル問題ノ起テ來ルノハ、若シ此震災手形ナルモノガ、ドウシテモ是ハ整理ノ付カナイモノデアアルカドウカ、既ニ二億圓ト云フモノハ銘々ナカドウカ、所ガ今日ノ經濟界ニ於テハ、動モスレバ先列星島君ノ質問ニモアリマシタ如ク、經濟界ノ成り來リト云フモノガ政府ニ頼ル、何カ運動スレバ救濟ガ出來ルト云ウヤウナ一種ノ氣持ガ經濟界ニアル、最モ下級ニ在ル者ハ中々サウ云フ手ガ届カナイケレドモ、銀行デアルトカ其他ノ資本家團體ニナリマス、整理ガ出來ルモノモ政府ニ何カ頼テ行ケバ旨イコトガ出來ヤシナイカト云フヤウナ考ガアツテ、不眞面目ニ整理ヲ其儘殘シテ置クト云フヤウナコトガアルノデアリマス(ヒヤヒヤ)ソコデ一面ニハ二億圓ノ整理ヲシタ所ノ眞面目ナ事業家モアル、或ハ小サナモノハ銀行カラギウウ、詰メラレルカラ、已ムヲ得ズソレハ返シタカモ知レナイ、押付ケル者ノナイ所モ反撥力ノ強イモノガ却テ後ヘ殘テ居ル、ソレガ銀行ニ依テ殘シテ行クト云フヤウナモノガ、若シアリトスレバ、是ハ一體震災手形整理ノ上カラ考ヘテ、極メテ不公平ニナリハシナイカト云フ疑問ガ茲ニ起ルト云フコトハ、當然デハナイカト私ハ思フノデアリマス、併シ是ハ兔

アル、其目的ト其行動ハ惡クハナイノデアリマスカラ、此立派ナ計畫ヲ完全ニスル爲ニハ、此疑問ヲ解キ、更ニ未ダ整理シナイモノデモ尙ホ九月迄ニハ時間モアルノデアアルカラ、此間ニ於テ飽迄モ整理シテ公債ノ交付額ノ少クナルト云フコトハ、結局理想デハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、之ニ對シテハ果シテ大藏大臣ハドウ云フ考ヲ持テ居ラレルカ、是ガ私ノ質問ノ第一デアル、ソレカラ其次ニ第二、第三、星島君ノ質問サレタコトヲ申上ダヤウト思フテ居タノデアリマスガ、是ハ既ニ星島君ニ依テ問ハレマシタカラ申上ダマセヌ、即チ震災手形ノ内容、是ハ委員會デ聽カレルト云フコトデアリマス、其次ハ保險會社其他ノ未整理、マダ震災ト云フモノニ依テ影響ヲ受ケタモノハ澤山アル、是ハ決シテ銀行バカリデヤナイ、無形ノ救ハレザル所ノ間ニ、或ハ財産ヲ潰シ、自分ノ家ヲ燒キ、色ニナモノガアル、斯ウ云フモノガドウ云フ考ヲ斯ウ云フモノデ起スカト云フコトモ、私聞キタイ一ツデアリマシタガ、是ハ星島君ガ聞キマシタカラ、私ハ此問題ハ聞キマセヌ、今一ツハ貸付ニ依テ向フ十箇年間に交付公債ヲ爲スト云フノデアリマスガ、是ハ私ハ考ヘヤウニ依テハ、整理ヲ延バスト云フコトニナリハシナイカト思フノデアリマス、成程今日整理ガ此處デ行詰テ來タカラ、何トカシナケリヤナラヌ、ナラヌガ公債ヲ貸付ケテ十箇年デオ前ハ之ヲ返シテ行ケト云フナレバ、整理ヲ十年延スト云フコトニナルガ、十年後ニ於キマシテ、此貸付ケタ一億圓ト云フモノガ果シテ返テ來ルカドウカト云フコトニ私ハ疑問ヲ持ツノデアリマス、若シ是ガ返ラナイ、政府ノ追窮ガツレ程マデ行カズシテ、此儘ニ貫クタト云フヤウナ氣持デ、整理ヲ怠ルト云フコトニナレバ、結局此一億圓ト云フモノハ誰ノ負擔ニナルカト云フハ、國民ノ負擔ニナラズ、現内閣ノ題目デアリナガラ、交付公債ガ幾ラモ殖エテ來ルト云フコトノ非難ガアルノモ、是モ一ツノ私ハ問題ニナツテ來ルノ

デハナイカト思フノデアリマス、此點ニ對シテハ大藏大臣ハ如何ニ御考ニナルカ、其次ハ此種債權ヲ交付ナサレマスノニ付キマシテハ、ドウ云フ基準ニ依リテ之ヲ交付サレルカト云フコトデアリマス、唯、誰ニドシテ風ニシテ其一億圓ト云フモノヲ渡スカト云フコトデアル、之ニ付テ色々ノ場合ガアルデラウト思ヒマスガ、若シモデス、支拂能力ヲ欠ク所ノ銀行ニ對シテ、之ヲバ交付スルトスルナラ、支拂能力ヲ欠クト云フ銀行ハ一體ドウ云フ銀行デアルカ、如何ニシテソレヲ認定スルカ、拂ヒ得ル銀行ニヤル必要ハナイ、拂ヘナイ銀行デアレバ償レルカモ知レナイ、償レル銀行デアレバ返サナイカモ知レナイ、支拂能力ガアルテ、而モ償レルト償レナイトノ境ニアルヤウナモノデナクテ、其整理公債ト云フモノガ交付サレナイヤウニモ私ハ思ヒマスガ、是ハ私ノ考ガ誤リ居ルカモ知レマセマス、此疑問ヲ大藏大臣ニ一ツ解イテ貰ヒタイト云フノガ質問ノ一ツデアリマス、最後ニ此問題ガ震災手形ソレ自身ニ經濟界ノ價值ヲ有スルノミナラズ、大キナル意味ニ於ケル公債政策ト云フ立場カラ、非常ナ意味ヲ持テ居ルト云フコトヲ私申上ゲタイノデアリマスガ、此點ヲ一言私ハ附加ヘテ置キタイト云フコトヲ以テ、非常ナ立派ナル看板トシテ掲ゲテ來ラレタノデアリマス、今年度ニ於キマシテハ、剩餘金ヲ以テ四千四百萬圓ノ公債ニ返ス、減債基金法ノ外ニ是ダケヲ餘計ニ返スカラシテ、公債ヲ少クスルト云フヤウナコトガ、非常ナ誇トシテ執ラレテ居ルノデアリマスガ、併シ事實ニ於テハ現ニ一億五千萬圓ト云フ公債ガアル、是ハ度々此演壇ニ於テ、或ハ豫算會議ニ於テ論議サレタ所デアリマスガ、一方ニ減債基金ノ外ニ四千四百萬圓ヲ加ヘタモノヲ引イテシマツテモ、尙ホ一億五千萬圓ト云フモノガ公債トシテアルノデアルカラ、差引ハ失張公債ガ殖エルト云フ議論ヲシテ居ル、所ガ其他ニ又茲ニ震災手形ナルモノガ二億圓増シテ來ラレルト云フコトニナルト云フ

ト、國債ノ全體ノ上ニハ矢張是ダケハ殖エテ來ルト云フ是ハ算盤ニナル、其外尙ホ一段案ガ出テ來ルノヲ見マスト、或ハ九州製鋼所ヲ買収スルト云フ案モアリ、私設鐵道ノ買収ト云フ案モアル、是モ定メシ交付公債ニ依ルト云フコトニナルデラウト思ヒマスガ、然ラバ交付公債ナルモノハ幾ラデモ殖エテ來テ、今年度全體ノ公債ノ増加スル額ト云フモノハ、蓋シ何億圓ト云フモノニナルデアラウト考ヘマスガ、是等ハ現内閣ノ公債政策ノ上カラ考ヘテ、一部ノ矛盾ヲ茲ニ表明シタモノデハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手起ル)此點ニ付テハ直接震災手形ソレ自體ノ問題デアリマセマセ、レドモ、經濟政策ノ全體ノ上カラシテハ、到底此點ニ付テ考フ及ボサマルヲ得ザル點デアルト考ヘマスカラ、之ヲ御尋スルノデアリマス、簡單ニ一言申上ゲマスレバ、金ノ解禁ニ對スル準備ノ爲ニ、事業界ノ整理ガ必要デアルト云ハレルガ、是非非常ナ大キナ問題デアツテ、是レ一ツバカリデ金ノ解禁ノ準備トモナラナイガ、是ガ大海ノ一滴ニデモナレバ、ソレモ仕合セデアリマスガ、其他ノ整理ト云フコト、是ハ昨日委員會デモ申上ゲタノデアリマスガ、整理ニ對スル大藏大臣ノ考ト云フモノガ、時々私ハ違フヤウニ思フ、眞面目ナ活キルモノハ活カシテ行ク、減シテ行クモノノ此經濟不況ノ時代ニ飽迄助ケテ行カナケレバナラヌト云フ理由ハナイ、眞ニ經濟界ヲ整理シヤウト思フナラバ、寧ろ活キルベキ命ノアルモノハ育テ、行クケレドモ、然ラザルモノハ潰シテ行クコトガ、却テ經濟界ノ整理ニナルト云フコトハ、是ハ前大藏大臣ノ濱口藏相ニ依リテ私ハ教ヘラレテ、而モソレガ正シト私ハ思フテ居ル一人デアリマスカラシテ、此點ガ如何ニモ先日カラ言フ如ク、色々ナ會社デアルトカ、色々ナ銀行ニ對スル整理ガ二三ニナルト云フコトハ、事業界ノ整理ノ爲ニハ餘リ宜シクナイ結果ヲ來シテ居ル、金ノ輸出解禁ノ準備ト云ヒナガラ、而モ整理ガダラシニナツテ、死ニ掛タモノガ半バ活キテ來ルト云フコトニナルカラ、

是ハ宜シクナイデハナイカト云フ點ヲ一言申上ゲテ、私ノ質問ヲ終リマス(拍手)
(國務大臣片岡直温君) 第一ノ御質問ハ、之ヲ整理スルト云フガ却テ整理ヲ延スモノデヤナイカト云フコトガ御主眼デアツタト存ジマス、如何ニモ我が國民性ノ多分ト申シテハ少シ害ガアルカモ知レマセマカ、一部ニ政府ニ寄リ總ルト云フ嫌ノアリマスルコトハ、御論ノ通りデアリマス、是ハ餘リ褒ムベキコトデアリナイト存ジマス、併ナガラ、此今度ノ處理法案ナルモノガ、政府ニ賴リタナラバ結局免ル、コトガ出來ルカト云ヘバ、支拂能力ノアル者ハ免ル、コトハ出來ナイノデアリマス、即チ手形ヲ發行シテ居ル者ハ、其割引ヨシテ貰ヒテ居ル銀行ニ向テ、今度ハ手形デナクシテ借用證文ニスル、其借用證文ニスル場合ニ於テ、最長期間十年デアリマスカラシテ、其人ノ身代ノ狀況ニ依リテ二年モゴザイマセウ、五年モゴザイマセウ、要スルニ手形ガ今度ハ借用證文ニスル、年賦ノ借用證文ニスル、其借用證文ヲ以テ日本銀行ヘ持ッテ參リマシテ時ニ、今度ノ協賛ヲ得マシタナラバ、公債ヲ貸シテヤルノデアリマス、而シテ之ニハ利息ヲ拂ハナクチャナラナイ、而シテ之ニハ利息ヲ償還ハシナクチャナラナイ、而シテ之ヲ取扱フ所ガ日本銀行デアリマシテ、日本銀行ハ即チ一般ノ銀行ノ中樞トシテ、常ニ日本銀行ニ對シテハ信用ヲ維持シテ行カナケレバナラヌモノデアリマスカラ、是等ノ取扱ニ對シテ日本銀行ノ信ヲ失フヤウナ仕向ケハ出來ナイ筈デアル、如何ニ政府ニ依頼シタカラト云フテモ、政府直接ノ貸借ヲスルモノデアハナクシテ、日本銀行ヲシテ取扱ハシメル、日本銀行ヲシテ何故取扱ハシムルカト云フト、今日マデ日本銀行ガ「スタンブ」ヲ捺シテ割引ヲシテ居ル關係ニ於テ、サウアルコトガ實際ノ情況ヲ知ルコトニ於テ便宜デアリマス、斯ウ云フコトヲスレバ、一時デモ免ニ角公債ト云フモノデ、日本銀行借金ヲ借レルヤウニナルカラ、延ルデヤナイカト云フ御懸念デアリマ

スガ、今申上ゲル通り結局拂ハナクチャナラヌ、サウシテ斯ウ云フ借リ方ヲシテ居ルコトガ、吾人ニ取ツテモ決シテ名譽ノモノデヤナイ、ソレ故ニ避ケ得ラる、限リハ避ケルコトデアリマセウガ、何分今直グトシテハ困ル、相當立派ナ様子ヲシテ居リマシテモ、内面ニ於テハ苦シイ時代ハ誰シモアルコトデアリマス、サウ云フ場合ニ於テ幾ラカ年賦ノヤウナ方法ニスレバ、體面ヲ損セズシテ借リルコトガ出來ルト云フ部分ノ人モ多少アリマス、今迄ニ回收ノ出來易イモノハ回收サレテ居リマス、即チ其結局ノ残りガ二億七百萬圓ニナツタ譯デアリマスガ、其二億七百萬圓ノ手形ノ中デ、回收不能ト云フモノニナルベキモノ、見込ガ私ハ一億圓ヲ出マイト思フ、サウシテソレハドウシテヤルカト云フ今御尋モ申ニアツタノデアリマス、是ハ結局御尋ノ通り、會社デ申シマスレバ積立金モ減ラス、或ハ資本ノ銷却モスル、而モ之ヲ拂ハウトスレバ償レルノ外ハナイ、所謂支拂ノ能力ガモウナイ、是ニ至ラタモノデナケレバ補償ハシナイノデアル、此補償ヲスル場合ニ於ケルコトハ、極メテ公明正大デ、且ツ公平デナケレバナラヌノデアリマス、是ハ現ニ今日モ内規ガアリマスケレドモ、更ニ官民ノ中ヨリシテ相當此調查機關ナルモノヲ置イテ、此決議ニ依テ實行致サウト思フテ居リマス、此御尋ノ精神ハ質問者ト同ジコトデアリマス、而シテ延ビハセヌカト云フコトニ對シテハ、今申上ゲタ通りノ事柄デアリマシテ、是ガ爲ニ延スト云フコトニ付テ幾ラ方便ガアリマセウガ、結局延シテ其損ニナラヌヤウニ仕邊ゲルコトガ出來ルカト云フト、損ニナル部分ハ此二億七百萬圓ノ中カラ選リスグツテ、損スルノハ損スル、回收ノ出來ベキモノニ對シテ其手形ノ割引者ノ能力如何ヲ見テ、貸付ノ處置ニ出ルノデアリマスカラ、是ハ損ニナルベキモノデアリマセウデアリマス、而シテ一體公債政策ノ根本ヲ打壞スデヤナイカ、矛盾デヤナイカト云フ御説デアリマスガ、如何ニモ斯様ナコトデ公債ヲ増加スルト云フコトハ、私ハ好ミマセ

又、一般ノ財政計畫ノ立方トシテハ、彼ノ大震大火ノ生ジマシタ以來、約一億五千万圓位ノ限度ヲ以テ公債ヲ發行シテ行テ、此震災ノ片付クマデハ已ムヲ得ヌト云フコトハ、是ハ常時ニ立テ計畫デアリマス、其方針ハ狂ハシテハ居リマセヌガ、サリトテ此財界ノ整理其他必要ノ事實ヲ進メマスニハ、交付公債ノ必要ノ起ルコトハ、是ハ已ムヲ得ヌ、殊ニ此二億七百万圓ノ中ノ一億圓ハ、既ニ諸君ノ御協賛ニナリテ居ル、國ガ補償スルト云フコトノ決シテ部分デアラ、唯、補償ノ方法ガ何モ備テ居リマセヌカラ、方法ヲドウシタラバ宜イカト云フコトヲ考ヘテ見ルト、今日ノ我國ノ財界ニ於テハ、此公債ニ依リヨリ外ニ途ハナイノデアリマス、是ハ現内閣ノ政策ノ上ニ固ヨリ生レタコトデハナクシテ、其以前カラ一億圓ト云フモノハ、ドウニカシテ負擔ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、國家ガ既ニ之ヲ承認シテ居ル、其残りノ一億七百万圓ト云フモノハ、今申上ダテ部分ニ屬スルノデアリマスガ、之ヲ何故貸シテヤルト云フ金ヲ茲ニ開カケレバナラヌト申シマス、ト、二億七百万圓ト云フ茲ニ震災手形ガアテ割引ヲサレテ居ル、國ガ一億圓ノ補償ヲスル、其補償スルト云フモノハ、ドノ部分ニ補償サレテ居ルカ世間ハ知ラナイ、ソレ故ニ「スタンプ」ノ捺シテアル手形ナルモノガ、多少ノ信ヲ持テ居ルノデアリマス、不完全ナガラモ不安ナガラモ幾ラカ、何日モ圓滑デアリマスマイガ、日本銀行ガ取リモ直サズ之ニ對シテ割引ヲシナケレバナラヌコトニナリテ居リマスカラ、割引ヲシテ居ルハ、是ガ今度一億圓ト云フモノガ、峻リ上ダテ、此部分ハ國ガ所得トシテ、サウシテ今度残りノ一億七百万圓ト云フモノハ、モウ此部分ニハ補償シテヤル途モ何モナイゾト、斯ウ明ニナリマス、此手形ナルモノハ、忽チ行當リダラウト思フ、是ニ於テ其行當リヲ生ジナイヤウニシテヤルト云フコトニ付テ、國ガ損ヲシナイ方法デ、何トカ途ヲ考ヘテヤルコトガ出來ルカト云フコトヲ考究シテ見ルト、今茲ニ整理法案ヲ出シ

マシタヤウニ、本人ノ方ハ借用證文ニ對スル年賦ノ借用證文ガ出來タ時ニ至ラテ、其銀行ヨリシテ公債ヲ借リタイト云フコトニナレバ、其モノガ擔保ニ供セラレテ公債ガ貸サレルノデアリマス、而シテ其公債ノ利子ハト云ヘバ、是ハ本人カラ拂フ利子、ソレカラ元金ノ償還ハト云ヘバ、是ハ年賦デ拂テ來ルモノヲ繰込シテ行クノデアリマス、國家ハ大體信用狀ヲ發行シテ來ルヤウナ性質ノモノニ屬スルト思ヒマス、併ナガラ此道方ヲ誤ラシテ杜撰ニナリマスレバ、御懸念ノヤウナコトガ生ゼヌトモ言ヘヌコトデアリマスカラ、是ハ之ニ關スル調査機關ハ別ニ作リマシテ、決シテ日本銀行バカリデモヤラズ、大藏省ノ考ダケデモヤラズ、他ニ經驗アル、信用スベキ人ヲ混ゼテ一ツノ機關ヲ作シテ、是ノ評議ノ決定スル所ニ從テ處理ヲシヤウ、斯ウ云フ考デアルノデアリマス、殊ニ公債ヲ減スルト云フコトヲ口ニシナガラ直グ殖スデヤナイカ、是ハ如何ニモ御非難ノ通りデアリマスガ、實際政治ノ進行ヲ圖リマス上ニ於テ、今申上ダレヤウナ事實ガ茲ニ積ハテ居ル時ニ、之ヲ解決シヤウトスレバ、何等カノ方法ヲ講ジナケレバ解決ノ法ガ附カナイノデアリマス、ソレデハ解決方法ヲ付ケズニ濟ムカト云ヘバ、財界ハ今ヤ諸君ハドウ御覽ニナリテ居ルカ知レマセヌガ、私共サウ云フヤウナ安心ノ出來ナイ部分、所謂癩腫ナルモノガ茲ニアルト思フ、之ヲ整理スルト云フコトヲ急テ、是ガ爲ニ他ニ波動ヲ及ボスヤウナコトヲ生ジテハナラヌト云フコトヲ、私ハ深ク憂慮シテ居ル者デアリマス、扱其憂慮ヲ解キ放サウトスレバ、茲ニ何等カ施設ヲシナケレバナラヌ、何等カノ施設ヲスルト云フコトニ付テハ、今申上ダレヤウナ國家ガ成ベク損ヲシナイヤウナ工夫ヲシナケレバナラヌ、ソレト同時ニ從來ノ儘ニナリテ居ルモノニ依テ金ヲ生シ、出ス途ガアルカト云フガ如キコトモ、一方ニ考ヘナケレバナラヌ、即チ貨幣ノ整理ヲ一方ニハヤル、貨幣整理ノ結果トシテ、減失シテ部分ガ分テ來マスレバ、其所ニ生マレテ來ル金ガ生

ズル等デアリマス、サウ云フモノハ私ハ差向キ此公債、一億圓ハ既ニ補償ヲサレテ居ルモノデアリマスケレドモ、斯ウ云フモノニ充テルコトガ最モ相當デアラウカト思フテ居リマス、又一方ニ公債ヲ募テ、一方ニ償還ヲスルコトヲ計畫スルト云フコトハ矛盾デアル、是モ一應形式カラ見マシテサウ云フ論モ立チマス、併ナガラ我國ノ公債ハ屢、當席ニ於テ説明致シマシタ通り、近來コ、十年間ニ二倍ニモナリテ居ル、本年御協賛ヲ求メテ居ル所ノモノトテ數ヘ入レマズレバ、殖エル一方デアル、凡ソ物ハ需要ト供給ノ關係ヲ考ヘテ見マシテ、供給スル方ノ分量ガ殖エテ來レバ、隨テ値ガ下ルコトハ當リ前デアル、公債ト雖モ同ジコトデアル、ソレ故ニ此公債ヲシテ一方ニ償ヲ保クシムル方法ヲ考ヘナケレバ非常ニ不利ニ陥ル、是ハ先日ノ本會議ニモ申上ダテ通り、今迄募テアル公債ガ極メテ短期デアル、此公債公債ナドト云フモノハサウ短期デハナイ、無性ニ公債ハ短期ニ募レナイ、而モ三年、五年、七年ト云フ期限ノモノデアリマスカラ、之ヲ借換ヘル爲ニ非常ニ損ヲシテ借換シテ居ル、今後ニ於テハ長期ノ公債ガ募レルヤウニ考ヘナケレバナラヌ、此現在ノ公債ト云フモノ、借換テ短期ニ繼續シテ借換ヘテ行キマスナラバ、其損失ヲ重ネルコト夥シイモノデアル、其損失ハ即チ國家ノ負擔トナリ、利子ノ支拂モ亦國家ノ負擔トナル、ソレ故ニ今ノ減債方法ヲ考究スルト云フコト、公債ノ市價ヲ確ニ恢復スルコトガ出來ル、恢復ノ出來テ居ル事實ハ市場ノ相場ヲ見テモ分ル、而シテ之ニ依テ外國ノ信用ヲ高メマシタコトハ、是亦蔽フベカラザル事實デアル、是等ハ金解禁ニ對シテ實行致シマスル時機ヲ考ヘマスルト、頗ル有利ナ事デアリナイカ、ソレ故ニ金ノ解禁ヲ致サウトシテモ、財界ノ癩腫ヲ其儘ニシテヤルト云フコトハ無論出來マセヌ、サリトテ此金ノ解禁ヲセズシテ爲替相場ノ異動ヲ時々見テ、サウシテ商業ノ發達ヲ期スルナドト云フコトノ出來ナイコトモ分リ切テ居ル、然ラバ片端カラ片付ケルモノハ片付ケ

テ行クト云フコトヲ進メテ行クニ付テハ、是ハ已ムヲ得ヌコトデアル、好シデ何モ公債ヲ增加スルノデアリマセヌガ、萬已ムヲ得ザルコトデアルト云フコトハ御諒知下サルコトデアラウト思フ、ソレカラ今一ツ現大藏大臣ノ遣リ方ハ潰スベキモノマデ活カシテ行クヤウナ事ヲヤルカラ洵ニイカヌ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、私ハ潰スベキモノヲ潰スルト云フコトニ付テ何等異議ハアリマセヌ、併ナガラ潰スベキモノノ潰ル事ニ依テ、他ノ潰シテ相成ラヌモノニ大影響ヲ與ヘルト云フガ如キコトヲ見通スコトハ出來ヌト思フ、是ハ苟モ財界ノ局ニ當テ居リマスル者ハ「冗談」ト呼フ者アリ之ヲ冗談タト云ウテ茲ニ事實ヲ語ル者ガアリマスガ、之ヲ冗談デアルト云フ程ニ財界ニ理解ガナクテハ實ニ恐レ入タモノデアル、問題ノ起リタモノソレ自身ガ潰レルコトハ問題デハナイ、其潰レルモノ、爲ニソレニ從來關係シテ居ル者ガ、ソレガ爲ニ波動ヲ起シテ大ナル破綻ヲ來スヤウナコトヲ見テハナラヌト云フコトガ、私ノ心配シテ今日マデヤテ來タコトデアアルデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 千葉三郎君

○千葉三郎君登壇

○千葉三郎君 星島、岩切兩氏ノ質問ニ依リマシテ、私ノ大藏大臣ニ問ハントスル所ハ略、明瞭ニナラヌデアリマス、本法案ハ實ニ國民ニ取テ重大ナルモノデアリマスカラ、一應其不徹底ナル答辯ニ付キマシテ、更ニ質問ヲ申上ダテタイノデアリマス、星島氏ヨリ震災ノ手形所持銀行ノ内容及其額ニ付テ明瞭ニセンコトヲ求メラレタノデアリマス、然ルニ大藏大臣ハ之ヲ委員會ニ讓リテデアリマスルガ、私ノ見ル所ニ依リマスレバ、此内容ハ一日モ速ニ國民ニ知ラシメルノガ必要デハナイカ、斯ウ考ヘルノデアリマス、若モ本法案ヲ審議スルニ當リマシテ、二十日、十九日政友本黨ノ小川博士ノ指摘シタルガ如ク、諸方ノ銀行ニ澤山ノ震災手形所持スルト云フ事實ガ眞デアリト致シマシタナラバ、殆ド多クハ回收不能デアリマシテ、此一億七百万圓

ト云フモノハ又國民が全部負擔スルコト云フコトニシテ來ルノデアリマス、故ニ此内容ヲ明ニシテ實ヒタイ、併シ多ク言フノデアリマセヌ、坊間傳フル所ニ依リマスルト、朝鮮銀行が果シテ二千万圓ノ震災手形ヲ御持テニシテ居ルカ、尙ホ臺灣銀行ハ八千万圓ヲ持テ居ルカドウカ、此事實ガ——此風評ヲ實デアルカドウカト云フコトヲ承リタイト思フノデアリマス、第二ニ伺ヒタイコトハ、此震災手形善後處理法案中ニ於キマシテ、償還ノ保證ニ關スル規定ハ僅ニ六條一項デアリマシテ、此六條ニ依リマス、私共ハ償還ヲ保證スルコトニ付テ、非常ニ薄イヤウデアリマス、大藏大臣ハ果シテ此六條一項ノミヲ以テ回收ヲ確保スルコトガ出來ルヤドウカト云フコトモ承リタイノデアリマス、第三ニ伺ヒタイノハ、第七條ノ二項デアリマシテ「前項ノ外貸付金ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム」トアリマスルガ、大藏大臣單獨ヲ以テ貸シ得ル此標準ガアリマスナラバ、明ニ之ヲ示シテ戴キタイ、此三ツノ事ヲ極ク簡單デゴザイマスカラ、御答辯ヲ願ヒタイト存ジマス

○副議長(小泉又次郎君) 片岡大藏大臣

○國務大臣(片岡直溫君登壇)

○國務大臣(片岡直溫君) 只今ノ御質問ニ答ヘマス、第六條ノ規定ニ依テ償還ハ不安デナイカト云フ思召デアリマスガ、大體公債ニ對シテハ一般ノ規定ガアリマシテ、此公債ニ對シテハ此條項デ十分デアルト思フノデアリマス、ソレカラ第一ノ質問デアリマス、臺灣ノ銀行ニ幾ラアル、朝鮮銀行ニ幾ラアルト云ウテ御舉ゲニナリマシタ數字ハ、違テ居ル點ガアリマスルガ、併シテ数字ハ、整理ガ目的デアアテ、一般ニ不安ノ念ヲ惹起サシメルト云フガ如キ誤解ヲ惹起サシメルト云フコトハ、宜シキヲ得タモノデナイ、是ハ何等カノ方法ニ依ルト申シマシタ、其何等カノ方法ニ依テ其人ノ名譽ヲ損セズ、サウシテ一般ニ不安ノ念ヲ惹起サナイヤウニシテ御利用ニナルヤウニ努メテ見タイト申上ゲタノデ(中味ヲ言ハナケレバ分ラナイ)ト呼フ者アリ)是ガ爲ニ委員

會ガアルノデアリマスカラ、十分ニ御調査ニナルコトデアラウト存ジマス、ソレカラ次ニ第七條ニ對シテ大藏大臣之ヲ定ムルト云フ、是ハ前申上ゲマシタヤウニ、委員會ノ組織デアアル、其他此取扱ニ關スル事項ヲ規定スルノデアリマス、今此處ニ案ヲ具ヘテ居ル譯デハゴザイマセヌガ、國民ノ疑感ヲ生ズルコトナク、又實際ニ於テ不都合ヲ生ジナイヤウノ規定ヲ定ムルコトノ必要ガアルト思フテ居リマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 質疑ハ終了致シマシタ日程第七、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第七 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○砂田重政君 委員ノ數ヲ十八名トシ議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成(ト呼フ者アリ)〕

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第八乃至第十八同種ノ議案ナルニ依リ、一括シテ議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ(ト呼フ者アリ)〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第八、朝鮮事業公債法改正法律案、日程第九、臺灣事業公債法中改正法律案、日程第十、關東州事業公債法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、片岡大藏大臣

第八 朝鮮事業公債法改正法律案(政府提出) 第一讀會

朝鮮事業公債法

第一條 朝鮮ニ於ケル事業費ヲ支辨シ且

煙草專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買收

ニ要スル交付金トシテ交付スル爲メ政府

ハ從前募集シタルモノヲ通シテ六億三

百七拾萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之

カ繰替支辨ノ爲メ借入ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ公債ノ發行價

格差減額ヲ補填スル爲メ必要アル場合ニ

於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ

又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九 臺灣事業公債法中改正法律案

(政府提出) 第一讀會

臺灣事業公債法中改正法律案

第一條中「一億三千三百八十萬圓」ヲ「一

億五千三十萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十 關東州事業公債法中改正法律案

(政府提出) 第一讀會

關東州事業公債法中改正法律案

第一條中「三百十萬圓」ヲ「七百八十萬圓」

ニ改ム

附則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○國務大臣(片岡直溫君) 只今議題トナリ

マシタ朝鮮事業公債法改正法律案、臺灣事業公債法中改正法律案及關東州事業公債法中改正法律案ニ付キマシテ一括シテ説明ヲ致シマス、朝鮮總督府ニ於キマシテ、朝鮮産業ノ振興ニ資スルガ爲メ交通機關ノ普及、殊ニ鐵道ノ敷設ヲ促進スルノ必要ヲ認メマシテ、新ニ國體線外四線ノ新線建設ノ計畫ヲ立テマシテ、又右新線ノ建設ニ伴ヒマシテ、幹線鐵道ノ間ニ在スル私設鐵道ヲ買收シ、規格ノ統一其他ノ改良ヲ加フルノ計畫ヲ立テマシタノデアリマス、而シテ其經費支辨ニ付キマシテハ、朝鮮總督府特別會計ノ現況ニ鑑ミマシテ、公債財源ニ依ルノ外ナク、隨テ起債法定額ノ增加ヲ必要ト致ス次第デアリマス、次ニ臺灣ニ於キマシテハ、同島ノ産業ノ發展ニ伴ヒマシテ、交通運輸ノ施設ヲ充實致ス爲メ、縱貫鐵道複線ノ敷設及線路ノ改良等ノ工事ヲ行アル計畫ヲ立テタノデアリマス、又臺灣電力株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スルノ必要ヲ認メタノデアリマスガ、是ガ財源及買收代金ニ

付テハ、朝鮮ト同様臺灣事業公債法ノ起債法定額ヲ増加スルノ必要ヲ生ジマシタ、又關東州ニ於キマシテモ、大連ニ於ケル上水道ノ擴張ヲ行フ計畫ヲ立テマシタ所、其經費支辨ニ付テハ是亦公債財源ヲ特ク營テワマセヌノデ、關東州事業公債法ノ起債法定額ヲ改訂スルノ必要ヲ生ジタノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ朝鮮事業公債法改正法律案、臺灣事業公債法中改正法律案、及關東州事業公債法中改正法律案、此三ツヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラランコトヲ希望致シマス

○副議長(小泉又次郎君) 日程第十一、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十一 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○砂田重政君 本案ハ委員ノ數ヲ十八名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ(ト呼フ者アリ)〕

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第十二、商事非訟事件印紙法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、司法政務次官本田恒之君

第十二 商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

商事非訟事件印紙法中改正法律案

第一條第二項ヲ削ル

第四條乃至第七條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際未タ終局計算ニ至ラサル破産手續ニ在リテハ財團ノ全部ニ付印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

大正十五年法律第六十五號第三項ヲ削ル

(政府委員(本田恒之君) 商事非訟事件印紙法中改正法律案提案ノ理由ヲ御説明申上

○政府委員(本田恒之君) 商事非訟事件印

紙法中改正法律案提案ノ理由ヲ御説明申上

○政府委員(本田恒之君) 商事非訟事件印

紙法中改正法律案提案ノ理由ヲ御説明申上

○政府委員(本田恒之君) 商事非訟事件印

ダマス、商事非訟事件印紙法第四條乃至第七條ハ、破産ノ配當ニ當リマシテ印紙ノ貼用ヲ命ジマスル規定デアリマスガ、破産財團ノ額ガ極メテ僅少ノ場合ガ多クイデアリマシテ、右印紙貼用ノ爲ニ財團ノ額ノ減少ヲ來サシメマス事ガ往々アリマス、斯ノ如キハ實ニ破産債權者ニ對シテ酷ナル結果ヲ生ジマスルノミナラス、今次ノ稅制整理ノ趣旨ニ鑑ミテ、此制度ハ之ヲ廢止スルヲ適當ト認メテ之ヲ提案致シテ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス

○副議長(小泉又次郎君) 日程第十三、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○砂田重政君 本案ハ政府提出登錄稅法中改正法律案外三件ノ委員ニ併託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ御異議ハナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス。日程第十四、九州製鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金三關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、商工大臣藤澤幾之輔君

第十四 九州製鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金三關スル法律案(政府提出)

第一讀會

九州製鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金三關スル法律案

第一條 政府ハ九州製鋼株式會社所屬ノ工場構内ニ於ケル一切ノ設備及其ノ敷地並其ノ地先埋立地ノ買收代金ヲ五分利附國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第二條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲ニ六百四十六万八千九百圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコトヲ得

公債ノ交付價額カ前項ノ金額ニ達セザトルキハ其ノ差額ヲ補填スル爲ニ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ二十五圓未満ノ端數ハ之ヲ額面二十五圓

トス

第三條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本法ニ依リ發行シタル公債及之カ借換ノ爲起債シタル國債ハ製鐵所特別會計ノ負擔トス

附則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕

○國務大臣(藤澤幾之輔君) 現今我國ニ於ケル鋼材需用ハ平均年額約百六十万噸デアリマス、之ニ對スル内地ノ製出高ハ大正十四年度ニ於テ百十万噸ニ達シテ居ルノデアリマス、然レドモ尙ホ年額五十万噸内外ハ之ヲ輸入ニ仰ガナケレバナラス状態ニ在ルノデアリマス、故ニ鋼材生産増加ノ必要ト云フモノハ益々緊切ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、九州製鋼株式會社工場ハ大正九年ノ建設ニ係ルモノデアリマシテ、其設備ハ當時ノ米國ノ最新式ノモノヲ採用致シタモノデアリマス、建設後試運轉ヲ致シマシタバカリデ、未ダ一回モ其作業ヲ行ハタコトハナイノデアリマス、常ニ十分ナル手入ヲ施シマシテ、恰モ新設當時ノ状態ヲ維持シテ居ル有様デアリマス、サレバ今日ニ於テモ尙ホ本邦工場中稀ニ見ル新式製鋼所タルヲ失ヒマセズ、故ニ本工場ヲ買收致シマシテ、製鐵所現存ノ工場ト能ク聯絡ヲ保チマシテ作業ヲ行ヒマスルニ於テハ、相當ニシテ而モ有利ニ鋼材ノ生産ヲ爲スコトガ出來ルノデアリマス、而シテ九州製鋼株式會社ノ買收ニ關シマシテハ、同社財産ノ中、製鋼所ノ作業上必要ナルモノニ付キマシテ數名ノ評價委員ヲ擧ゲマシテ之ヲ評價致サセマシテ、其得タル所ノ評價額ヲ以テ之ヲ買收セント致スノデアリマス、此支拂代金ハ製鐵所特別會計ノ經理上現金ノ交付ニ代ヘマシテ、五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルノガ最も適當デアルト認メタノデアリマシテ、即チ本案ヲ提出致シマシタ所以デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希ヒマス

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シ質疑ノ通告ガアリマス、羽室庸之助君

〔羽室庸之助君登壇〕

○羽室庸之助君 今回政府カラ御提出シタリマシタ此九州製鋼株式會社ノ買收スルト云フ案、是程國民ノ疑惑ヲ起ス所ノ案ハナイノデアリマス、此國民ノ疑惑ヲ除キ去ルト云フコトガ、最も必要デアルト信ジマス、故ニ、私ハ此疑惑ニ對シテ、政府當局者ニ三ツノ質問ヲ致シタイノデアリマス、御承知ノ通り此九州製鋼會社ナルモノハ、歐洲大戦亂ノ時、鐵ノ最も高價ナル時ニ、安川氏ガ計畫サレタモノデアリマス、而シテ安川氏ハドウシテモ日支親善ノ實ヲ擧ゲルニハ、支那人ノ資本ト提携シテ事業ヲ經營スルコトガ必要デアルト云フ立派ナル考カラ、支那人ノ方カラ五百萬圓出シ、安川氏ノ方カラ五百萬圓、都合一千万圓ノ資本ヲ出シ合シテ、而シテ支那人ノ方カラハ自國ニ産出スル所ノ鉄ヲ供給シ、安川氏ハ自國ノ御所

有ノ石炭山カラ石炭ヲ供給スルト云フコトデ、此モノガ成立シタノデアリマス、然レニ今回此議案ヲ見テ見マスルト、實ニ私ハ驚イタノデアリマス、要スルニ此議案ノ結果ハドウナルカト云フト、一會社ノ損失ヲ全部國民ニ負擔サセルト云フ結果ニナルノデアリマス、何故デアリマスカト云フト、此安川氏ノ製鋼所ナルモノハ、今日マデ何ガ故ニ火ヲ入レナシテ居ラセテ置キ、此點ノ爲ニ今日マデ是ガ精ラケテ置キ、此點セラレテ居ルノデアリマス、何ガ故ニ政府ハ之ヲ買收スルト云フコトニシタカ、其事ニ付テドウ云フ話ノ經過ヲ追テ今日マデニシタカ、安川氏對政府、同時ニ八幡ノ製鐵所、此三ツノ關係ニ付キマシテ話ノ進行ノ程度ヲ御聞キ致シタイノデアリマス、私ガ之ヲ茲ニ申上ゲルノハ、安川氏ハ御承知ノ通り人格ノ御方デアリマス、私ハ安川氏ノ人格ヲ信ズルガ爲ニ、安川氏ハ自分ノ損ガ行ハタコト云フ爲ニ、此立派ナル設立ノ當時ノ精神ヲ忘レテ、政府ニ屈シテ之ヲ買上ゲテ呉レナドト云フ不都合ナコトヲ強要サレタコトハナイト私ハ信ズルノデアリマス、故ニ寧ろ口ハ政府ノ方カラ、斯ウ云フ所ノ理由ニ依テ安川氏ニ之ヲ強要サレタモノデナイカト思フノデアリマス、ソレハドウ云フ理由カト云フト、折角安川氏ガ一千万圓ノ資本ヲ投ジテ、支那人ト提携シテ日支親善ノ實ヲ擧ゲヤウト云フ、其事ニモ拘ラズ、之ヲ唯、拋棄シテ置イテ、サウシテ之ヲ精ラケニシテ、茲ニ鐵ノ生産——鋼鐵ノ生産ヲ増スコトノ出來ナイト云フコトハ、國家ノ製鋼業ノ上ニ大ナル損失アルガ故ニ、之ヲドウシテモ政府ガ買收スルト云フコトハ、相互ノ爲ニ便利デアルト云フ、此一般ノ概念カラ或ル技術家ノ爲ニ騙マサレテ、之ヲ政府ガ買上ゲルト云フコトヲ強要サレタモノデナカラウカト、私ハ左様ニ推察ヲ致スノデアリマス、併ナガラ推察——矢張想像ハ想像デアリマスカラ、私ハ之ヲ皆サント共ニ政府當局者ニ御伺致シタイノハ、ドウ云フ關係デ此處マデ此話ガ進行致シタカ、安川氏對政府、對八幡ノ製鐵所、此關係ニ付テ、其經緯ヲ話ノ進行ノ程度ヲ、最も明瞭ニ説明ヲ願ヒタイノデアリマス、次ニ私ハ政府當局ニ御伺致シタイノハ、是迄事業ノ性質ニ於キマシテ、政府ガヤテ損ノ立ツモノヲ、民間ノ經濟ニ依テ之ヲ行ハバ、ソレガ有利ニ展開スルト云フ状態ニ在ラノデアリマス、然レニ此安川製鋼所ニ限ラテ、安川氏ガ火ヲ入レタラバ損ガ行クガ、政府ガ火ヲ入レタラバ茲ニ引合フト云フ、ドウ云フ計算ニ依リテ、其引合フト云フコトヲ御證明下サルカ、私ハ其計算ノ基礎ヲ御伺致シタイノデアリマス、次ニ私ハ此八幡ノ製鐵所ナルモノ、將來ノ經營ノ大方針ヲ承リタイノデアリマス、此八幡ノ製鐵所ナルモノハ、今日唯徒ニ鋼鐵ノ分量ヲ殖スト云フ、其分量ヲ殖スト云フ一點ノ爲ニ、經濟ヲ無視シ借金ヲシテ、唯、製鐵所ノ分量ヲ殖シサヘスレバソレデ宜イト云フ、洵ニ放漫ナル遣方ニ付テ今後事業ヲ經營スルノデアリマス、或ハ今日ノ製鐵所ナルモノハ、民間ノ製鐵所ト同ジ所ノ仕事ヲ爲シテ、民

トヲ強要サレタコトハナイト私ハ信ズルノデアリマス、故ニ寧ろ口ハ政府ノ方カラ、斯ウ云フ所ノ理由ニ依テ安川氏ニ之ヲ強要サレタモノデナイカト思フノデアリマス、ソレハドウ云フ理由カト云フト、折角安川氏ガ一千万圓ノ資本ヲ投ジテ、支那人ト提携シテ日支親善ノ實ヲ擧ゲヤウト云フ、其事ニモ拘ラズ、之ヲ唯、拋棄シテ置イテ、サウシテ之ヲ精ラケニシテ、茲ニ鐵ノ生産——鋼鐵ノ生産ヲ増スコトノ出來ナイト云フコトハ、國家ノ製鋼業ノ上ニ大ナル損失アルガ故ニ、之ヲドウシテモ政府ガ買收スルト云フコトハ、相互ノ爲ニ便利デアルト云フ、此一般ノ概念カラ或ル技術家ノ爲ニ騙マサレテ、之ヲ政府ガ買上ゲルト云フコトヲ強要サレタモノデナカラウカト、私ハ左様ニ推察ヲ致スノデアリマス、併ナガラ推察——矢張想像ハ想像デアリマスカラ、私ハ之ヲ皆サント共ニ政府當局者ニ御伺致シタイノハ、ドウ云フ關係デ此處マデ此話ガ進行致シタカ、安川氏對政府、對八幡ノ製鐵所、此關係ニ付テ、其經緯ヲ話ノ進行ノ程度ヲ、最も明瞭ニ説明ヲ願ヒタイノデアリマス、次ニ私ハ政府當局ニ御伺致シタイノハ、是迄事業ノ性質ニ於キマシテ、政府ガヤテ損ノ立ツモノヲ、民間ノ經濟ニ依テ之ヲ行ハバ、ソレガ有利ニ展開スルト云フ状態ニ在ラノデアリマス、然レニ此安川製鋼所ニ限ラテ、安川氏ガ火ヲ入レタラバ損ガ行クガ、政府ガ火ヲ入レタラバ茲ニ引合フト云フ、ドウ云フ計算ニ依リテ、其引合フト云フコトヲ御證明下サルカ、私ハ其計算ノ基礎ヲ御伺致シタイノデアリマス、次ニ私ハ此八幡ノ製鐵所ナルモノ、將來ノ經營ノ大方針ヲ承リタイノデアリマス、此八幡ノ製鐵所ナルモノハ、今日唯徒ニ鋼鐵ノ分量ヲ殖スト云フ、其分量ヲ殖スト云フ一點ノ爲ニ、經濟ヲ無視シ借金ヲシテ、唯、製鐵所ノ分量ヲ殖シサヘスレバソレデ宜イト云フ、洵ニ放漫ナル遣方ニ付テ今後事業ヲ經營スルノデアリマス、或ハ今日ノ製鐵所ナルモノハ、民間ノ製鐵所ト同ジ所ノ仕事ヲ爲シテ、民

間經營ノ仕事ニ妨害ヲ與ヘルト云フコトニ
ナリテ居リマスカラ、是ハドウシテモ作業分
野ノ點ニ於テ、民間ノ事業ト衝突ヲ來サヌ
ヤウニ、互ニソコヲ整理シテ、整理ノ曉ニ
ドウシテモ八幡ノ製鐵所ヲ擴張シナケレバ
ナラヌカラ、此論點ニ到著シク時ニ、八幡
ノ製鐵所ノ儲ケタル所ノ金ニ依テ自然ニ
擴張サレルコトヲ、私ハ希望致スノデアリ
マス、其大方針ニ付キマシテ、今日マデハ
八幡ノ製鐵所ハドウデアリマスルカ、今日ハ
萬圓デアリマスル、而シテ其上ニ約五千萬
圓ノ借金ヲ背負ウテ居ルノデアリマス、故
ニ國民ノ懐カラニ億萬圓ト云フ金ヲ搾リ出
シテ、之ヲ八幡ノ製鐵所ニ注込シテ居ルノ
デアリマス、而シテ其ニ億萬圓ノ資本ヲ投
ジテ三十年ノ經歷ヲ持チ、其間一文ノ營業
稅モ拂ハズ、所得稅モ拂ハズシテ、サウシ
テ今日幾何ノ利益ヲ擧ゲテ居リマスカ、其
利益ハ僅ニ二百二十萬圓デアリマス、之ヲ民
間ノ經營ニ依テ考ヘマスレバ、五千萬圓
ノ資本ナルモノハ政府ノ低利資金デアアルカ
故ニ、茲ニヤツト帳面ツラニ於テ二百二十萬
圓ノ利益ヲ出シテ居ルノデアリマス、併ナ
ガラ是ガ吾々民間事業ノ其借金ノ利率ヲ相
當ニ拂フナレバ、儲カドコロデハナイ、
損ノ行ク計算ニナツテ居リマス、斯様ナ所ノ
放漫ナル遣方ヲシテ、今日マデ八幡ノ製鐵所
ハ、過去ノ歴史ニ於テ何ヲ爲シテ居リマス
カ、此東京ノ所謂實業家ナルモノガ、アノ八幡
ノ近邊ニ東洋製鐵所ナルモノヲ拵ヘ、而シ
テ其東洋製鐵所ニ火ヲ入レテ見タナラバ、
茲ニ約一日一千圓ト云フ損ガ行ク爲ニ、何
トカシテ此點ヲ追レルト云フ爲ニ、無理ヤ
リニ此東洋製鐵所ナルモノヲ委託經營ト云
フ所ノ名ニ依テ、八幡製鐵所ニ引繼イデ
シマツテ、而シテ最近ニ至テハ其惡辣ナル
所ノ實業家ナル者ガ僅ニ自分ノ損失ヲ追レ
テ、其上ニ今回ハ政府カラ三十萬圓宛此八
幡製鐵所カラ搾取シテ居ルノデアリマス、
斯様ナル所ノ不都合ヲ爲シ、サウシテ其上
ニ今回ハ又ソレニモ懲リスシテ、此引合ハ
又所ノ八幡ノ製鐵所ガ、此引合ハ又所ノ九

州製鋼所ナルモノヲ、國民ノ資本ヲ取上ゲ
テ——其資本ハ六百何十萬圓ト云フ資本ヲ
注込シテ、サウシテ茲ニ放漫ナル所ノ遣方
ヲ再ビ繰返スト云フコトハ、之ニ對シテ政
府當局者ハドウ云フ御考ヲ持テ居ラレマ
スカ、私ハ此點ニ付テ政府當局ノ最モ明瞭
ナル所ノ答辯ヲ承リタイノデアリマス、御
承知ノ通り名ヲ國家產業ト云フモノニ隱レ
テ、サウシテ惡イ資本家ナル者ガ惡イ政治
家ト結託シテ、サウシテ自分ノ懐中ヲ肥サン
ガ爲ニ、自分ノ此仕事ヲ唯、徒ニ國家產業
トカ獎勵トカ、保護トカ、斯様ナ所ニ名ヲ
藉ツテ、斯ウ云フ惡イ事ヲスルト云フコト
ハ、國民ノ思想ヲ最モ惡化スル所ノ動機デ
アリマス、而シテ今回此九州製鋼株式會社
ナルモノヲ買收スルニ付テハ、六百何十
ト云フ所ノ公債ヲ御出シニナルト云フコト
デアリマス、今日現政府ハ何ヲ爲シテ居ラ
レマスカ、今日マデ此國民ノ一番肝腎ナル
所ノ教育ノ基礎ナル所ノモノニ對シテ、五
百萬圓ヲ出スト云フコトマデ御約束ニナ
テ居ルニモ拘ラズ、其五百萬圓ト云フ金ヲ
御出シナサラズ、今日ハ財政困難ノ狀態デ
アルト仰シヤツテ居リマス、併ナガラ御承
知ノ通り今日此日本ノ國ニ於キマシテ、同
ジ税金ヲ出スナラバ最モ愉快ナル税金ヲ出
スノガ國民ノ喜ブ所デアリマス、最モ愉快
ナル税金ハ何デアルカト云フト、他人ノ子
及自分ノ子供ヲ教育スル教育費、此教育費
ガ最モ愉快ナル所ノ税金デアリマス、然ル
ニ此愉快ナル所ノ税金ヲ出サズシテ、サウ
シテ一番不愉快ナル税金ハ何デアルカト云
フト、警察費ト監獄費ガ最モ不愉快ナルデ
アリマス、此國民ヲ惡化スルト云フ所ノ問
題ハ、警察費ト監獄費ヲ負擔サス所ノ結果デ
アリマス、故ニ私ハ此邊ノ事ヲ能ク御考ヲ
願ヒタイ、幸ニ若槻首相ハ、此處ニ居ラシ
ヤイマセヌケレドモ、此間ノ施政方針ノ第
一日ニ於テ、政治ノ公明ヲ叫バレタ人デア
リマス、正義ヲ主張サレタ人デアリマス、
其御方ガ今日ニナツテ萬一國民ノ疑惑ヲ解
カズシテ、サウシテ此案ガ通過スルト云フ
コトニナツタナラバ、國民ハ如何ナル疑惑ヲ

持チマスルカ、是ハ必ズ若槻君ガ到頭行掛
ケノ駄賃トシテ火事場泥棒ヲシタ(火事場
泥棒トハ何ダ)ト呼フ者アリ其他發言スル
者多シ)此非難ヲ受ケ、此疑惑ヲ受取ルナ
ラバ、洵ニ若槻首相ノ爲ニ遺憾ニ堪ヘマセ
ヌ、故ニ私ハ此案ニ付テドウシテモ斯様ナ
ル事ノナイト云フコトヲ：(火事場泥棒
トハ何ダ)ト呼フ者アリ其他發言スル多シ)
○副議長(小泉又次郎君) 暫ク御靜謐ニ願
ヒマス
○羽室庸之助君(續) 能ク聽キナサイ、若
シ國民カラ斯ウ云フ疑惑ヲ受ケタ時ニハ、
若槻首相ノ爲ニ甚ダ遺憾デアルト云フコト
ヲ私ハ言ハウトシタノデアリマス、然ルニ
其言葉ノ終ヲ先ニ皆サンガ妨害ヲサレタノ
デアリマス、斯様ナル所ノ疑惑ヲ萬一若槻君
ガ受取ルト云フコトデアッタナラバ、洵ニ
若槻君ノ爲ニ之ヲ残念ニ思フデアリマ
ス、同時ニ又國民ノ疑惑ヲ解カズシテ、此
案ガ通過スルト云フコトニナツタナラバ、
安川翁ノ名譽ノ爲ニ甚ダ遺憾デアリマ
ス、故ニ私ハ幸ニ憲政會ノ四十何人ト云フ
若手ノ方ガ、ドウモ年寄ノ腰ガ弱イカラド
ウシテモ其腰骨ヲ押サナケレバナラヌト云
フコトデ非常ニ奮勵サレテ居ルト云フコト
ヲ承リマシタカラ、ドウカ其勇氣ヲ御持
下サルナラバ、此案ヲ否決スルヤウニ極力
御骨折下サラシコトヲ切ニ願ヒマス、今
日ハ此三箇條ニ付テ政府ノ最モ明確ナル答
辯ヲ承リタイト思ヒマス
〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕
○國務大臣(藤澤幾之輔君) 羽室君ノ御質
問ニ對シテ答辯ヲ致シマス、唯併ナガラ
御質問中頗ル御熱心ニ御述べニナツタ其勢
ガ走テ、火事場泥棒ト云フヤウナコトマ
デニ及ンダデアリマスガ、併シハ敢テ
本問題ニ直接ノ關係ノナイ事デアリマスカ
ラ、全ク要點ダケニ付テ私答辯ヲ致シマ
ス、羽室君ノ冒頭ニ御述べニナツタ所ヲ承
リマスト云フト、本問題ノ提出ニ付テハ、
何カ國民ノ大ナル疑惑ヲ招イタカノ如ク御
述べニナツテ居リマス、私ハ左様ニハ全ク考
ヘマセヌデアリマス、併ナガラ既ニ疑惑
ヲ懷ク者ガ、國民ト云フヤウナ大キイ包括

的ノ言葉ハ兎ニ角ト致シマシテ、羽室君御
一人ガ既ニ疑惑ヲ懷イテオキデニナル以上
ハ、其疑惑ヲ解クコトハ最モ肝要ノコトノ
ヤウニ思フノデアリマス、併シ一々御述べ
ニナツタコトニ對シテ議論ヲ致シマスコレ
ハ、徒ニ時間ヲ費スニ過ギヌノデアリマス
カラ、詳細ノ點ニ付テハ委員會デ遺憾ナク
説明ヲ致シタイト思フノデアリマス、第一ニ
一體此製鋼所ノ工場ノ賣買ハ安川氏カラ言
出シタノデアッタノデアラウカ、又ハ政府
側カラ言出シタノデアアルカ、斯ウ云フ御尋
デアルノデアリマスガ、是ハ私ハ就職以前
ノ事柄デアリマスカラ、正確ナコトハ申サ
レマセヌケレドモ、只今私承ル所ニ依ルト、
製鐵所ノ必要上製鐵所ノ方カラ相談ヲ始メ
今日ノ程度ニ於テハ其如クニ御承知置キ下
イマシテ差支ガナイノデアリマス、ソレカ
ラ又安川氏ノ人格ノ高潔ナルコトニ付テ御
述べガアリマシタガ、私安川氏トハ別ニ交
際ガナイノデアリマシテ、全ク面識ノ無イ
間柄デアリマスガ、併ナガラ個人ト致シテ
私モ安川氏ノ人格ノ高イ方デアルト云フコ
トヲ傳聞致シテ居リマス、是ハ後ニ何ノ關
係モ無イヤウデアリマスケレドモ、買收ニ
關シテ自ラ諸君ノ御參考ニナリ得ル性質ヲ
持ツ事柄デアリマスカラ、序ナガラ申シ
テ置キマス、ソレデ此疑ヲ解クニハ實際ノ
モノハ、價格等ノコトヲ先ヅ以テ明ニ致シマ
セヌケレバ、唯、空ニ辯解ヲ致シタノデア
ル御分リニナリマセヌ、故ニ少シ時間ヲ費ス
ヤウニナリマスケレドモ、極ク簡單ニ而モ
早ク時間ヲ費サナイ方法ヲ申上ゲマスカ
ラ、ドウカ御承知置キテ戴キタイ、本工場
ノ實體ト云フモノハ一體ドウ云フモノデア
ラウカ、又其投資額ト云フモノハドウ位ノ
モノデアッタデアアラウカ、斯ウ云フコトヲ先
ニ申上ゲナケレバナリマセヌ、本工場ハ曩
ニモ説明致シマシタ如ク、大正九年ノ建設
ニ係リマシテ、其設備ハ當時ノ米國ノ最新
式ノモノヲ採用致シタノデアリマス、建設
後試運転ノ外一回モ作業ヲ行ヒマセヌ、常
二十分ノ手入ヲ施シマシテ、新設當時ノ狀

態ヲ維持シ來タコトハ曩ニ申上ゲマシタ
 通りデアリマス、此製鋼所ノ設備、大要ハ
 ドウ云フコトニナラテ居リマス。申シマ
 スト、五十坪平爐ガ三基デアリマシテ、此
 鋼塊製造力年額約九万噸、次ニハ鋼板壓延
 機、此鋼板製造力ト云フモノハ年額約三万
 噸、其次ニ條鋼壓延機、此條鋼製造力ハ年
 額約四万五千噸デアリマス、只今申上ゲマ
 シタ鋼塊製造力ヨリ致シマシテ、本工場ノ
 鋼材製造能力ト云フモノハ年額約七万噸ニ
 ナルデアリマス、次ニ前記設備ニ對シマ
 スル建設物、及其他ノ附屬設備、右ノ外作
 業用品及貯藏物品等ヲ合セマシテ、其投資
 額ハ實ニ八百四十九万七千八百八十五圓、ソ
 レカラ本工場ノ敷地並ニ附屬用地ハ十万九
 千六百坪デアリマシテ、外ニ工場所在地先ノ
 埋立地ガ一万二千三百坪アルデアリマ
 ス、是等ノ土地ニ對スル投資額ハ二百五
 十萬八千二百五十二圓トナルデアリマ
 シテ、投資總額合計ハ一千六百五十八萬八千三
 十七圓餘トナリマス、之ニハ維持費デア
 ルトカ、或ハ金利等デアルトカ云フモノハ一
 切含マテ居リマセズ、ソレカラ然ラバ此
 一千六百五十八萬八千三百七十七圓餘投資シテ、其
 工場敷地ヲ買收スルニ當テハドウ云フ方
 法ヲ以テ買收シタルデアルカ、斯ウ云フコ
 トニ付テ、即チ本工場買收價格決定ノ標準
 ニ付テ申上ゲタイト思フデアリマス、只
 今申上ゲマシタ會社所有ノ諸物件及土地ノ
 中製鐵所ニ於テ作業上必要ナルモノ、ミ
 實地ニ就テ選擇致シマシタルニ、之ニ該當
 スルモノハ曩ニ申上ゲマシタ一カラ四マデ
 ノモノデアリマス、ソレカラ又土地ハ全部
 デアリマセズデ、其土地ノ中ノ七万二千七
 百坪デアリマス、此分ノミヲ買收スルコト
 ト致シマシテ、其他ハ買收ヲ致シマセズノ
 デアリマス、勿論是ハ土地ノ外ハ大シタモ
 ノハ除カレテ居ラスノデアリマス、前記買
 收見込諸設備、及土地ニ對スル會社ノ投資
 額ハ曩ニハ總テノ投資額ヲ申上ゲマシタ
 ガ、今度ハ買收見込ノ分ニ付テノ會社ノ投
 資額ノコトヲ申上ゲルデアリマスガ、ソ
 レハ九百六十一萬八千九百四十四圓トナルデア

アリマス、本工場ノ買收價格ハ數名ノ評價委
 員ヲ設ケマシテ、之ヲ評價セシメタルモノ
 デアリマシテ、其評價ノ方法ト云フモノ
 ハ、全然會社ノ投資額ニ依テタモノデハゴ
 ザイマセズ、買收見込ノ諸設備ニ付テハ、
 先ヅ以テ今日製鐵所ニ於テ新ニ是ト同様ノ
 モノヲ建設スルコトシタナラバ、下ノ位ノ金
 ヲ要スルデアラウカト、斯ウ云フ風ニ見
 タ後、相當ノ値引ヲ行フテ、以テ最モ妥當
 ナル評價方法デアルト云フコトヲ認メマシ
 テ、其現場等ニ依リマシテ詳細ニ調査見積
 ノ結果、其金額ハ九百六十一萬八千九百四
 圓投資シタモノヲ、六百二十六萬八千六百
 三十五圓餘ニ一應評價致シタルデアリマス、
 然ルニ是ハ製鐵所ガ今茲ニ之ヲ新設セント
 スルニハ、下ノ位ノ金ヲ掛ケレバ宜イカト云
 フ點カラ來タデアリマスルガ、然ルニ曩
 ニ大體ニ於テ説明申上ゲタ時ニ申述ベマシ
 タ通りニ、成程此工場ハ新設當時ノ狀態ヲ
 維持シテ居ルニ相違ゴザリマセズ、此處デ
 一寸附加ヘテ置キマスルガ、政府ハ錯タラ
 ケノ工場ヲ買收シタ、斯ウ仰シヤイマスガ、
 是ハ常識ニ於テ御考ニナリマシテモ、私ハ
 斯道ニ於テハ甚ダ素人デアリマスケレド
 モ、此機械ナルモノハ總テ、何デモモウ總
 テ手入レヲ怠ラナラバ順次ニ腐レガ進
 デ行クテ、全ク用ヲ爲サズヤウニナル、ソレハ
 何デモサウナルサウデアリマス、殊ニ斯ウ云
 フ大金——千圓圓モ掛ケタモノヲ今用ヒナ
 イカラト云フテ打遣、テ置イテハ、モウ腐
 テ役ニ立タナクナル、ソレダカラドウシテ
 モ是ハ手入ト云フモノハ急テハナリマセ
 ズ、其時既ニ地業シテシマフ、大勇氣ヲ持
 テ居リマシテ場合デアリマスレバ、後ニ自分
 ガ之ヲ用ヒルヨリハ、賣テ金ニシヤウカト
 云フ考ノアル者ハ、錯タラケナドニシテ打
 遣ノ置クモノデヤナイサウデアリマス、
 是ハ私素人デアリマスカラ分リマセズガ、
 聽イテ居ル所ノ念ノ爲ニ申上ゲテ置キマス、
 今申上ゲマシタ通り新シイモノト同様デア
 ルガ兎ニ角古イト云フ點ニ於テハ同ジデア
 ル、何年カ先ニ拵ヘテサウシテ用ヒナイモ
 ノダト云フコトガ事實デアリマスカラ、之

ヲ拵ヘタモノト同ジ値段デアフト云フコ
 トハ、ドウシテモ面白クナイカラ、何モ茲ニ
 附ケ込シテ譯デモ何デモアリマセズケレド
 モ、相當ノ考ヲ以テマシテ、兎ニ角古物デア
 ルンダカラ値段ノ如何ト云フヨリモ、先ヅ
 古物ト云フ點カラニ割引クガ穩當デアラウ、
 斯ウ云フコトデ算盤ヲ採リマシテ現ハレタ
 所ノ金額ハ五百一十四萬九千九百八圓ト查定サ
 レタノデアラマシタ、ソレカラ次ニ前記ノ
 所有土地七万二千七百坪ニ付テハ、其坪當
 リ價格ヲ二十圓ト致シマシテ、百四十五萬
 四千圓トナリマス、——百四十五萬四千圓
 二十圓坪當リデアリマス、其總額ガ六百四十
 六萬八千九百圓、斯様ニ評價致シマシテ、政
 府ハ此評價ヲ以テマシテ當ヲ得タモノトシ
 テ、此價格デア買收スルコトニナッタデア
 リマス、元々安川氏等ガ投資致シマシタ時
 ヨリハ、半額ニモ當ラズ金額デア買收致ス
 デアリマス、而モ古イトハ申シナガラ、拵
 ヘタバカリデ未ダ使用シタ事ガナク、サウ
 シテ十分ニ手入ガサレテ、恰モ新シイモノ
 ト同ジヤウナモノデ、我國ノ現在ニ於ケル
 工場中ノ最新式ノ製鋼所ト云フテ差支ナイ
 位ナモノデアリマスカラ、私共ハ高イ價格
 トハ思ハレマセズ、此評價委員ノ結果ヲ容
 レテ、安川氏等ガ應諾シタト云フノハ、要
 スルニ安川氏等ノ人格ノ然ラシムル所モ、其
 一原因ヲ成シテ居ルノデハナイカト考ヘル
 コトデアリマス、ソレカラ次ニ答辯致サン
 ケレバナラヌコトハ、一體政府ガヤレテ儲
 ケノナイモノヲ、民間デアレバ儲ケガアル、
 然ルニ安川氏等ガヤレタ此會社ノ事業ガ、
 今日マデ實際ニ行ハレナイデアラコトハ、一
 政府ガヤレバ有利ニシタルト云フコトハ、一
 體製ニ御話ニナリマシタ政府ガヤレバ損ガ
 アツテ、民間ガヤレバ得ガアルト云フ、此原
 則ヲ吾々ハ從來承テ居テ、自分等モ亦サウ
 云フコトヲ唱ヘタコトモアリマスガ、サウ
 云フ點カラ云ヘバ成程御説ノ通りノ結論ヲ
 見ルニ至ルヤモ知レマセズガ、併ナガラ是ハマ
 ルデ違フ、其譯ハ九州製鋼株式會社ガ本工
 業ヲ獨自ニ自分デア創業セント致シマシテ
 モ、其原料タル銑鐵ヲ得ルコトガ甚ダ困難

デアアル、何等特殊ノ便宜ヲ持テ居リマセ
 ス、且又本工業ノ如キ小規模單獨ノ設備デ
 ハ、古ク甚ダ狭イモノデアリマスルカラ、
 此關係カラ致シテ從來操業困難デアッタノ
 デアリマスケレドモ、之ヲ官設製鐵所ト
 合同作業ヲ爲スニ於キマシテハ、銑鐵ハ製鐵
 所デア自分デア造ルノデアリマス、ソレカラ
 又借入作業中ノ東洋製鐵所ノ工場ニ於テ
 モ銑鐵ノ生産ヲ致シテ居リマス、ソレカラ
 漠然梓、滿鐵等方々カラ製鐵所デア遺贈ナ
 ク此銑鐵ヲ今日ノ所ニ於テハ供給ヲ受ケテ
 居ルノデアリマシテ、此九州製鋼所ノ如キ
 原料ノ不如意ニ陥テ居ルト云フヤウナコ
 トハ全ク無イノデアリマス、然ルニ此製鐵
 所ニ於キマシテハ私マダ向フニ參テ見マ
 セズ、參テ見タク思テ居リマシタケレドモ
 實行ガ出來兼ネテ居リマス、此實際ノ場所
 ハ丁度海ニ面シテ、真中ニ政府ノ製鐵所ガ
 在テ其右ノ方ニハ直接シテ東洋製鐵所ガ
 アル、ソレカラ左ノ方ニハ是モ直グ接壤シ
 テ何等其處ニ隔リガナクシテ唯、往來一ツ
 隔テ、九州製鐵所ト云フモノガアル、東洋製
 鐵所、政府ノ製鐵所、製鋼所、斯ウ云フヤ
 ウナ一ツノモノニナツテ居ルノデアリマス
 カラ、製鋼ヲ致シマスニ付テモ銑鐵ヲ熔カ
 シタ儘ニ、直グ機械デ以テ向フニ持テ行
 クコトモ出來ルト云フ(笑聲起ル)實際サウ
 ダサウデアリマス、是ハ私ノ考デアハナク
 テ、唯、私ハ受賣ヲ致シテ居ルノデアリマス
 (拍手)サウ云フヤウナコトニナツテ居リマ
 シテ色々ナ便宜ガアリ、又大量ノ生産デア
 リマスカラシテ、製鐵所デアリマスト云フ
 ノ、ドウシテモ算盤ガ採レナケレバナラヌ
 モノト、今申シマシタヤウナ製鋼所ガ單獨
 デヤツタンデハ、是ハドウシテモ今日ノ場
 合ニハ算盤ガ採レナイ、ソコドウセ政府
 ノ方ニ於キマシテハ、製鐵所ノ擴張ノ結果
 トシテ斯ウ云フモノガナクチャナラヌ、ナ
 クチャナラヌコトニ迫ラタモノデアリマス
 カラ、安川氏ノ方ニ相談ヲ致シマシテ、サ
 ウシテ之ヲ買收スルコトニナル、安川氏ハ
 ア、云フ人格者デアリマス以上、ソレハ未
 練ガ無カッタ譯デアアリマスマイケレドモ、

國家ノ爲ニモナルコトデアリマスカラ
併ナガラドウセ實ノ持腐レト云々チヤ相濟
ミマセヌケレドモ、事實ドウモ持得ナイモ
ノニ對シテ金ヲ掛テテ行テ居ルノデアリ
マスカラ、是ハモウ矢張安クテモ仕方ナ
イ、寧ろ政府ノ要求ニ應ジテ方宜イ、斯
ウ云フ考ヲ以テ應ゼラレタノデアリマス、
カト思フ、詰リ斯ノ如クスルコトハ全ク政
府ノ必要上カラ起テ居ルノデアリマス、
ニ於テ私羽室君ニ一言申上ゲタイコトガ
ルノデアリマス、製鐵所ノ今後ニ於ケル施
設、方針ノ事ニ付テ御尋ニナリマシタガ、
實ハ是ハドウモ簡單ニ述ベルコトハムツカ
シイ、駈足ノ申述ベテモ差支ナイノデア
リマスケレドモ、世ノ中ノ疑惑ガ掛テ居
ル、此疑惑ヲ解キタイト云フ御精神ト云フ
ヤウナコトハ、只今申上ゲタマケテ最早
御分リニナテ居ルノデアリマス、イコト思
フ、御分リニナラナイナラバ、ソレハ別ト
センケレバ、直グ是ガ問題ニナリマスカ
ラ、此方針トカ何トカ云フヤウナコト
ハ、時間ニ制限ノナイ委員會ニ於テ十分ノ
御尋ヲ戴イテ、ソレニ對シテ遺憾ナク御答
スルコトヲ申上ゲテ、此位ノ答辯ニ止ムル
コトノ御承諾ヲ得タイト思フノデアリマス
ガ如何デアリマセウカ

ラシヤルノデハナイカト思フ、何故ナレ
バ今此價格ヲ定メルコトニ付テハ明細ノ説
明ガアリマスシテ、私ハ嚴格ナル當路者ハ、
價格ハ公平ニシヤリナルト信ジマス、唯、
私ガ茲ニ質問ヲ致シタイノハ、安川君ガ
火ヲ入レタラ損ガ行クコト云フ、ソレヲ何故
ニ製鐵所ガヤタラ得ガ行クコト云フ、其
計算ノ基礎ヲ御示シテ願ヒタイ、五十點
アーンネ三基ヲ以テ製鐵所ガヤテ引合フ
ト云フコトナラバ、安川氏ガヤテ引合フ
ノデアリマス、今日製鐵所ノ最モ急務ナル
點ハ、作業分野ト云フコトニ進ムノガ一番
良イ方法デアリマス、何モ總テノ事ヲ製鐵
所ガヤル必要ハナイノデアリマス、總テノ
民間ニ於ケル所ノ製鐵所ガ、共々發達スル
ト云フ分業ノ作用ニ進ムト云フコトガ、是
ガ製鐵所ノ活キル所以デアリマス、故ニ此
製鐵所ナルモノハ、自分ノ造ル鉄ヲ引合フ
ト云フナラバ、其鉄ヲ何故ニ安川氏ニ供給
セヌノデアリマスカ、斯ウ云フ點ニ於テ私
ハ今商工大臣ノ御説明ニナツタ點ニ付テハ、
其製品ノ價格、鉄ノ價格、其他ニ付テ何等
計算ノ數字ガ出テ居ナイノデアリマス、唯、
買入レタ所ノ價格ガ斯ウデアアルカラ是デ
宜イト云フコトデアリマスガ、凡ソ物ハ引
合ハヌ所ノ仕事ナルモノハ、只デ賣テモ
吾々ハ御斷リヲスルノデアリマス、唯、引合
フト云フ計算ガ出テ、ソコニ初メテ價格ト
云フモノガ出ルノデアリマスカラ、ドウカ
商工大臣ハ斯ウ云フ基礎ニ於テ今日賣ル値
段カラ勘定シテ鉄ヲ是ダケ、鋼ハ是ダケ、之
ヲ製品ニ伸セバ斯ウナツテ、之ヲ賣レバ斯
ウ云フ利益ガアルカラ、其利益カラ計算シ
テ茲ニ單價ガ斯ウ出タト云フ御説明ヲ願ヒ
タイノデアリマス、是ハ商工大臣ガ若シ此
處ニ於テ答辯ガ困難デアルト云フコトデア
リマシタナラバ、次ノ委員會ニ於テモ差
支アリマセヌ、唯、此問題ヲ最モ明瞭ニシ
テ國民ノ疑惑ヲ解クト云フコトガ、政治更
新ノ第一歩デアリマスカラ、私ハ疑惑ヲ解
ク所ノ點ニ於テ、何處マデモ之ヲ追究ヲ致
シタイノデアリマス(拍手)

〔國務大臣藤澤幾之輔君登壇〕 曩ニ申上ゲタ
ヤウナ趣旨デアリマスカラ、詳細ノ事ハ委
員會デ申上ゲルコトニ致シタイノデアリマ
ス、唯、曩ニ申上ゲテ置イテアツタナラバト
思フコトガ一ツアリマスガ、御參考ニモナ
ラウト思ヒマスカラ、一寸申上ゲテ置キタ
イノデアリマス、斯ウ云フ風ナ價格ガ買
テ、サウシテ之ニ依テ作業ヲ行テ、行タ
結果買代金ニ對スル所ノ始末ハドウナル
デアラウコト云フヤウナコトヲ御話スルコ
トハ、御參考ニモナリ、又若モ疑惑ヲ懷イ
テ居ル方ガアツタナラバ、之ニ依テ其疑ヲ
解カレル一端トモナラウカト思フノデアリ
マス、只今ノ御質問中御述ベニナツタ御言
葉ノ中ニモ、勿論安川氏ト云フヤウナ人格
者ガ相手デアリマスカラ、胡麻化シノコト
ノアル筈ハナイノデアリマスカラ、相當ノ
委員ガ定メテ價格デアアルナラバ、是ハ相當
ト見ナケレバナラヌケレドモト云フ御言葉
ガアツタ位デアリマスカラ、私ハ此點ニ付テ
ハ稍満足致シテ居リマス、ソレデ交付公
債ハ曩ニ申上ゲタ通り年利五分ノ公債デア
リマシテ、五十五年償還トシテ發行スルノ
豫定デアリマス、公債ノ發行價格ハ、勿論
其發行當時ニ於ケル金融市場ノ狀況ニ依
テ定マルモノデアリマスカラ、今日ニ於テ
ハ茲ニ明ニ豫定スルコトハ出來マセヌケレ
ドモ、今假ニ之ヲ八十六圓三十錢トシテ計
算致シマス、公債額面ノ總額ハ七百四十
九萬五千八百五十圓トナリマス、之ヲ五年
間償還キマシテ、爾後五十年間ニ年々等額、
平均ニデス、等額元利償還スルモノト致シ
マスレバ、當初ノ五年間ハ利子ガ年額三十
七萬四千七百五十三圓宛ニナリマス、爾後
八元利年賦額ガ四十一萬五百九十八圓宛ト
ナルノデアリマス、サウシテ本工場ノ操業
ニ依ル所ノ鋼材生産ハ、曩ニ申上ゲマシタ
通り七萬七千餘トデアリマスカラ、之ニ對シマシ
テ現況ニ依テ之ヲ計算致シマス、云フト、
陸當リガ約十一圓、總額約七十七萬圓ノ利
益ト云フモノハ之ヲ期待シ得ルノデアリマ
スカラ、優ニ只今申上ゲマシタ利子又ハ元
利年賦金ハ之ヲ償還致シマシテ、相當ノ餘

剩ヲ生ズベキモノデアリマス、支拂ヒマス
ルモノハ四十一萬五百九十八圓、ソレカラ
利益ノ方ハ七十七萬圓、斯ウナルノデアリ
マスカラ、之ヲ以テ十分ニ償却シ得ベキモ
ノト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ馳
當リ幾ラ、何ガ幾ラト云フコトヲ此處デ云
フコトガ出來ナカッタナラバ、委員會デモ宜
イト云フコトノ仰セデアリマスガ、是ハ出
來ルトカ、出來ナイイコト云フコトハ別ト致
シマシテ、委員會ニ御願ヲ致シマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 吉良元夫君
〔吉良元夫君登壇〕
○吉良元夫君 私ハ只今議題ニナツテ居リ
マスル九州製鋼株式會社工場ヲ買收スル政
府ノ御提案ニ付キマシテ、先刻我國ニ於テ
最モ此事業ニ於テハ經驗ノアラレル大阪府
ノ羽室庸之助君ガ熱心ナル御質問ガア
タノデアアル、私ハ羽室君ト云フ方ハ曩ニハ
承テ居ルケレドモ、初メテ議場デ拜顔ノ榮
ヲ得タノデアリマスガ、私ハ有體ニ自白致
シマス、製鐵業ナドト云フコトハ全クノ門
外漢デ、更ニ存ゼヌノデアリマス、併ナガ
ラ吾々専門家ニ非ズト雖モ、斯ノ如キ重要
ナルコトニ付テハ、吾々ノ常識ニ於テ及ブ
ダケノ注意ト研究アリヤ否ヤト云フコトヲ
國家國民ノ爲ニ利益アリヤ否ヤト云フコトヲ
考察致サンケレバナラヌ責任ノアルト云フ
コトヲ自覺シテ居ル者デアリマス、故ニ私
ハ決シテ此政府ノ御提案ノ間ニ疑ヲ挾ムヤ
ウナ、疑惑ヲ生ズルヤウナモノガアルモノ
デアルト云フヤウナ、サウ云フ考モ持タヌ
ノデアリマスケレドモガ、實ニ不思議ナリ
提案デアルト私ノ常識ニヨリ思フノデアリ
マス、私ハ九州ノ者デゴザイマシテ、此九
州製鋼株式會社モ數回拜見ヲ致シタコトガ
アルノデアアル、最近ニ於テハ昨年七月ニモ
仔細ニ拜見致シタコトガアルノデアリマ
ス、私ハ斯ウ云フモノヲ拜見スルコトハ至
テ好キデアリマスカラ、分ラヌナガラ拜見
ヲ致シマシテ、其組織ノ廣大ニウテ其大規
模ノ機械ナルコトハ、米國ニ於ケル彼ノ大
製鐵所ニ稍、髣髴タルモノデアルト云フヤ
ウナコトモ拜見ヲシタノデアリマスガ、政

府が今俄ニ此會社ヲ御買ニナランケレバナ
ラヌト云フ必要何レニ在ルヤト云フ點ニ於
テ、私ハ甚ダ私ノ常識ハ分ラヌノデアリ
マス、此會社ナルモノハ御承知ノ通りニ尊
敬スベキ人格ヲ持テ居ル安川氏其他ガ、製
鐵業ノ盛ニナリ、我國ノ益、進歩發展スル機
會ヲ狙ハレテ、大正九年御計畫ヲ立テラレ
テ非常ナ注意ヲ努力ヲ拂ハレテ、而モ非常
ニドウモ放膽的ニ御計畫ニナッタノデアリ
マスガ、不幸ニシテ其志ガ時勢ト逆行致シ
マシテ、折角ノ設備ハ出來タケレドモガ、
遂ニ放膽的ニ組織ガ増大デアッタ爲ニ、火
ヲ入レテモ燃料ヲ要スルコトガ非常デアッ
テ、到底引合ハナイト云フ爲ニ、是ガ折角
ノ計畫ガ立テ、廣大ナル總テノモノハ出來
テ居ルケレドモ、遂ニ事業ヲ中止スルノ止
ムナキニ至テ居ルト云フコトヲ承テ居ル
ノデアリマス、之ヲ政府ガ此五十二議會ニ
ナシテ、是非共購入致サンケレバ今日ノ場合
ドウ云フ差支ガアルノデアルカ、私ハ其點
ガ分ラヌノデアル、サナキダニ私ハ甚ダ
私ノ常識ハ分ラヌコトガ澤山アル、現内閣
ノ諸公ガ會テ政友會内閣ノ時分ニ、事ヲヤ
リ過ギタ爲ニ放漫政策デアル、斯ウ云フコ
トヲ言ハレテ攻撃サレテ居ルノデアル、其
結果トシテ金ガ足ラヌカラシテ、公債ヲ募
テ居ル、其公債ノ増募ト云フコトハ大變ニ
國家ノ爲ニ不利益デアル、此公債ヲ増募シ
タ爲ニ、公債償還ト云フコトニハ、國民ニ
容易ナラヌ負擔ヲ増大スルコトデアルカラ
シテ、公債ト云フヤウナコトハ打切テ募
ラヌノデアル、募テハナラヌノデアルト
高調力説セラレテ居ルノデアル、而シテ現
内閣ノ命脈モ將ニ燈火ノ消エントスルヤウ
ナ有様ニナツテ居ルノデアル、(ノウウ)ニ
是ハ左様ナコトヲ申セバ、憲政會ノ御方ハ
腹ヲ立テラレドアルマセウガ、日本國民
ハ皆サウ云フ風ニ觀察シテ居ルノデアアル
(ヒヤ)「ト呼ヒ」眞面目ニヤレ」ト呼
フ者アリ」眞面目ニヤルノデアアル、現ニ今
日ノ日程ニ上ツタ分デモ驚クデハナイカ、震
災手形損失補償公債法案、或ハ朝鮮事業公
債法案改正案、臺灣ニ於テモ關東ニ於テモ、

此公債法中ニ改正ヲシテ公債ヲ増募シヤウ
ト云フ案デアアル、而シテ又財政ノ餘裕ナキ
場合ニ於テ國幣ヲ費シテ、無慮七百萬圓ニ
上ラントスル、斯ノ如キモノヲ購入シヤウ
ト云フノデアアル、是ハ甚ダ私ハ不可思議ニ
感ズルノデアアル、凡ソ自己ノ内閣ニ於テ、
誠心誠意仰シヤッタコトハ政治家ハ實行シ
ナケレバナラヌ、仰シヤッタコトヲ裏切ル
ヤウナ行ヒガ若シアリトスレバ、所謂ソレ
ハ嘔吐キ内閣ト云フヤウナ惡評ガ出來テ
來ルノデアアル(笑聲)私ハ勿論製鋼事業ト云
フヤウナコトハ、國家進運ノ爲ニ、益盛
ニヤルベキコトデアアルト云フコトニ於
テハ敢テ反對スル者デナイノデアリマ
スルガ、突如トシテ、又ゾロ公債ヲ募テ
斯ノ如キコトヲヤラネバナラヌト云フ、ソ
レ程ノ切迫セル事情ニ付テ、私ハ如何ニ常
識ヲ考ヘテモ、考ヘ得ナイノデアアル、先刻
羽室君ガ詳シク御述ベニナリマシタ通り、
恐ラクハ之ヲ御買ニナルト云フコトノ時價
ニ於テモ、私ハ決シテ餘リ無法ナル高イモ
ノトモ思ハヌノデアアル、大分放資ナサツテ
居ル御方ハ、二割以上若クハ三割以上ニモ
及バレル損失ヲ是ハ認メテ居ラレドアラ
ウト思フノデアリマスガ、決シテ實價ノナ
イモノヲ無法ニ高ク買フトモ、其様ナ癖シ
根性ニ見テ居ルノデアハナイノデアリマス、
之ヲ國家ガ引受ケテヤン御覽ニナツタナラ
バ、屹度御損失ノ行ク事業デアルト私ハ信
ジテ疑ハヌノデアリマス、是ハ觀察若クハ
想像ニ過ギマセヌカラ、私ノ如キ門外漢ガ
左様ナコトヲ申シマシテモ、ソレハ根據ノ
無コトニ終ルカモ知レマセヌケレドモガ、
素人ノ見ルコトガ却テ公平ヲ得ルモノデア
ル、私ハ此場合政府ガ之ヲ御買上ニナツテ、
オヤリニナツタ結果ニ於テハ、必ズ收支相
償ハヌコトデアッテ、國民ニ非常ナ負擔ヲ
擔ハスルモノデアルト確信シテ居ルノデア
ル、之ヲ政府ハ決シテ左様ナコトハナイ、
斯ウ仰シヤルノデアアルカ、其明確ナル答辯
ヲ承リイノデアアル、昨年ノ稅制整理ノ如キ
ニ於テモ、政府ノ仰シヤッタコトハ悉ク實
際ヲ裏切シテ居ルノデアアル(ヒヤ)「一簡

單」ト呼フ者アリ)私ハ決シテ辯ヲ好ム者デ
ハナイ、最早羽室君ガ大體ノ趣旨ハ御問ニ
ナツテ居ルケレドモガ、私ハ先刻藤澤商工
大臣ガ斯様ナコトヲ仰セラレタニ付テ、尙
ホ是非共同ハナレバナラヌ爲ニ登壇シタノ
デアアル、此機械萬端總テノ物ハ米國最新
式ノ物デアッテ、實ニピカ／＼シテ居テ、
何トモ云ヘヌ立派ナ物デアルト云フコトデ
アッタガ、貴方ハ何時ソレヲ御覽ニナツテ、左様
ナコトヲ仰シヤッタノカ、私ハ素人デアアルカ
ラ、鑄ドラケノ物デ、役ニ立タヌ物デア
ルト云フコトハ申上デマセヌケレドモ、今
政府デ之ヲ御引受ニナツタナラバ、思ハザ
ル支障ガ參シテ來ルモノト私ハ信ジテ居ル
者デアリマス、現在或ル部分ニ於テハ、非
常ニ錯ガ入ツテ居ルノデアリマス、又非常
ニ不完全ナ部分ガ、吾々ノ素人ノ眼ニモ見エ
ルノデアリマス、其點ニ於テハ先刻ピカ
ピカシテ居テ、總テノコト、保存耐久ノ
爲ニ、一般ノ手入萬端ハ行居イテ居ルト云
フ御話デアアルケレドモガ、私ノ昨七月ニ拜
見シタ模様ニ於テハ、全く商工大臣ノ仰セ
ラレルトコトハ、反對ノ結果デアッタノデア
リマス、其後ハ無論私ハ見マセヌケレドモ、
七月ノ後ニ又磨イテ非常ナ手入ヲシタカモ
知レマセヌケレドモガ、澤山ナ資本ヲ卸シ
テアツテ、日々使ハヌアノ大機械ヲ如何ニ
シテ掃除ヲ磁シマスカ、アノ掃除ヲ致シマ
ス爲ニハ、無慮數百人ノ人夫ト、容易ナラ
ヌ藥品ト、種々ナ材料モ要シテ、大變ナ費
用ガ掛ルモノデアルト私ハ思フノデアアル、
私ノ考ヘル所ニ依リマスレバ、全く政府ハ
此御提案ヲナサツタ爲ニ、政府ノ御提案ハ國
家ノ爲ニ有利ナルコトヲ御計畫ニナツテ、
云フコトヲ仰シヤルガ爲ニ、ピカ／＼シテ、
實ニ立派ナモノデアルト云フコトヲ仰シヤ
タニ過ギヌノデアッテ、要スルニ其仰セラレ
タコトハ、實際トハ甚ダ齟齬シテ居ルコト
デアルト信ズルノデアリマスガ、ソレハ齟
齬致サヌノデアリマスガ、マダ承リタイ事
ガ山ヒアリマスケレドモガ、私ハ此邊デ止
メマス、要スルニ斯ノ如キ事ハ今日ノヤウ
ナ國庫ノ財政甚ダ急テ告テ、國民ハ非常ニ

困シテ居ル時代ニ、此様ナ事ヲヤルベキ時
代トハ私ハ存ゼヌノデアアル、ソレデ政府ノ
御提案ニ付テハ吾々ハ遺憾ナガラ、ドウモ
賛成ハ出來ヌイノデアアル(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 藤澤商工大臣
(國務大臣藤澤幾之輔君) 御答致シマ
ス、曩ニ上デマシタ通り、現ニ五十萬圓内
外ノ製鋼ノ不足ノアルト云フコトハ、是ハ全
ク御異論ノ無イ所ト思フノデアリマス、サ
ウ致シマスレバ政府トシテ、殊ニ製鐵所ト
致シマシテハ、何トカシテ勿論一時ニハ是
ハ出來ルモノデアアリマセヌケレドモ、成タ
ケ國內カラ產出スルモノデ、國內ノ需要ヲ
滿シタイ、斯ウ云フヲ持タンケレバナリ
マセヌシ、又持ツベキ筈デアアルノデアリマ
ス、ソウシテ其結果ト致シマシテハ、五十
萬圓内外ニ對スル價額ノ輸入ガ起ツテ來ル
ノデアリマスカラ、ソレデ此輸入超過ニ憂
ヘテ居ル我國ト致シマシテハ、成タケ出來
ルダケ早クソレダケノ施設ヲシテ、其需用
ヲドウカ滿シテ行キタイ、サウシテ輸入超
過モ成タケ減少シタイ、斯ウ云フコトハ是
ハ當然ノ事デアアルノデアリマス、製鐵所ハ
御承知ノ通り、今日ハ特別會計ノ下ニ作業
ヲヤンテ居ルノデアリマスガ、現在追ツテ居
リマスモノハ此製鋼、ソレカラ壓延工場ノ
施設ノコトデアリマシテ、是ハドウシテモ
之ヲ增設致シマセンケレバ、所期ノ目的ヲ
達スルコトガ出來ナイノデアリマス、然ル
ニ偶、接着致シタ所ニ九州製鋼株式會社ノ
工場ガアルモノデアリマスカラ、幸ニシテ
之ヲ買收セント致スノデアリマス、全く國
家必要上此ニ出デタノデアリマシテ、何モ
今日突如トシテ斯ノ如キ事ヲ考ヘテ、之ヲ
議會ニ提出致シタノデアアリマセヌ、製鐵
所ハ前々カラ右ノ方ノ東洋製鐵所ノコトニ
付テモ考ヘ、左ノ方ノ製鋼所ノコトニ付テ
モ研究調査ヲ致シマシタ結果、今日ニ出デ
タノデアリマスカラ、ドウカ此所ハ誤解ノ
無イヤウニシテ戴キタイノデアリマス、
ソレカラ公債ノ發行ニ付テ御述ベニナリ
マシタガ、此公債ハ公募公債ナド、違ヒ

マシテ、曩ニ申上ゲマシタ如クニ、製鐵

所ノ特別會計ノ經理上、此方ガ持テ居ル

金ヲ出スヨリハ便宜デアアル、持テ居ル

金ヲ一時ニ出シテシマヘバ運用資金ニ困

ルヤウニナリマスカラシテ、此方法ヲ執

テヤツテ行クノガ最モ賢明ナル方法デア

ル、斯様ニ考ヘマシテノ事デアリマシ

テ、他ノ公債トハ是ハ全ク違フノデアリ

マス、ソレカラ此事業ヲヤツテ行ク結

果ハ屹度損失ヲスルト云フコトノ仰セデ

アリマシタガ、此點ニ付テハ御意見ハ御意

見ト致シマシテ、政府ノ方ニ於キマシテハ

曩ニ申上ゲマシタヤウナ計算ヲ立テ、居ル

ノデアリマス、併ナガラ斯様ナ御意見ノア

ルコトハ他山ノ石ト致シマシテ、事ニ從フ

者ノ爲ニハ洵ニ結構ナコトデアルト思フ

私ハ伺ヒタ位デアアルノデアリマス、ソレカラ

又此機械ガ精ビテ居ル、俺ハ見テ居ルガオ

前ハ何時見タコト云フ仰セデアリマシテ、

私間違フテ居ルコトハアリマスケレドモ、進

ンデ嘘ヲ吐クト云フコトハシタクナイ積リ

デアリマシテ、先刻モ自分ハ行テ見タイ

積リデ心懸ケテ居タケレドモ、今日マデ

行テ見ルコトハ出来ナカッタト云フコトヲ

申シテ居タノデ、是ハ或ハ其當時御席ニ

オキデニナラナカッタカ何カデ御聴取リ下

サラナカッタと思フデアリマスガ、實ハ

私ハ見マセヌ、ソレデ現ニ御覽ニナツテ居

タ貴方ノ御意見ニ反對スルヤウナ事ヲ申シ

テハ、見ナイ者ノ口カラハ可笑シイ話デア

リマスケレドモ、本來常識カラ考ヘテ、斯

ト致シマス

第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委

員ノ選舉

○砂田重政君 本案ハ議長指名九名ノ委員

ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ

御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認

メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程

第十六、鐵道敷設法中改正法律案ノ第一讀

會ヲ開キマス、鐵道大臣子爵井上匡四郎

君

第十六 鐵道敷設法中改正法律案(政

府提出) 第一讀會

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八ノ二 岩手縣花巻ヨリ遠野ヲ經テ釜

石ニ至ル鐵道

別表第五十號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

五ノ二 千葉縣我孫子ヨリ埼玉縣大

宮ニ至ル鐵道

別表第五十五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ五 新潟縣白山ヨリ新發田ニ

至ル鐵道

別表第七十號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七ノ二 愛知縣岡崎ヨリ舉母ヲ經テ

岐阜縣多治見ニ至ル鐵道

別表第十四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

百十四ノ二 長崎縣喜々津ヨリ矢上ヲ

經テ浦上ニ至ル鐵道

釜石間鐵道ハ、東北本線花巻驛ヨリ分岐

シ、仙人峠ヲ貫キ、東海岸釜石港ニ達スル延

長五十哩餘ノ橋斷鐵道ヲ、東海岸東北本線

トノ交通連絡上極メテ必要ナル線路デアリマ

スガ、途中ニ仙人峠ノ險ガアリマスノデ、私

設鐵道ハ到底之ヲ貫通スルコトガ困難デア

リマスカラ、今回之ヲ豫定線ニ編入シ、

將來國ニ於テ敷設セントスルモノデアリマ

ス、第二ノ我孫子大宮間鐵道、第三ノ與野

立川間鐵道ハ共ニ常磐、東北、中央ノ各線

ヲ連絡シ、第一大環狀ヲ構成シマシテ、東

京附近ノ輻湊セル輸送ヲ緩和スル爲ニ極メ

テ必要ナル線路デアリマス、又第四ノ白山新

發田間ノ鐵道ハ、越後鐵道白山驛ヲ起點ト

シ、羽越本線新發田驛ニ達スル延長十九哩

餘ノ鐵道デアリマシテ、羽越線ト越後線ト

ヲ介シテ日本海沿岸鐵道ヲ完成セシメ、信

越線ニ於ケル百貨輸送ノ輻湊ヲ調節スル上

ニ於キマシテ緊要ナル線路デアリマス第五、

岡崎多治見間鐵道ハ、東海道本線岡崎驛ヨリ

中央本線多治見驛ニ至ル延長三十六哩餘ノ

鐵道デアリマシテ、岐阜、太田、多治見間

線路ト相俟テ東海道本線ノ補助線トシテ輸

送緩ノ爲メ緊要ナル線路デアリマス、最

後ノ喜々津浦上間鐵道ハ、長崎本線喜々津

驛ヨリ浦上驛ニ至ル延長十三哩餘ノ鐵道デ

アリマシテ、長崎ト密接ナル利害關係ヲ有

スル矢上地方トヲ連絡セシメ、以テ地方産

業ノ發達ヲ促シ、且ツ肥前山口諫早間鐵道竣

成ト相俟テ、門司長崎間ヲ通ジテ最急勾配

百分ノ一ノ緩勾配線路ヲラシムル上ニ於テ

第十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委

員ノ選舉

○砂田重政君 本案ハ日程第三、水戸鐵道

會社外四鐵道會社所屬鐵道買收ノ爲公債發

行ニ關スル法律案ノ委員ト同一委員ニ併託

セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ

ハ御異議ガナイト認メマス、仍テ砂田君ノ

動議ノ如ク決シマシタ、日程第十八及第十

九ハ同種議案ナルニ依リ、一括議題トナス

ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 異議ナシト認メ

マス、仍テ日程第十八、大正十四年法律第

四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案、

日程第十九、大正十四年法律第四十七號衆

議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會ヲ

開キ、各別ニ提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、

提出者林田龜太郎君

第十八 大正十四年法律第四十七號衆

議院議員選舉法中改正法律案(林田

龜太郎君外一名提出) 第一讀會

大正十四年法律第四十七號衆議院議

員選舉法中改正法律案

別表中北海道第五區ノ次ニ左ノ一項ヲ加

フ

樺太 二人

附則

本法施行ニ關スル細則並期日ハ勅令ヲ以

テ之ヲ定ム

第十四

大正十四年法律第四十七號衆

議院議員選舉法中改正法律案(東武

君外二名提出) 第一讀會

大正十四年法律第四十七號衆議院議

員選舉法中改正法律案

別表中北海道第五區ノ次ニ左ノ一項ヲ加

ヘ「本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス」ヲ削ル

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

樺太 二人 附則

本法施行ニ關スル細則並期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔林田龜太郎君登壇〕

○林田龜太郎君 私人只今日程ニ上テテ居リマス...

土ニ再ビ歸リマシタガ、サウ云フ關係上樺太ハ元カラノ日本ノ領土デアリマシタカ...

コトデアリシ、特ニ「バルブ」ノ如キハ年額十萬噸ニ上リ、内地ニ要スルモノハ殆ド樺太カラ供給シテ居ルト云フヤウナ有様デア...

ノ二十萬ノ損失ハ申スマデモナク實ニ國家ノ損失デアリマス、之ヲ要スルニ樺太ニハ法律ハ殆ド盡ク行ハレテ居ルシ、租稅モ...

シマス
○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質
疑ノ通告ガアリマス、田淵豊吉君
〔早クヤレ〕「簡單」ト呼フ者アリ
〔田淵豊吉君登壇〕

○田淵豊吉君 非常ニ短カイカラ聴イテ
呉レ給ヘ〔簡單〕ト呼フ者アリ 重大問題
ダ……

○副議長(小泉又次郎君) 私語ヲ禁ジマス
○田淵豊吉君(續) 私ハ政府……(委員會
デヤレ)ト呼フ者アリ)私ハ委員會ニ出ラレ
ナイ、政府ノ意見ハドウ云フモノデア
ルカト云フコトヲ私ハ聞キタイ、是ハ當然私ハ
レナケレバナラヌモノデアルト思フ、然ル
ニ何故入レヌカト云フ理由ガ薄弱デア
ル場
合ハ、當然私ハ入ルベキモノト確信シテ疑
ハヌ、日本帝國ノ領土デアツテ、而シテソ
レガ土地ノ二極テ居ル、ソレデ日本人デア
ル、然ラバ樺太ヲ入レヌト云フノハドウ云
フ譯デア
ルカ、壹岐デモ對馬デモ皆ヤツテ
居ル、ドウ云フ譯デヤラヌカ、是ハハ的
確ナ理由ヲ擧ゲラレナケレバ當然入レナ
ケ
レバナラヌモノト確信シテ疑ハヌ〔早クヤ
レ〕ト呼フ者アリ)諸君ハ早ク々々ト云フ
ガ、何ヲ言フカ、重大問題デハナイカ、内
地ニ於ケル所ノ朝鮮人ハ一箇年デモ内地ニ
居レバ選舉ガ出來ルト云フコトヲ言フ、テ居
ルデハナイカ、然ラバ京城ニ居ル所ノ人ハ、
土地ノ二邊フケレドモ、人口ガ十萬二十萬
アレバ一人位出シテモ宜イ、青島モ欲シイ
ト云フヤウナコトヲ言フ、テ居ル、詰リ是ハ屬
人主義ト屬地主義トヲ混淆シテ居ル點デア
ルト思フ、ケレドモ屬人主義モ屬地主義モ異
ニシテ居ル所ニ於テ、何故選舉法ヲ施行シ
ナイカ、是程重大問題ハナイ(何ヲ怒テ
居ル)ト呼フ者アリ)僕ノ十分ノ時間ガ何ダ
(皆賛成シテ居ル)ト呼フ者アリ)然ラバ早
ク通スガ宜イ、ソレデ海員デモ色々廻リ歩
イテ居ル、即チ「フロートイング」スル人デ
モ、一定ノ住居ガアレバヤルト云フコトニ
シタガ宜イ、チヤント出來テ居ルノニ何
故之ヲヤラヌカ、ソレニ對シテ政府ハドウ
云フ見解ヲ持テ居ルカト云フコトヲ聞キ

タイ、ソレカラ第二ニ是ハ少シキツイカモ
知レマセヌガ、樺太ノ人口ハ現在ハ幾人ア
ルカ、サウシテ其增加率如何ト云フコトヲ
聞キタイ、日本ノ人口ノ增加率ト選舉區ノ
增加率ハドウウカト云フコトヲ聞キタイ、即
チ定員ヲ二人ニスルカ一人ニスルカ、是ガ
基點ニナル、ソレヲ明ニシタケレバナラ
ヌ、中々十萬デハナイ、ズット大キナ所ニ
居ル——增加率ガ非常ニ大キイ所ナラバ、
今カラヤツテモ二人デモ宜イト思フ、一方此
點モ明ニシナケレバ、他ノモノト少シ權衡
ガ取レヌ點ガアルト思フ、私ハ樺太ノア、
云フ所ニ成ベク多ク置ク、二人デモ三人デ
モ置クト云フコトハ賛成デアリマスケレド
モ、選舉法ト云フモノハソノソノデア
ナイ、權衡、均衡ト云フモノガアル、王子邊
ハ非常ニ多イト云フテ淺賀君ナドハ零シテ
居ルト云フ状態デア
ル、サウ云フ工合ニ他
ノ權衡モ能ク見テ、人口ノ增加率モ見テ適
切ナコトヲヤルト云フコトガ嚴正ナ法律ノ
命ズル所デア
ルト思フ、政府及提出者ノ意
見如何ト云フコトヲ問ウテ此壇ヲ下リマス

○石坂豊一君 此席デ一言提案者トシテ辯
明致シマス
○副議長(小泉又次郎君) 許可致シマス
○石坂豊一君 增加率ノ御質問デアリマス
ガ、目下彼地ニ於ケル人口ハ大正十四年ノ簡
易國勢調査ニ於テ我ガ同胞ガ二十萬三千人
居ルノデア
リマス、其中男子ガ十二萬五千、
女子ハ八萬デア
リマシテ、其比率ハ男子
六割、女子四割ト云フコトニナツテ居ルノ
デア
リマス、其男子ノ中デ二十五歳以上ノ
者ガ七萬三千人許リ居ルノデア
リマシテ、
是ハ恰モ内地ノ各選舉區ニ於ケル所ノ有權
者ノ二人位ニ相當シテ居ルノデア
リマス、
故ニ別表ニ二人ト云フ計算ヲ以テ此法案ヲ
編成致シタノデア
リマス、尙ホ人口增加率
ハ是モ國勢調査ノ既往五箇年間ノ成績ニ依
ルト、一萬八千乃至二萬ノ增加ニ相當スル
ト考ヘテ居リマス、之ヲ以テ答辯ト致シマ
ス

○田淵豊吉君 日本ノ人口總數ヲ四百六十
四人デ割ツタ時ニハ其數ガ幾ラデア
ルカ
〔ソノナコトハ割レバ分ル〕ト呼フ者アリ
ソレデ一番聞キタイ所ハ此選舉區ヲ二人ト
シテ居ラレルガ、人口ガ幾人アルカト云フ
コトヲ的確ニ承リタイ、私ハ是ハ一人デ宜
イノデナイカト云フ疑ガアルカラソレヲ明
ニシタイ、疑ガアリマスカラ御尋スルノデ
アリマス

○林田龜太郎君 人口十三萬人ニ付一人デ
スカラ、十九萬五千人以上アレバ四拾五入デ
二人トナルノデス、即チ樺太ノ人口ハ二十
萬三千五百人アリマス、又選舉人ハ内地デ
ハ三萬六千人一人ノ割、樺太ハ二人ニシ
テモ三萬六千人ヨリ少シ上ニナルカト思フ
ノデア
リマス
○砂田重政君 本案ハ……
〔田淵豊吉君議長々々ト呼フ〕

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ニ發言ヲ
許シマシタ
○砂田重政君 本案ハ議長指名十八名ノ委
員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ
○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ
御異議ガアリマセヌカラ、動議ノ如ク決シ
マシタ、日程第二十北海道農地特別處理法
案ノ第一讀會ヲ開キ、提出者ノ趣旨辯明ヲ
許シマス——丸山浪彌君

第二十二 北海道農地特別處理法案(九
山浪彌君外六名提出) 第一讀會
北海道農地特別處理法案
第一條 政府ハ北海道拓殖ノ爲自作農業
者ヲ扶植シ土地ノ利用ヲ增進スル目的
ヲ以テ勅令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル
土地ヲ買入若ハ收用シ又ハ之カ賣拂ヲ
爲スコトヲ得
第二條 前條ノ規定ニ依ル買入又ハ收用
ノ場合ニ於テ土地所有者其ノ他關係人
ニ支拂フヘキ對價又ハ補償金ハ勅令ノ
定ムル所ニ依リ國債證券ヲ以テ之ヲ交
付スルコトヲ得
第三條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付ス
ル爲六千萬圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコ
トヲ得
前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差補
額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ
前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコト
ヲ得
第四條 本法ニ依リ處理スヘキ土地ノ選
定、買入、收用、整理改良又ハ賣拂ニ
關スル事項ハ北海道農地特別處理委員
會ノ議ヲ經テ北海道廳長官之ヲ決定ス
ヘシ
北海道農地特別處理委員會ニ關スル規
程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五條 第一條ノ規定ニ依ル土地ノ收用
ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス但シ前
條第一項ノ規定ニ依ル決定ヲ以テ土地
收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス
第六條 本法ニ依リ賣拂ヲ爲ス土地ノ面
積及土地ノ買受人ノ資格ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム
第七條 土地ノ買受人ハ土地代金ノ百分
ノ十以上ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ所有
權ノ移轉ヲ求ムルコトヲ得但シ殘額支
拂ノ擔保トシテ其ノ土地ニ抵當權ヲ設
定スヘシ
第八條 土地ノ買受人ハ土地代金ノ全額
ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ其ノ土地ニ
質權、抵當權、地上權若ハ永小作權ヲ
設定シ又ハ其ノ土地ヲ貸付若ハ讓渡ス
コトヲ得ス但シ北海道廳長官ノ承認ヲ
得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 土地ノ買受人カ土地代金ノ全額
支拂前ニ前條ノ規定ニ違反シ又ハ買受
條件ニ違反シタルトキハ之ヲ直ニ
土地ヲ返還セシメ又ハ土地代金ノ殘額
ヲ一時ニ支拂ハシムルコトヲ得
第十條 本法ニ依ル土地ノ買入、收用又
ハ賣拂ニ關シテハ印紙稅及登録稅ヲ免
除ス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔丸山浪彌君登壇〕

○丸山浪彌君 本案提出ノ理由ヲ極メテ簡
單ニ申上ゲタイト思ヒマス、理由ハ簡單デ

トヲ得
前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差補
額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ
前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコト
ヲ得
第四條 本法ニ依リ處理スヘキ土地ノ選
定、買入、收用、整理改良又ハ賣拂ニ
關スル事項ハ北海道農地特別處理委員
會ノ議ヲ經テ北海道廳長官之ヲ決定ス
ヘシ
北海道農地特別處理委員會ニ關スル規
程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五條 第一條ノ規定ニ依ル土地ノ收用
ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス但シ前
條第一項ノ規定ニ依ル決定ヲ以テ土地
收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス
第六條 本法ニ依リ賣拂ヲ爲ス土地ノ面
積及土地ノ買受人ノ資格ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム
第七條 土地ノ買受人ハ土地代金ノ百分
ノ十以上ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ所有
權ノ移轉ヲ求ムルコトヲ得但シ殘額支
拂ノ擔保トシテ其ノ土地ニ抵當權ヲ設
定スヘシ
第八條 土地ノ買受人ハ土地代金ノ全額
ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ其ノ土地ニ
質權、抵當權、地上權若ハ永小作權ヲ
設定シ又ハ其ノ土地ヲ貸付若ハ讓渡ス
コトヲ得ス但シ北海道廳長官ノ承認ヲ
得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 土地ノ買受人カ土地代金ノ全額
支拂前ニ前條ノ規定ニ違反シ又ハ買受
條件ニ違反シタルトキハ之ヲ直ニ
土地ヲ返還セシメ又ハ土地代金ノ殘額
ヲ一時ニ支拂ハシムルコトヲ得
第十條 本法ニ依ル土地ノ買入、收用又
ハ賣拂ニ關シテハ印紙稅及登録稅ヲ免
除ス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔丸山浪彌君登壇〕

○丸山浪彌君 本案提出ノ理由ヲ極メテ簡
單ニ申上ゲタイト思ヒマス、理由ハ簡單デ

アリマスガ、本問題ノ解決ハ實ニ我國現下ノ國難救濟政策トシテ至大ノ關係ヲ持テ居ル問題デアリマス、而シテ既ニ今日ノ日程ハ此問題ヲ終リマスガ故ニ、暫クの間御清聴ヲ願ヒタイト思フデアリマス、諸君御承知ノ如ク本案ハ既ニ當議會ニ現ハレマシタルコト年既ニ久シ、再三再四ノ建議案トナリ、又法律案トナタリデアリマシテ、殊ニ昨年ノ五十一議會ニ於テハ委員會ハ之ヲ可決シテ法律案デアリマスケレドモ、不幸ニシテ會期切迫ノ爲ニ通過スルコトが出来ナカッタ、其時ニ於テ政府委員ノ俵内務次官ハ本問題ハ實ニ同感デアアル、賛成デアルト云フ意思ヲ表示セラレタコトモ御承知ノ通りデアリマス、唯、今や北海道ノ第二次拓殖計畫案ガ目ノ前ニ樹立ノ際デアアルガ故ニ、此計畫案樹立ニ於テ十分ニ明瞭スルカラ、此議會ニ於テ成立セシムルノ必要ガナイト云フ御意見ヲ以テ反對セラレタノデアリマス、然ルニ諸君今度ノ豫算案ニ於テ、第二次拓殖計畫案ハ果シテ北海道ノ農地ヲ有利ニ處理スル上ニ於テ適切ナル案ガ立テラレテアルカ如何デアリマセウ、私ガ申上ゲルマデモナク、農林省ニ於ケル所ノ自作農ノ創定ニ於テ、府縣同様ニ取扱ハレテ居ルト云フコトハ、實ニ吾々ノ遺憾トスル所デアリマス、隨テ本法案ノ提出ノ已ムヲ得ザル場合ニ立至ラノデアリマス、諸君、北海道ノ農地ノ價格ハ幾ラデアアルカ、私ノ申上ゲルマデモナク、府縣ニ於テノ田ノ平均ハ一段六百二十圓ノモノデアリ、畑ガ三百二十圓デアリ、北海道ハ田ガ百三十三圓デアリ、畑ガ三十圓内外デアリ、此北海道ニ於ケル所ノ民有未墾地、或ハ過大農場トモ云ヒ、或ハ不在農場トモ云フモノガ實ニ莫大ナル面積ヲ有シ、其數百二十万町歩ヲ超エテ居ルコトハ諸君ノ御承知ノコトデアリマス、此機會ニ於テ我國ノ土政策、食糧政策ト共ニ社會政策ヲ解決スル上ニ於テモ、此北海道ノ民有未墾地ヲ有益ニ、有利ニ拓殖スルト云フコトハ、實ニ現下ノ帝國ノ重大ナル問題デアリニモ拘ラズ、此政府案ハ府縣同様ニ、北海道ノ自作農ニ向ッ

テハ甚ダ冷淡デアリシコトヲ、私ハ遺憾トシテ茲ニ本案ヲ提出致シタル者デアリマス、マダ澤山ノ理由ヲ申上ゲテ御參考ニ供シタイト思ヒマスケレドモ、時間ノ關係上遺憾ナガラ簡單ニ此程度ニ於テ止マラスガ、尙ホ質問者ガアルサウデアリマスガ故ニ、更ニ私ヨリ答辯スルカ、或ハ他ノ提出者ヨリ答辯ガアル筈デアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、坂東幸太郎君

(坂東幸太郎君登壇)

○坂東幸太郎君 只今丸山君カラ北海道農地特別處理法案ニ對スル御說明ガアリマシタ、私ハ此法案ニ付テハ多クノ疑ヲ持テ居リマス者ナルガ故ニ、簡單ニ二三ノ點ニ付テ御質問スルノデアリマス、丸山君ノ御說明ノ如ク北海道ノ開拓ガ我國ノ人口食糧政策上、極メテ緊要ナモノデアルト云フコトニ付テハ、全ク同感デゴザイマス、ソレデアアルガ故ニ彼ノ第一期拓殖計畫ハ昨年度ヲ以テ終了致シ、第二期拓殖計畫ハ即チ昨午民間委員モ加ヘテ、調査會ニ於テ完全ニ調査ガ完了シ、今ヤ本議會ニ提案セラレテ居ルノデゴザイマス、ソレ故ニ此第二期拓殖計畫ト此法案ト云フモノハ、多少矛盾スル嫌ガアルト云フ點ヲ第一ニ御伺スルノデアリマス、只今丸山君ハ第二期拓殖計畫中ニハ、未利用地ノ開發ト云フコトハナイト云フ御説ガアリマシタガ、ソレハ多少間違テ居ルヤウニ思ヒマス、私モ民間委員ノ一人デアリマカカラ、先ヅ其點ヲ明瞭ニシタイ、即チ未利用地ノ開發ニ付テハ、拓殖計畫ノ中ニ於テ約五千万圓ノ程度ニ於テ、土地ヲ買入レル場合ニハ、低利資金ヲ供給スルコト云フ所ノ特權ヲ與ヘテアルノデアリマス、而シテソレニ對スル低利資金ノ利息ノ四分八厘ハ、其中三分五厘ハ土地買受人ノ負擔トナシ、一分三厘ハ拓殖費カラ之ヲ負擔スト云フコトニナツテ居リマシテ、其經費ガ即チ七百七十五萬圓ト云フモノガ計上セラレテ居ルノデアアル、言換ヘマスレバ五千万圓ヲ以テ、北海道ノ未利用地ハ之ヲ開發スルコト云フ所ノ方針ガ、第二期拓殖計畫

ノ中ニ於テ明瞭トナツテ居ルノデアアル、然ラバ北海道ノ未利用地ハドレ程アルカト申シマスレバ、恐ラク二十万町歩内外デアリマセウ、未利用地デアリマスルカラ、或ハ一反二、三十圓ノ相場デアリマセウガ、此未利用地ニ對スル政策ト云フモノハ、第二期拓殖計畫ニ於テ明瞭ニナツテ居ルト私ハ考ヘルノデアアル、隨テ此法案ニアルガ如ク、政府ハ六千万圓ノ程度ヲ以テ未利用地ヲ買上ゲルト云フコトハ、是ハ屋上屋ヲ架スルガ如キモノデアアル、即チ第二期拓殖計畫ノ根本ヲ破壊スルモノデアラウト本員ハ考ヘテ居ルノデアアル、隨テ此點ニ付テ先ヅ御尋フシテ見タイノデアリマス、又此法案ノ中ニハ六千万圓ヲ限テ公債ヲ發行シテ土地ヲ買フト云フコトニナツテ居リマスガ、而モ其公債ノ利子ト云フヤウナ點ヲ少シモ書イテナイノデアアル、然ラバ土地ヲ買フ場合ニ若シモ發行價格ガ非常ニ安イ時ニハ、此公債ガ或ハ七千万圓トナリ、八千万圓トナルカモ知ラズ、極メテ不明瞭ナル規定ト謂ハナケレバナラズノデアアル、此點ニ付テモ御考ヲ聞キタイノデアリマスルガ、又土地ノ價格ニ付テハ、即チ第五條ニ依テ土地收用法ヲ適用スルト云フ規定ガゴザイマス、是ハ第五十議會ニ御提案ニナツタ時分ニハ其規定ガ無クッタ、其提案ニ反對ガアッタカラソレヲ補フ爲デアリマセウガ、併シ吾吾ガ憂ヘルノハ、土地ヲ買フ場合ニ非常ニ價格ヲ釣上ゲルト云フコトヲ第一ニ虞レルノデアリマス、是ガ世上ニ於テ、其法案ハ大地主ノ救濟策デアルト云フ非難ガアル根本ノ原因デアアル、然ラバ土地收用法ヲ適用スレバ價格ガ安ク買ヒ得ルカト申セバ、御承知ノ通り土地收用法ハ收用スルト云フ法律デアリマシテ、價格ノ強制ト云フコトハ事實ニ於テハ出來ナイノデアアル、然ラバ現在例ヘバ一反步二十圓ノ土地ガ買上ゲンタル場合ニ三十圓トナリ、或ハ五十圓トナルコト云フヤウナ虞トナリ、斯カル危險ナル事ヲ圖シテ、サウシテ第二期拓殖計畫ノ施設ノ所謂系統ヲ破壊シテマデモ、斯カル法律ヲ拵ヘル必要ハナイヤウニ私ハ考ヘル

ノデアリマス、又次ニ御伺シタイノハ、土地ノ買受ハ土地代金ノ百分ノ十ヲ支拂ハナケレバ所有權ノ移轉ヲ求メルコトが出来ヌノデアリマスガ、然ラバ政府ハ六千万圓ノ國庫證券ヲ地主ニ與ヘ、サウシテ土地ヲ買上ゲタ場合ニソレガ百分ノ十以上ニ——言換ヘマスレバ或ル代金ノ拂込ガナケレバ所有權ヲ與ヘナイトシタナラバ、即チ政府ハ多クノ土地ヲ買込ンデ、而シテ其處分ニ窮スルト云フヤウナ結果ニナルト云フコトヲ私ハ憂ヘルノデアリマス、此點ニ付テモ御伺シタイ、又丸山君ハ北海道ノ開拓ニ付テ非常ニ急務ヲ叫ンデ居ルガ、ソレ程此法案ニ依ッテ開拓ガ促進サレルナラバ、何故ニ附則ノ本法ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ムト云フコトヲ書イテアリマスガ、即チソレ程急ガナラバ、直ニ之ヲ施行スルト云フノガ當然ノ如ク思フガ、政府ノ絕對ニ信任シタ結果デアルカ知リマセウガ、餘リニ生温イ附則ノヤウニ考ヘル、此點ニ付テモ提案者ノ御考ヲ聞キタイ、又政府ニ向ッテモ伺ヒタイ次第デアアル、即チ政府ノ今現ニ提案シテアル、拓殖計畫ト即チ矛盾スル所ノ法案デアリ、又公債政策トモ矛盾スル法案デアリマシタルカラ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ルカト云フコトモ、併セテ御伺シタイノデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 丸山浪彌君

(丸山浪彌君登壇)

○丸山浪彌君 極ク簡單デスガ、只今坂東君ノ御質問ニ對シテ拓殖第二期計畫案ト矛盾セラル、ト云フ御説デアリマスガ、勿論吾吾ハ第二期拓殖計畫案ニ賛成ノ意見ヲ持ッテ居ラヌ者デアアル、此故ニ屋上屋ヲ架スルモノデアアルト云フガ、此故ニ屋上屋ヲ架スルモノ時分ニハ、自然ニ拓殖計畫案ノ豫算ニ變更ヲ來スト云フコトハ何等ノ差支ナキコトデアアル、又此調査會ニ於テ、民間ノ委員ノ人ガ入ッテ拵ヘタ拓殖計畫案ガハナイカト云フヤウナ御意見ガアリマシタガ、斯ノ如キ事ハ寧ロ私が答辯シナイ方が質問者ノ御趣意ニ合ヒハシナイカト私ハ思ヒマスルガ故ニ、斯様ナ事ニ向ッテハ敢テ答辯ノ必要ヲ

ノデアリマス、又次ニ御伺シタイノハ、土地ノ買受ハ土地代金ノ百分ノ十ヲ支拂ハナケレバ所有權ノ移轉ヲ求メルコトが出来ヌノデアリマスガ、然ラバ政府ハ六千万圓ノ國庫證券ヲ地主ニ與ヘ、サウシテ土地ヲ買上ゲタ場合ニソレガ百分ノ十以上ニ——言換ヘマスレバ或ル代金ノ拂込ガナケレバ所有權ヲ與ヘナイトシタナラバ、即チ政府ハ多クノ土地ヲ買込ンデ、而シテ其處分ニ窮スルト云フヤウナ結果ニナルト云フコトヲ私ハ憂ヘルノデアリマス、此點ニ付テモ御伺シタイ、又丸山君ハ北海道ノ開拓ニ付テ非常ニ急務ヲ叫ンデ居ルガ、ソレ程此法案ニ依ッテ開拓ガ促進サレルナラバ、何故ニ附則ノ本法ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ムト云フコトヲ書イテアリマスガ、即チソレ程急ガナラバ、直ニ之ヲ施行スルト云フノガ當然ノ如ク思フガ、政府ノ絕對ニ信任シタ結果デアルカ知リマセウガ、餘リニ生温イ附則ノヤウニ考ヘル、此點ニ付テモ提案者ノ御考ヲ聞キタイ、又政府ニ向ッテモ伺ヒタイ次第デアアル、即チ政府ノ今現ニ提案シテアル、拓殖計畫ト即チ矛盾スル所ノ法案デアリ、又公債政策トモ矛盾スル法案デアリマシタルカラ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ルカト云フコトモ、併セテ御伺シタイノデアリマス

感ジマセヌ、唯、第二次拓殖計畫ハ極メテ今日ノ國家政策ノ上ニ消極政策デアルガ故ニ、吾々ハ積極的ニ國家ガ土地收用法ヲ利用シテ、此荒地ヲ買上ダテ、サウシテ積極的ニ自作農ヲ創設シヤウト思フノデアアルガ、此第二次拓殖計畫案ナルモノハ、北海道ヲ拓殖地タルコトヲ忘レテ府縣同様ニ取扱フテ居ルト云フコトガ、甚ダ私ガ其意ヲ得ヌ所デアアル、諸君、此問題ハ殊ニ質問者ハ御承知ノ筈デアアルガ、前長官土岐君、又現長官中川君モ吾々ト共ニ此趣旨ニ於テ立案セラレタモノガ、中央ニ來テ政黨の關係、即チ此非募債主義ト云フ根本的反對ノ關係ヨリシテ、吾々ノ希望ト云フモノガ、容レラレナイト云フコトモ坂東君ハ御承知ノ筈デアアル、殊ニ北海道ニ於テハ、道會ニ於テハ政黨派ヲ超越シテ憲政會モ政友會モ、政友本黨モ滿場一致ヲ以テ吾々ガ主張セル所ノ此法案ノ成立ニ、建議案ヲ提出シテ居ルト云フコトモ御承知デアラウト思フ、決シテ此法案ハ大地主救済策デアルト云フガ如キ一部ノ者ガ譏誣中傷ヲ爲スヤウナ吝臭イ法案デハナイ、眞ニ此法案ハ國家國策ノ上ニ立脚シテ居ル所ノ法案デアアル、唯、坂東君ハ委員ニハ當ラレヌカモ知レマセヌガ、委員デナクテモ委員會デ質問ヲ爲スコトガ出來マス、唯、採決ニ加ハルコトガ出來ナイ、質問ハドウソ委員會ニ於テセラレンコトヲ希望致シマス

〔政府委員俵孫一君登壇〕

○政府委員(俵孫一君) 坂東君ヨリ政府ノ法案ニ對スル意見ノ御尋デアリマシタカラシテ簡單ニ申上ダテ置キマス、本案ニ付テハ御趣意ハ自作農創定ノ御趣意デアアルノデ、此御趣意ニ反對ナキノミナラズ極メテ賛成デアリマス、併シ本案ガ果シテ其御趣意ノ通り實行出來ルカドウカハ大ナル疑問ガアリマス、殊ニ本案ニ付テハ、其本案ノ目的タル通りニ出來ルカドウカニ付キマシテハ、未ダ直ニ出來ルト云フコトヲ申上ダレ委員會ガ開ケララウト思ヒマスカラ、委員會ニ於テ詳シク意見ヲ申上ダタイト思

ヒマス、大體ニ於テ俄ニ本案ニ政府ハ賛成ガ出來ナイト云フコトダケノコトヲ申上ダテ置キマス

○砂田重政君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○砂田重政君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス

○副議長(小泉又次郎君) 砂田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、此場合御諮リ致スコトガアリマス、第四部選出豫算委員田崎信藏君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナケレバ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ヒ、御届出アランコトヲ望ミマス、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ散會致シマス

午後六時十八分散會

